令和５年度
生活文化調査研究事業（盆栽）
報告書

文化庁　参事官（生活文化創造担当）

目　　次

序　本調査研究事業について 1
１章　盆栽の歴史と現状について 2
１節　日本における盆栽の歴史について 2
１－１　盆栽の概要 2
（１）盆栽について 2
盆栽とは 2
盆栽の種類 2
盆栽の樹形 3
（２）担い手について 3
盆栽園 4
盆栽を愛好する者 4
（３）盆栽の仕立てと鑑賞 4
盆栽の仕立て方 4
盆栽の鑑賞 6
１－２　日本における盆栽の歴史 8
（１）盆栽前史 8
史料に見える鉢植え 8
「鉢木」や「盆山」の流行 8
（２）江戸時代の園芸趣味の流行 9
園芸趣味の広まり 9
鉢木の造形 9
中国趣味と文人木 9
（３）近代盆栽の誕生と展開 10
造形の変化 10
盆栽園 10
（４）盆栽愛好の展開 10
近代盆栽と皇室 10
盆栽雑誌の登場 11
大正時代の盆栽村の誕生 11
（５）国風盆栽展の始まり 12
陳列会、座敷飾り 12
国風盆栽展の開催 12
（６）戦後の国内国外での盆栽の広まり 13
２節　現代における盆栽の現状と社会的な位置付けについて 15
２－１　現代社会における盆栽 15

（１）現代社会における盆栽 15
愛好者と盆栽園 15
盆栽愛好の新しい潮流 15
（２）国内外の盆栽業の概況 15
盆栽に係る全国団体の活動 15
盆栽展について 16
盆栽業者・盆栽園の現況 16
盆栽の輸出状況 17
盆栽関係者への評価 19
２－２　国民意識調査について 21
（１）調査の概要 21
■調査設計 21
■調査結果を見る上での注意事項 22
（２）調査結果概要 23
１．属性 23
２．共通設問 26
３．単純集計の結果について 30
２－３　海外からの評価と国際発信 80
海外における盆栽への評価 80
世界盆栽大会 81
盆栽の国際発信について 82
２章　盆栽団体・盆栽園の活動について 84
１節　盆栽団体の活動について 85
１－１　盆栽団体へのアンケート調査の実施概要 85
１－２　盆栽団体へのアンケート調査の結果概要 86
（１）盆栽団体の活動（直近３年）について 86
（２）盆栽の継承について 90
（３）新型コロナウイルス感染症の影響について 95
１－３　まとめ 96
団体の活動内容 96
盆栽文化の継承 97
新型コロナウイルス感染症の影響 99
２節　盆栽園の活動について 100
２－１　盆栽園へのアンケート調査の実施概要 100
２－２　盆栽園へのアンケート調査の結果概要 101
（１）盆栽園の普段の活動について 101
（２）盆栽の継承について 107

（３）新型コロナウイルス感染症の影響について.....115
２－３　まとめ.....116
盆栽園の活動内容.....116
盆栽文化の継承.....117
新型コロナウイルス感染症の影響.....119
結　本調査研究事業のまとめ.....120
参考資料　有識者（盆栽）及び有識者会議検討経過.....124
参考資料　盆栽の用具と原材料について.....127
（１）概要.....127
（２）国内市場の伸び悩み.....132
（３）用具・原材料製造の人手不足、後継者不足による供給不足.....133
参考資料　国民意識調査 調査票.....134
（１）属性.....134
（２）フィルタリング・パート.....135
（３）分野設問.....137
（４）共通設問.....181
参考資料　盆栽団体調査アンケート配布先.....185

序　本調査研究事業について

１．本事業の目的

文化庁では、平成27年度以降、生活文化を把握するための調査研究事業等を継続的に実施している。令和元年度には、盆栽を含む生活文化に係る８分野について、各分野の全国的な団体に対するアンケート調査を実施し、活動状況及び各分野における課題等について把握を行った。翌令和２年度には、書道・茶道・華道の各分野について、分野ごとの歴史的変遷や社会的位置付け、各分野における無形の文化的所産に関する実態把握を目的とした調査を実施し、報告書を公表している。

本事業においては、盆栽をはじめとする６分野を対象として、令和２年度の調査内容に準ずる形で調査研究事業を実施し、各分野の詳細な実態把握を行うことを目的としている。

令和３年度には、歴史的変遷や社会的位置付けに関する学術論文等の調査を実施、翌令和４年度には、各分野に対する国民の興味関心等の意識を把握するインターネット調査を実施した。令和５年度の調査研究事業は、上述した令和３年度、４年度の盆栽についての調査結果等を踏まえ、更に盆栽に関わる団体や盆栽園のアンケート調査、盆栽の用具・原材料についての調査を行い、全体として取りまとめることで、生活文化の盆栽分野の保護・振興策の検討に資する基礎資料とすることを目的としている。

※文化芸術基本法（平成 13 年法律第 148 号）
第十二条　国は，生活文化（茶道，華道，書道，食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに，国民娯楽（囲碁，将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため，これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

２．本事業の概要

本事業は、盆栽がおかれている現状等について詳細な実態把握を行うため、

- 盆栽の成立、変遷を把握するための文献調査
- 盆栽への興味・関心等に関する国民意識調査
- 盆栽の生産者、作家、愛好者の団体（以下この報告書では「盆栽団体」という。）へのアンケート調査
- 盆栽園へのアンケート調査
- 盆栽用具・原材料に関する製造業者等へのヒアリング調査

を行い、計９回の有識者会議を経て、報告書としてまとめたものである。

なお、今回の調査では、盆栽用具・原材料に関する調査が十分に行えず、網羅的な調査にならなかったことから、これらの調査結果の分析については参考資料への掲載にとどめた。

１章　盆栽の歴史と現状について

１節　日本における盆栽の歴史について

１－１　盆栽の概要

（１）盆栽について

盆栽とは

盆栽は盆器（ぼんき）等[1]に樹木を植え付け、その樹木を育てながら姿形に手を加えていき、年数をかけて仕立てることで、鉢の中に自然の要素を抽出して再構成したり、一つの自然の景色を縮小・再現したりして生み出していくものを指す[2,3]。

仕立てた樹木の姿や、鉢の中に生まれた趣ある景色を鑑賞することだけでなく、樹木を培養し、育てていく過程自体、いわゆる“盆栽いじり”を楽しむことが盆栽という文化の核の一つにあり、盆栽の鑑賞を楽しむ層と実践している人の層がほぼ重なる点にも特徴がある。また、盆栽は生きている植物であり、姿形は日々変化し完成するということがない点、人が植物と対話をしていく中で作り上げられていく点にも特徴がある。

なお、本調査では日本で発展してきた盆栽を調査対象とし、中国や韓国などで行われている「盆景」[4]等は取り扱わないこととする。

盆栽の種類

・樹種による分類

盆栽に用いられる代表的な植物はゴヨウマツに代表されるマツ類、また、ヒノキ科針葉樹のシンパク（ビャクシン）で、これらを特に「松柏（しょうはく）盆栽」と呼んでいる。根や幹が様々な造形美を見せること、マツ類もシンパクも常緑樹であり四季を通じて変わらぬ風情を楽しめることが特徴である。松柏は生命力が強いことから、何世代にもわたって伝えられる名品も数多く存在する。

松柏盆栽に対し、季節等による変化がある樹種を用いた盆栽を総称して「雑木（ぞうき）盆栽」と呼んでいる。代表的な樹種としては、紅葉するモミジ、カエデ（葉物盆栽）や、花を咲かせるフジ、サツキ（花物盆栽）、果実のなるカリン、ザクロ、カキ等（実物盆栽）がある。花物盆栽のうち、特にサツキ盆栽の愛好者は多く、一つの大きな潮流となっている。また、床の間飾りをする場合などに下

---

1 「盆器」とは、盆栽業界で樹木等を植える植木鉢などの器のことを指す。
2 依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年
3 農林水産省が平成 27 年（2015）に盆栽関係者に対して行ったアンケートの際には、盆栽は「自然美を鑑賞する目的で、剪定や針金掛け等の技巧を凝らし、わい化させた１m50cm 以下の木本性植物（苗を除く）を当該植物と一体的に鑑賞することを目的として制作された鉢で管理しているもの」と定義している。（農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年）」（URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf　最終確認日：令和５年１月 31 日）
4 中国で親しまれている「盆景」について、李樹華は盆景の名称に関する研究の中で、中国の盆景を「鉢の中の景色(盆中景)を意味し、植物、石、水、土などを材料とし、独自の園芸技術により限られた鉢の中に自然の美しさを濃縮し、その景色を表現することをその目的としている。」と説明している。（李樹華「中国盆景名称考」（『ランドスケープ研究 ： 日本造園学会誌』58 巻５号、社団法人日本造園学会、平成７年 p.61 - 64））

草として飾られるものを、草物盆栽（山野草）と呼ぶ。樹木に比較し管理がしやすい草物は、盆栽の入門編のような位置付けで愛好されることがある。

・大きさによる分類

盆栽の大きさにより小品盆栽、中品盆栽、大品盆栽に分けられる。本報告書において単に盆栽という場合は、20㎝以上の中品以上の盆栽を主たる対象とする。

盆栽の樹形

盆栽の樹形は自然の風景を原型としながら、固有の美意識の下で造形的に高められてきたものである。樹形は幹の向きや数の違いにより様々に呼称されており、一本の幹が上に向かって垂直に伸びる形を「直幹（ちょっかん）」、Ｓ字状に曲がるなど幹に変化があるものを「模様木（もようぎ）」、幹が一方向に傾いているものを「斜幹（しゃかん）」と呼び、真っ直ぐ伸びる幹から複数の枝が放射状に広がって出ている樹形を「箒立（ほうきだ）ち」と呼ぶ。斜幹のうち、幹から出る枝を一方向に向け、植物が強い風になびいている姿を表現したものを「吹（ふ）き流（なが）し」と呼ぶ。幹が根元より下方に垂れ下がっている「懸崖（けんがい）」は、切り立った崖に生えた樹木の姿を表現した樹形である。また、細い幹で上方にだけ枝を残した樹形は、江戸時代の文人趣味を残したものとして「文人木（ぶんじんぎ）」と呼ばれる。

幹の数による呼称としては、幹が１本の「単幹」、一株の根元から２本の幹が出ている「双幹」、幹が３本の「三幹」、５本の「五幹」、７本の「七幹」があり、それ以上の幹を持つものは「株立ち」と呼ぶ。一鉢に複数の植物を植えて森林の趣等を表すものは「寄せ植え」、複数の幹が一つの根元から出ている場合は「根連なり」と呼ぶ。

根の形態にもその姿形から分類があり、モミジ類の根が盤状に癒着した「盤根」、複数の根が土から露出して幹のようになっている「根上がり」等がある。

このほか、石の窪みにケト土等を入れて植物を培養する、あるいは鉢の中に石を造形的に組み込んだものを「石付き」と呼んでいる。

（２）担い手について

盆栽文化の担い手としては、苗木の生産者、盆栽業を営み植物を盆栽として仕立てる盆栽園、盆栽を愛好する者がいる。盆栽を愛好する者には、趣味として盆栽を愛好する者から、プロに準ずるような活動をする者まで、幅広い層が含まれる。今回はそれらの者や、それらに係る団体等を主たる調査対象とする。

盆栽園

盆栽園は現在、全国に約 470 軒あると推計され[5]、特に大宮盆栽村によって盆栽業が盛んになった埼玉県、江戸時代から園芸業が盛んだった歴史を持つ東京都及び松の生産地である香川県に数多く存在する傾向にある。なお、盆栽園の現状としては、盆栽園の園主の高齢化、後継者不在、園経営のスタッフ不足、地価高騰等による相続問題により盆栽園は減少していることが指摘されている。

盆栽を愛好する者

盆栽の愛好者は主に、自ら盆栽を育て剪定や管理を行い、鑑賞を行っている者が想定される。また、自ら盆栽を有してはいないが、盆栽展等を観覧することを楽しむ者もいることが推察される。

自ら盆栽を所有している者の中でも、盆栽展への出品を行っている場合と、盆栽展には出品せず個人で楽しむ場合に分けられる。盆栽展への出品は、盆栽園を窓口として出品される仕組みであり、展覧会ごとに設定された規定サイズに応じた調整等を含め、盆栽園の職人による仕上げを経て出品が行われていることが多い。特に、大品盆栽については、剪定や管理など専門的な技術を有する場合があり、盆栽を所有する者と盆栽の仕立てを行う者が異なっている点に特徴が見られる。

なお、盆栽を愛好する者についての正確な人数及び経年変化については、社会生活基本調査等の統計調査が行われていないため不明であるが、高齢化が進み、若年層の参入は得られていない傾向にあると指摘されている[6]。

（３）盆栽の仕立てと鑑賞

盆栽の仕立て方

盆栽を愛好する者や盆栽園の職人は、樹木を盆栽として好ましいと考える樹形として仕立てていくために、日頃から植物の剪定や仕立て、管理を行う。仕立てる作業としては、枝の剪定・根の整理、針金かけ、鉢合わせ、水やり等があり、盆栽を理想とする樹形に仕立て、長く育てていくためには、それぞれ植物の性質を十分に踏まえて作業を行う必要がある。

・植え付け、植え替え、鉢合わせ

盆栽苗から鉢に植え付ける際には、鉢は苗の樹齢や樹形に合わせて選択する。また、植え付けた後も、根を更新して通気性や排水性を改善するために、定期的に用土を交換する植え替えが行われる。

数年間育てて樹形ができてきたら、強い根を伸びやすくするため、長過ぎる根や細い根などを整理した上で、一～二回り小さな鉢に植え替えを行う。樹木の種類や樹形に合わせた鉢映りの良い盆

5 農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年)」(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf　最終確認日：令和６年２月 15 日）に、アンケート対象として「関係者の協力を得て把握した全国の盆栽園（473 園)」と記載がある。

6 金融財政事情研究会発行『第 14 次　業種別審査事典』きんざい、令和２年 p.1511-1519

器を選ぶことを「鉢合わせ」と言い、古木感や大木感を演出する。鉢合わせの際には、鉢と樹形のバランスや空間の余白を考慮に入れて植え替えが行われるほか、「懸崖」のような幹や枝が垂れ下がったような盆栽にする場合は、樹木を鉢に対して斜めに植え付ける工夫が行われる例もある。

・剪定

剪定は樹形を整え、また、日照や通風を改善し病害虫の発生を防ぐ等の目的のために行われる。

まず、剪定を行う時期としては、樹木の生長期と休眠期が適しており、それぞれの時期に行われる剪定は目的や効果が異なっている。春や夏の生長期に行う場合の剪定は、芽や葉を減らすことで、樹勢を抑えて樹形を保つとともに、風通しや日当たりを良くすることで、樹木の健康を維持する目的がある。一方、休眠期に行う剪定は、形作りたい盆栽の樹形に対して、不要となってしまうような枝を整理し、形を整える目的で行われる。この他の時期にも、樹形を維持することを目的として定期的な剪定が行われる。

剪定の仕方はその目的によって異なり、樹木等のどの部分をどの程度切るのかを変えることで、樹木の樹勢を抑えたり、小枝を伸ばして樹形を整えたり、風通しや日当たりを良くするために行われる。また、「忌み枝」と呼ばれるような、樹形のバランスを崩してしまうような枝がある場合も、剪定によって取り除くことがある。

剪定の種類としては、樹形を整えるために長く伸びた枝を切る「切り戻し」や、樹木のサイズを維持するために生長期に全体を一回り小さくする「追い込み」、新芽を摘み取り脇芽の萌芽を促すことで、樹形を保ったり小枝を増やす効果がある「芽摘み」、芽摘みの後に成長してきた葉を、葉柄を残して切り取ることで小枝を伸ばしたり、樹勢を平均化したりする「葉刈り」、樹形を整えるために不要となる枝を元から切り取る「間引き」、樹形を見ながら葉の量を調整して風通しや日当たりを良くしたり、樹木全体の葉の大きさを整える「葉すかし」等が挙げられる。

また、樹木の枝や葉の剪定のみならず、根の通気性を良くしたりするために、根の剪定も行われる。

・針金かけ

「針金かけ」と呼ばれる作業は、剪定と同じく樹形づくりを主な目的としたものである。針金をかけて枝を矯正することで、樹形として枝が欲しい位置に枝を移動させたり、枝に流れや表情を加えたりすることができる。

幹へ針金かけを行う場合、株元から 45°の角度で等間隔に巻き上げる。また、かけた針金がずれないように針金の先端を土の奥に差し込んだり、場合によっては鉢底に針金を固定したりする方法もある。

枝への針金かけの例としては、２本の枝にＶ字にかけ、等間隔に針金を分枝部分から先端まで巻き上げるなど、部分に応じた巻き方がある。なお、枝の向きを左方向へ矯正したい場合は左巻き、右方向の場合は右巻きで針金かけをしていく。

針金をかけたままにすると樹木に傷がつくため３～６か月で針金を外し、成形が十分ではない場合には、数か月間空けてから再び針金をかけて、樹形に沿った枝の向きへと整えていく。なお、針

金かけの際に用いる針金は、樹種や幹、枝の太さ等に適した太さや素材のものが用いられる。

・水やり

小さい鉢は土が乾きやすく、植物が水切れを起こしやすい。一方、水をやりすぎると根腐れが起きるため、それぞれの鉢に最適な水やりをすることが重要とされている。

土が乾いたら鉢底から流れ出るまでたっぷりと、鉢の中に均等に行き渡るように、じょうろで根元に水を回しかけるのが基本とされている。ただ、樹木によって水を好むもの、好まないものなどの特徴があるため、樹木の特性を考慮しながら水やりをする必要がある。

そのほか、それぞれの樹種に適した温度や日照条件になるよう置き場を工夫する、施肥を行う、などの日々の管理が重要とされている。

盆栽は、枝の剪定・根の整理、針金かけ、鉢合わせ、水やり等の作業を経て、望ましい樹形へと仕立て上げられる。そのために、様々な知識や経験、技術を用いて造形を行っているが、展覧会において展示する際には、人工的な部分はできるだけ見せず、素材である植物の姿を生かしながら、自然の美しさや厳しさを美的に表現することが重視される。

盆栽の鑑賞

・鑑賞のポイント

盆栽は植物の美しさ、自然美や、植物と鉢のバランス等を鑑賞する。鑑賞する際には盆栽全体の姿だけではなく、枝ぶりや幹肌、根張り等、植物の各部分にも着目し、盆器の中に凝縮して表された大自然の景色を楽しむ。小さい中に大きな世界を見るという要素は盆栽の価値観として重要視されている。加えて、鑑賞時には造形だけでなく風格や古色も重視される。なお、美術館や展覧会で展示される盆栽を鑑賞する場合は、原則的に正面から行う。

植物の各部分の鑑賞のポイントとしては、立ち上がりの美しさ（根元から最初の枝までが力強く、自然な動きが感じられるか）、枝ぶり（大きな枝がバランスよく交互に配されているか、不必要な枝がないか、枝先は細かく分かれているか）、幹肌（樹種によって異なるが、若さより時代が乗っていることが重視され、特に松は幹肌が荒れて何層にも重なっているものがよしとされる）、根張り（根が表土の上に力強く現れているか、八方に根が張っているか）等がある。

そのほか、切り傷の有無や葉性（葉の細かさ等）、木が健康であるか、鉢と木が合っているか（鉢映り）、飾り台とのバランスはどうかといった点も、盆栽を鑑賞するポイントとなる。

一方、全体の姿形を損なうとして嫌われる「忌み枝」と呼ばれるものがあり、幹を貫くように左右に伸びる「閂枝（かんぬき）」や、下に落ちるように伸びる「落ち枝」、盆栽の正面から前に飛び出す「前枝」、上下の枝が交差している「交差枝」、幹を横切って伸びる「幹切り枝」等がある。

・盆栽の展示方法及び展示・鑑賞の場

盆栽を展示し鑑賞する際は、卓（しょく）という木製の花台・飾り台の上に置く。卓は基本的に唐木の指物（さしもの）で、高さにより平卓、中卓、高卓と呼び分けられる。また、飾り棚も用いられる。卓や飾り棚は、盆栽の形や大きさに合わせて選ばれる。

展示・鑑賞の場としては、国風盆栽展や日本盆栽大観展など恒例的に実施される盆栽の展覧会や、盆栽を専門に展示する美術館がある。それらにおいては上記のような方法で展示されている。

また、盆栽と共に飾られるものとして「水石（すいせき）」がある。水石は、山や山辺を連想させるような形をした自然石を台座に乗せて鑑賞されるもので、「盆石」と呼ばれていたが明治時代から次第に現在の名称が広まったとされている。

〈主要参考文献〉
・日本盆栽協会編『盆栽大事典　第３巻』同朋舎出版、昭和 58 年
・丸島秀夫・南伸坊『盆栽　癒しの小宇宙』新潮社、平成 15 年
・山田香織『山田香織のはじめての盆栽樹形』NHK 出版、平成 24 年
・依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年
・山田香織『よくわかる盆栽』ナツメ社、平成 28 年
・広瀬幸男『いちばんていねいな　はじめての盆栽の育て方』日本文芸社、平成 29 年
・小林國雄監修『小林國雄のイチから教える盆栽』西東社、令和元年

１－２　日本における盆栽の歴史

（１）盆栽前史

史料に見える鉢植え

日本における園芸文化の始まりについては、文献史料の少なさからあまり具体的には分かっていない。早いものとしては、貞観 11 年（869）成立の『続日本後紀』に、承和６年（839）に河内国の農民が仁明天皇に橘の木を土器に植えて献上したという記述が見える。ここから、鉢に木を植える行為自体は、遅くとも９世紀前半には行われていたことが確認される。しかし、平安時代や鎌倉時代の日記類や文学作品には鉢植えに関する記述が少なく、鉢植えがどのように愛好されていたのか不明である。

鎌倉時代末期になると、兼好法師の『徒然草』に、後醍醐天皇の側近である日野資朝が「異様に曲折ある」鉢植えを集めていたというエピソードが登場する。また、室町時代初期に制作された絵巻物「慕帰絵詞」（西本願寺蔵）には、素焼きの瓦器と見られる鉢に植えられた、曲がった幹の松や双幹の梅が描かれている。このような樹木の曲折が自然のものか人の手に拠るものかは不明であるが、その姿を鑑賞の対象として捉えるような美意識が萌芽していたことが推測される。

「鉢木」や「盆山」の流行

鎌倉時代から室町時代にかけて、「鉢木」や「盆山」と呼ばれる、盆栽の前身となる様式が確立している。イエズス会の宣教師らによって編纂された『日葡辞書』ではこの両者を明確に分けて立項しており、「鉢木」は「ある容器に植えた小さな木で、冬季には枯れないように家の中に入れておくもの」、「盆山」は「日本人が、緑色の苔をつけたり、何か小さな木を植え付けたりして、水面に浮かぶ小さな岩の格好につくる、ある種の石や自然木の材」と定義している[7]。

延慶２年（1309）成立の絵巻物「春日権現験記絵」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）では、縁側から眺められる高さの台の上に木製の器を乗せ、そこに白い砂利を敷いて盆山を飾っている様子が描かれている。鎌倉時代後期にはこの形式の盆山が一般化しており、樹種はゴヨウマツ、シンパク、ツツジ等が使われていたことがうかがえる。また、相国寺の僧で足利義政の側近だった季瓊真蘂の記した公用日記『蔭涼軒日録』には、足利義政の命令で五山の禅宗寺院から盆山が集められたことが記されている。ここから、室町時代中期には「盆山」が、五山の禅僧等を担い手とする教養人のたしなみ、さらには足利将軍家が愛好する威信財[8]となっていたことが確認される。

盆山が最も盛んだった頃の姿形を捉えたものとして、江戸時代初期の作とみられる六曲一双屏風「盆栽図屏風」（出光美術館蔵）がある。この屏風には、23 個の盆山・鉢木が描かれているが、一つを除き、全て盆山である。描かれている樹種はマツが多く、ほかにスギ、ツバキ、ウメ、モミジ、さらにソテツやショウブも見られ、ほとんどが単体の鉢植えではなく寄せ植えである。また、これらの器としては、中国から輸入された青磁や染付、金属製の七宝、蒔絵の施された漆器等が用いら

7 土井忠生他編訳『邦訳　日葡辞書』岩波書店、昭和 55 年
8 権威等を象徴する財物を意味する。

れていた。

（２）江戸時代の園芸趣味の流行

園芸趣味の広まり

江戸時代には園芸趣味が広がり、ツバキやツツジ、アサガオやキクが代表的な品種として好まれ、品種改良や突然変異によって作り出された変種が珍重された。このような花きだけでなく、マツやウメの鉢木も広く愛好され、大名や徳川家の歴代将軍も好んだという記録が残る。江戸幕府の正史『徳川実紀』には諸国からマツやツツジが献上されたことが記録され、「盆山松」や「盆栽松」という表記が見られる。

鉢と苗があれば始められる園芸趣味は、上層の武士階級だけではなく、町人や商人にも愛好された。このうち、特にマツやウメ等の愛好が、明治時代以降の「盆栽」へとつながっていく。

鉢木の造形

江戸時代には新しい動きとして、鉢木の造形として、鉢木の幹や枝をくねった蛸の足のような形に曲げて作る「蛸作り（曲物（まげもの）作り）」が流行を見せる。「猿猴（えんこう）作り」「武者作り」といった具象的な名前が付けられており、これらは枝を曲げる技巧そのもの、人工的に作った造形自体を鑑賞の主体としていた。その作り方は『草木錦葉集（そうもくきんようしゅう）』等の園芸書に記録されるほか、当時の浮世絵に絵画資料として残されている。

また、旗本夫人の日記である『井関隆子日記』（昭和女子大学蔵）には、枝を見せずに山形に仕立てる「下総（しもうさ）作り」が記録される。これは徳川家斉の愛好によって一時的に流行したもので、将軍家の愛好が庶民層にも伝わるという、大都市化した江戸の園芸文化の状況を伝えている。

中国趣味と文人木

「蛸作り」や「下総作り」のような人工的な造形が鉢木において流行した一方で、江戸時代後期には関西の文化人の間で、異なる流行が登場した。それは文人画（南宗画）や煎茶を愛好する中国趣味に連なるもので、中国の書画や工芸品を飾り付けて煎茶を楽しむ煎茶会の場に、中国趣味の鉢植えを配するというものである。その鑑賞の主体となったのは、中国から輸入された陶磁器製の鉢類であったと考えられる。これらは19世紀頃の煎茶会を記した「茗讌図録（めいえんずろく）」において「盆栽」と表記されており、これらの影響の下に「ぼんさい」と音読みする呼び方も定着したとみられる。また、このような中国趣味の「盆栽」では、文人画をまねて下枝の少ないひょろりと立ち上げる仕立てが試みられ、現在その系統を「文人木」と呼んでいる。

（３）近代盆栽の誕生と展開

造形の変化

明治時代に入ると、江戸で流行していた人工的に作り込む「蛸作り」は廃れ、中国趣味の影響を受けた「盆栽」が主流となっていく。東京の植木屋は「蛸作り」に手を加え、自然体に見えるような造形に鉢木等を改作していった。彼らは鉢よりも樹木を主役とし、幹の姿と枝ぶりで大樹の風格を出す工夫を行った。自然の造形が評価されるようになり、姿の良い樹木を「山採（やまど）り」して育てるようになったのもこの頃である。山採りの主役は生命力の強いマツ類であり、これ以降、常緑樹が盆栽の主役となっていった。

盆栽園

江戸には多くの植木屋があり、武家屋敷の庭園の手入れの傍ら、園芸植物の栽培・販売、蛸作りの仕立て等に従事した。明治時代初頭の東京にいる植木屋の番付には 120 人もの植木屋が掲載されており、花園樹斎、庭師、鉢物師、地木師等と分類されていた[9]。

このうち大手の植木屋の中から、広大な敷地に多様な植物や盆栽を並べた盆栽園が登場してくる。木戸孝允の庇護を受けた鈴木孫八の「香樹園（こうじゅ）」、その弟子である木部米吉の「苔香園（たいこう）」等は、政財界とのつながりを持ち、ウィーン万国博覧会の日本庭園、靖国神社等の造園等の公共事業も請け負っていた。

（４）盆栽愛好の展開

近代盆栽と皇室

近代における盆栽の流行の重要な要素に、皇室の盆栽愛好がある。皇居（明治宮殿）には諸国から献上された盆栽や珍しい植物が集まり、明治天皇から政財界の要人に盆栽が下賜されることもあった。明治天皇が三条実美や岩倉具視の病床の見舞いに盆栽を送ったことが記録されており、後者を絵画化した北蓮蔵（きたれんぞう）「岩倉邸行幸」（聖徳記念絵画館蔵）では、宮家から下賜されたとされる２点の盆栽が縁側に描かれている。

明治時代には、大隈重信や西園寺公望といった政治家、岩崎弥之助といった財界人の間で、盆栽が愛好されるようになっていった。枢密顧問官であった伊東巳代治もその一人で、皇居の盆栽として著名なゴヨウマツ「三代将軍」は、伊東の遺言で皇室に献上されたものである。彼らは盆栽展に家蔵の名品を出品し、木部半次郎『盆栽逸品集』（大正５年（1916））等の写真図録がその姿を全国の愛好家に視覚的に示す役割を果たした。このようなメディアの発達を介して、やがてゴヨウマツ「日暮し」（大宮盆栽美術館蔵）に代表される名品が選定されていく。

9 野間晴雄「17～19 世紀江戸・東京近郊の花き園芸の発達と空間的拡散―グローバル／ローカルな視点からの菊の歴史地理―」（『東アジア文化交渉研究』第３号　関西大学文化交渉学教育研究拠点、平成 22 年 p.395-431）

盆栽雑誌の登場

明治時代に入ると、盆栽の愛好者達の手により発刊された培養に関する書籍[10]や、専門誌が登場する。このようなメディアの登場は、盆栽の大衆化を進めるきっかけとなったほか、全国の愛好者をつなげる役割も果たした。

明治 39 年（1906）、盆栽をより多くの人に普及するため、香樹園の村田利右衛門と薫風園の蔵石光蔵を発起人とした「盆栽同好会」が結成され、同会により日本で初めての盆栽専門雑誌『盆栽雅報』が創刊された。この専門雑誌は、盆栽の普及だけではなく盆栽の芸術性に関する研究も行われていた点に特徴が見られる。

次いで、明治 41 年（1908）には清大園の清水利太郎を中心とした東京の盆栽園によって、盆栽をはじめとした園芸の普及と研究を目的とした「東洋園芸会」が結成され、その機関誌として『東洋園芸界』が創刊された。この雑誌では、盆栽をはじめとした園芸の普及及び研究が目的とされているが、日本大博覧会が計画されていた当時の時代背景が反映され、海外への園芸普及や盆栽や園芸を海外から見た場合の視点も含まれている点に特徴がある。

さらに大正９年（1920）には、清大園の清水利平を中心に「大日本盆栽奨励会」が発足し、翌 10 年には機関誌『盆栽』が発刊されている。創刊号では、盆栽の培養論をはじめ盆栽の芸術性に関する論考が掲載されるなど、盆栽の芸術的な側面を考究するような姿勢が顕在化していたことがうかがえる。

大正時代の盆栽村の誕生

明治時代に発展した東京の盆栽園ではあったが、その多くが大正 12 年（1923）の関東大震災で被災した。この復興にあたって、清大園の清水利太郎は蔓青園（まんせい）等いくつかの盆栽園と共に東京を離れ、大宮市（現・さいたま市）の原野を切り開いて盆栽村を開村した。大宮に移る盆栽園は徐々に増え、昭和 11 年（1936）には 35 軒にもなった。現在も同地には６つの盆栽園が残る。

盆栽村に移った盆栽園の一つである蔓青園の加藤留吉は、エゾマツの培養技術を確立し、国後島（くなしり）や択捉島（えとろふ）から山採りしたエゾマツを盆栽に仕立ててエゾマツ盆栽の大ブームをもたらした。戦後、加藤はGHQの将校に盆栽の育て方を教えにも行っている。また、九霞園（きゅうか）は吉田茂や池田勇人等の歴代首相が訪れたことでも知られるなど、各盆栽園にはそれぞれの特色があった。

10 盆栽の名を冠した書籍として明治時代の早い時期に出たものとして、明治 16 年（1883）三戸與彰編『盆栽手引種』が確認でき、主に鉢植えの培養が主たる内容になっているほか、盆栽振り仮名は「はちうゑ」「ぼんさい」と読み方が併存していることがうかがえる。また、明治 29 年の井口松之助著『盆栽培養全書　草木図解』においては「盆栽雅賞の事」「盆栽俗愛の事」の項目があり、「盆栽雅賞の事」では「何れも雅味風致を賞し文房の具と共に陳列するものを挙ぐ」、「盆栽俗愛の事」では「盆中に植えるもの鄙近の如何を問ず只艶麗なるを楽の盆栽なる故此の部中を見ること宛も縁日の植木屋の如し」として、盆栽の鑑賞や楽しみ方の違いで盆栽を分けて紹介している。

（５）国風盆栽展の始まり

陳列会、座敷飾り

江戸時代後期の煎茶会においては、煎茶道具の飾り付けと共に、盆栽が室内に飾られるようになっていた。明治時代には煎茶会の中で盆栽席が成立し、さらにそこから盆栽の陳列会が独立していった。

当初の陳列会では、畳に屏風を立て、その前に卓や地板を据えて盆栽を飾る形式であった。大正時代になると、会場となる料亭等の床の間を利用し、飾り付けが工夫されていく。昭和時代初期には茶道や華道の飾り方や用語を取り入れ、格式や季節に合わせた取り合わせ等の決まりごとも複雑にし、伝統文化の体裁を整えようとする動きも出てきた。この時代には盆栽の鉢を作る名工も登場し、また、盆栽を飾る卓も専門的に制作されるようになり、樹木と鉢・卓の調和が追求されていく。

料亭等を会場に盆栽や水石の陳列・品評会を楽しんだのは、政財界を中心とした盆栽の愛好者たちであった。中でも「小天地会」では、盆栽と蒐集した古美術品との取り合わせ、床飾り等の工夫が重ねられていた。

国風盆栽展の開催

政財界人を中心として、陳列会という形を設けて盆栽の飾り方や、伝統文化や芸術面での意義付け等が模索されていく中、昭和９年（1934）に美術館を会場とする盆栽の展覧会「国風盆栽展」が誕生した。

この国風盆栽展を企画したのは、「大日本盆栽奨励会」の機関誌『盆栽』の主筆、小林憲雄（としお）であった。また、国風盆栽展を主催した国風盆栽会の初代会長は、貴族院議長で小品盆栽の愛好者でもあった松平頼寿（よりなが）が務め、副会長は貴族院副議長であった酒井忠正が務めた。

国風盆栽展の初期には懸崖が非常に多く出品され、直幹の盆栽は少なかった。これは、山採りの木を盆栽として見応えのあるものに作り上げることが目指されたためとされる。また、石付き盆栽も徐々に増加したほか、戦前から戦後にかけては根連なりが人気を集めるなど、時代ごとに作風や樹形の流行があったことがうかがえる。

このように、政財界人を主たる会員として運営が行われていた国風盆栽展であったが、昭和18年（1943）から雑誌『盆栽』において会員を募集するようになり、少しずつその性格が変化していき、戦後には公募展としての役割を果たすようになる。

昭和時代に入る頃に盆栽は、皇族・華族や政財界の人々はもちろんのこと、各実業界・会社経営・商業・製造業に携わる者たちの趣味として広まっていった[11]。加えて、この時代には盆栽専用の鋏が開発されるなど、盆栽を仕立てる道具の開発も進んだ。

---

11 早川陽「昭和初期の盆栽趣味の諸相―『趣味大観』（1935）にみられる自然栽培趣味の記述から―」（『学苑・人間社会学部紀要』No.964、昭和女子大学近代文化研究所、令和３年　p.38-62）

（６）戦後の国内国外での盆栽の広まり

戦後間もない昭和20年代には愛好者数が減り、盆栽人気の盛り上がらない時期が続いたが、昭和30 年代には第１回日本盆栽名品展（日本橋・三越百貨店）や皇太子御成婚記念・奉祝日本盆栽名品展の開催、日本水石協会や日本盆栽協会の設立等、盆栽に関する新しい動きが数多く起こり、盆栽展への出品者数も増加した。さらに昭和 40 年代には日本盆栽協同組合が誕生した。

こうした中で、昭和45年（1970）には日本万国博覧会の特設会場で「盆栽水石展」が開催され、全国から集めた名作盆栽を半年間にわたって展示した。この展示は国内の盆栽団体の総力を上げて実現させたもので、入場者は 230 万人に上った。同年には愛好者向けの雑誌『盆栽世界』が、昭和52 年には『近代盆栽』が創刊され、盆栽に関する情報が愛好者に共有されるようになった。また、雑誌で通信販売を手掛けたことにより、それまで不明確だった盆栽の価格設定が明確になり、盆栽は一般の人々にも手の出しやすい趣味となった。このような動きを受けて盆栽人気は高まり、昭和40 年代には国風盆栽展で入場制限が行われることもあるほどの盛況を見せるようになった。

なお、松平頼寿や酒井忠正をはじめ愛好者が多く、国風盆栽展の第１回から出品されていた小品盆栽であるが、昭和30年代に盆栽の小型化の動きが高まり、小品盆栽の出展が大幅に増加した。昭和40年（1965）前後にはエゾマツの寄せ植えが大流行し、壮大な景色から軽い景色まで幅広く表現できる寄せ植えというスタイルが盆栽界に定着した。昭和50年代になると、それまでより文人木や花物の出品は少なくなった。このように、時代背景や技術・用具等の発展等によって、盆栽の造形には時代ごとの流行が見られる。

国内において盆栽を愛好する者の層が広まりつつある中で、海外においても盆栽が広まっていった。既に明治時代のウィーン万国博覧会で盆栽が出品されたのをはじめ、その他万博への出品や欧州等への盆栽の輸出等も行われていた。

昭和 32 年（1957）には吉村酉二（ゆうじ）[12]がアメリカに数十点の盆栽を輸出し、うち８点を購入したブルックリン植物園が第40回国際花卉展覧会に出品したことが現地の新聞で報道され、更なる輸出につながっていった[13]。その後、昭和 39 年の東京オリンピック開催の折に、日比谷公園で開催された「オリンピック記念盆栽水石展」[14]や、日本万国博覧会を契機に海外へと広まっていった。また、平成元年（1989）には世界盆栽大会が日本で開催され、以降４年に一度各国で開催されるようになるなど、海外での盆栽への関心が高まっている。

〈主要参考文献〉
・社団法人日本盆栽協会編『昭和の盆栽譜　−国風盆栽展五十年の歩み−』日本盆栽協会、昭和 58 年
・依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年
・「さいたま市大宮盆栽美術館だより」令和２年８月号（『盆栽春秋』第 570 号、日本盆栽協会、令和３年）
・「さいたま市大宮盆栽美術館だより」令和２年 10 月号（『盆栽春秋』第 572 号、日本盆栽協会、令和３年）

12 吉村酉二（1921～1997）は東京の盆栽園に生まれ、後に米国立樹木園の園長となるジョン・クリーチらとの出会いを通じてニューヨークに渡り、アメリカ全土に盆栽を広める活動を行った。
13 日本盆栽協会編『昭和の盆栽譜 ： 国風盆栽展五十年の歩み』日本盆栽協会、昭和 58 年　p. 249
14 昭和 39 年（1964）の東京オリンピックの際には、日比谷公園で「オリンピック記念盆栽水石展」（東京都主催、日本盆栽協会協賛）が開催され、300 余点もの盆栽・水石が展示された。（日本盆栽協会編『盆栽大事典第１巻』同朋舎出版、昭和 58 年）

・「さいたま市大宮盆栽美術館だより」令和３年３月号（『盆栽春秋』第 577 号、日本盆栽協会、令和３年）
・早川陽「昭和初期の盆栽趣味の諸相―『趣味大観』（1935）にみられる自然栽培趣味の記述から―」（『学苑・人間社会学部紀要』No.964、昭和女子大学近代文化研究所、令和３年　p.38-62）

２節　現代における盆栽の現状と社会的な位置付けについて

２－１　現代社会における盆栽

（１）現代社会における盆栽

愛好者と盆栽園

生活文化である盆栽を担い支える人々を考えた場合、盆栽園や盆栽業者の存在と共に、庭に盆栽を並べ、盆栽いじりを楽しむ愛好者が盆栽を支えている。

盆栽を育てる実践者と盆栽を鑑賞する層がほぼ不可分であることが盆栽の大きな特徴といえるが、盆栽の愛好者でも、日常的な手入れは自身で行い定期的なメンテナンスを盆栽園等に依頼する場合や、樹齢 100 年以上の盆栽で手入れが難しい場合、家に盆栽を置く場所がない等の理由により、盆栽園や盆栽業者に所有している盆栽を預けて育成や管理をしてもらう例がある。

また、海外の愛好者が日本の盆栽を購入し、盆栽業者に預けて育ててもらうというケースもある。近年の傾向としては、盆栽愛好者の高齢化（病気・死亡も含む）により手入れができなくなるケースや、手入れができなくなった盆栽を盆栽美術館等の公共施設に寄贈するケースも増えている。

盆栽愛好の新しい潮流

伝統的な盆栽の愛好者は主として男性の年配者であったが、近年は「小品盆栽」について外国人や若い世代の愛好者が増えている。「小品盆栽」は、現代では庭や床の間等のある家が減り、盆栽を飾るスペースが取れない、あるいは洋風の住宅が増えて純和風の盆栽が似合わないといった住宅事情や生活様式の変化に伴う形で広がっている[15]。

SNS で自らの活動を発信する人も多く、写真投稿サイト Instagram の投稿数は令和３年 12 月 20 日現在、「#盆栽」が約 64 万件、「#ミニ盆栽」が約９万件、「#bonsai」が 304 万件（海外からの投稿も含む）であり、投稿されている画像には「小品盆栽」「ミニ盆栽」も多く含まれる。また、最近は、いずれ盆栽を楽しみたいが現時点では時間や場所等のゆとりがなく実現できないとして、実践はせず、盆栽展等で鑑賞だけを楽しむ層も出てきている。

（２）国内外の盆栽業の概況

盆栽に係る全国団体の活動

盆栽を支える愛好者や、盆栽園をはじめとした盆栽に係る業者等が集まり結成された全国団体が、盆栽に関する普及や振興に係る活動を行っている。令和元年（2019）に文化庁が実施した盆栽団体へのアンケート調査[16]では、会員の状況として、男女構成比は男性 98%、女性２%で、年齢構成比

15 雑誌『盆栽世界』では、令和４年（2022）１～３月号の３か月連続で、特集及び特別企画において小品盆栽を扱っている。前年までは特集及び特別企画で小品盆栽を扱うのは年に１～２回であった。

16『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』（文化庁地域文化創生本部事務局、令和２年）。なおアンケート調

は 70 代以上が 32.3%、60 代が 25.4%、50 代が 19.8%と、60 代以上が約 60%を占めていることが分かる。また、盆栽業者や愛好者が会員となっている一般社団法人日本盆栽協会でも、会員数の減少、高齢化が進んでいる現状がうかがえる。

これらの団体の活動としては、盆栽展や展示会の開催のほか、団体の認定講師による講座開催やインストラクターの養成、盆栽の剪定や培養等の講習会や技術指導、各種イベントへのデモンストレーターの派遣、小学校や海外への講師派遣等がある。広報活動は広報誌の発行、ホームページ開設が基本であり、SNS を活用している団体もある。現状における課題としては、会員の高齢化と会員数の減少、財政状況の悪化、情報発信不足等が挙げられる[17]。

盆栽展について

盆栽展は愛好者が盆栽を持ち寄って陳列する展示会で、大小様々な規模の盆栽展が全国及び近年では海外においても開催されている。盆栽展では、陳列された盆栽の美しさや状態等が審査され、優れた作品には賞が贈られたり、専門家による相談会や、盆栽苗や鉢等の用具の即売会が行われたりするなど、盆栽に関する情報交換の場・愛好者同士の交流の場としても機能している。

盆栽展のうち最も長い歴史があるのは、一般社団法人日本盆栽協会が主催する国風盆栽展である。第１回展は昭和９年（1934）に東京府美術館（現・東京都美術館）で開催され、令和５年（2023）２月には第97回展が開催されている。国風盆栽展は歴史があるだけではなく、数ある盆栽展の中で最も格式が高く、宮内庁所有の盆栽の特別展示や、皇族のご鑑賞等もある。

この国風盆栽展と、日本盆栽大観展、銘風盆栽展を日本三大盆栽展と呼ぶ。日本盆栽大観展は、日本盆栽大観展組織委員会、日本盆栽協同組合等が主催して毎年11月に京都で行われる。令和４年（2022）11 月には第 42 回が開催された。銘風盆栽展は中部盆栽協会の主催により名古屋で開催され、令和５年１月には第92回展が開催された。そのほか、盆栽作家、盆栽業者の作家性を競う盆栽展として日本盆栽作風展、日本最大の小品盆栽の展覧会として雅風展がある。これら以外にも愛好者が小規模で行う展示会が多数行われている。

盆栽業者・盆栽園の現況

盆栽業者の加盟する日本盆栽協同組合には本部及び15支部があり、組合員数は約230業者を数える。組合に加盟していないところを含めると、全国に約470の盆栽園があると推計される[18]。

盆栽園が集積しているのは関東地域で、特に埼玉県、東京都に数多く存在する。盆栽苗の出荷数・出荷額においては、香川県が埼玉県を上回る。特に高松市の鬼無（きなし）地区・国分寺地区を中心に、

査は、一般社団法人日本盆栽協会、日本盆栽協同組合、公益社団法人全日本小品盆栽協会、日本小品盆栽組合、一般社団法人日本皐月協会の５団体へ送付及び回収を行っている。

17『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和２年

18 農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年）」（URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf 最終確認日：令和６年２月 15 日）に、アンケート対象として「関係者の協力を得て把握した全国の盆栽園（473 園）」と記載がある。

同県の松盆栽の生産量は国内市場の 80%を占める[19]。なお、大宮盆栽村（現・埼玉県さいたま市北区盆栽町）は現在、高級住宅地となっており、地価の上昇により相続税等の負担が高まったこと、また、後継者が育ちにくい環境となったことから、今後の発展、存続が懸念されている[20]。

海外での盆栽人気の高まりに伴い盆栽の海外輸出は増加傾向にあるが、輸出には検疫や栽培地検査申請等の手続が必要であり、盆栽園が個々で実施するのは負担が大きい。そこで高松市では平成 25 年（2013）、ジェトロ高松の先導により高松盆栽輸出振興会を設立し、盆栽園が共同で海外への輸出を行う体制を確立した。その結果、平成 21 年度までは EU に盆栽を輸出するための栽培地検査申請生産者が 10 名であったが、平成 25 年度末には 19 名と大幅に増加している[21]。

盆栽の輸出状況

・盆栽の出荷数と輸出量

農林水産省が平成 27 年（2015）に行った国内及び国外への盆栽の出荷数量と出荷額の推計によれば、盆栽苗生産者から盆栽生産者に販売される苗木は約２万 5,000 本（約 3,000 万円）、盆栽生産者から盆栽作家等に販売される鉢は４万 4,000 鉢（約３億円）と推計されている。盆栽生産者から国内向けに出荷されるのは 11 万 1,000 鉢（約８億円）、輸出は４万 4,000 鉢（約４億円）と推計されている[22]。

盆栽の輸出は昭和 40 年代から始まり、平成時代初期にピークとなったが、平成 20 年代には輸出手続の煩雑化や為替の円高傾向等により、出荷量が伸び悩んだ。政府は平成 28 年（2016）に「農林水産業の輸出力強化戦略」を策定し、中国、ベトナム、香港、EU を主要ターゲットに盆栽の輸出促進に注力した。その結果、平成 29 年より植木・盆栽等の輸出量は増加傾向に転じた。令和元年以降位の盆栽の輸出量及び輸出額は図１の通りである。

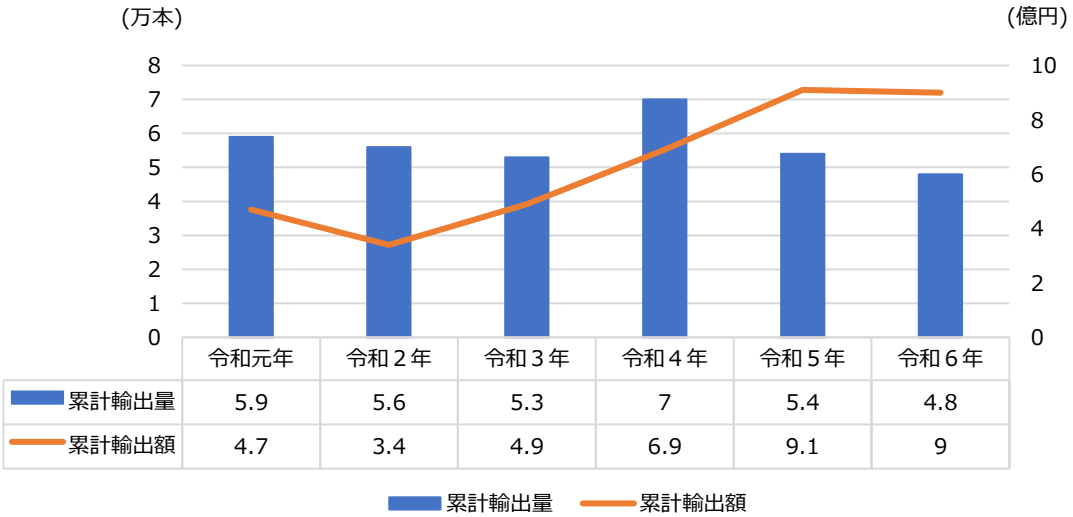
なお、令和元年から令和６年の、盆栽の輸出量上位 10 か国の輸出量（図２）及び輸出金額（図３）は以下のとおりで、主な輸出先は中国、台湾、オランダ、イタリア等となっている。

19 日本貿易振興機構香川貿易情報センター「世界に羽ばたく香川の盆栽」香川県農業生産流通課、平成 28 年（URL:https://www.jetro.go.jp/ext_images/jetro/japan/kagawa/bonsai/jp_pamphlet201711.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日

20 『平成 23 年度　JAPAN ブランド育成支援事業（戦略策定支援事業）報告書　プロジェクト名：「大宮の盆栽」JAPAN ブランド化プロジェクト』さいたま観光国際協会、平成 24 年

21 東讃農業改良普及センター「海外へ BONSAI の販路拡大！」（『平成 25 年度　普及活動の主要成果(事例)』香川県農政水産部農業経営課、平成 26 年）

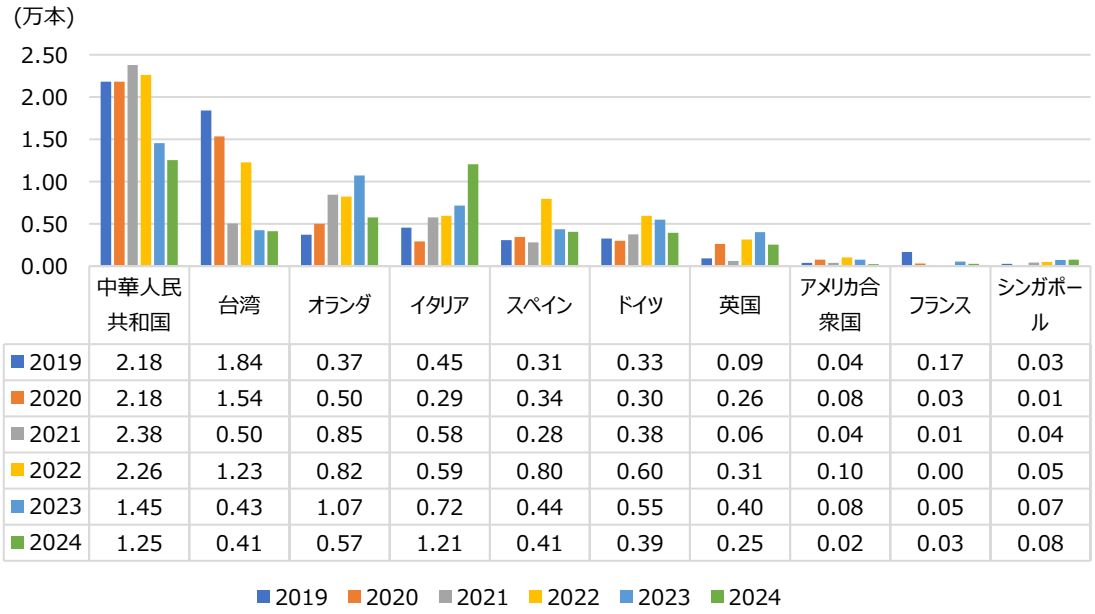
22 農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年)」(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日



	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年
累計輸出量	5.9	5.6	5.3	7	5.4	4.8
累計輸出額	4.7	3.4	4.9	6.9	9.1	9

図１　盆栽の累計輸出量及び輸出額の推移

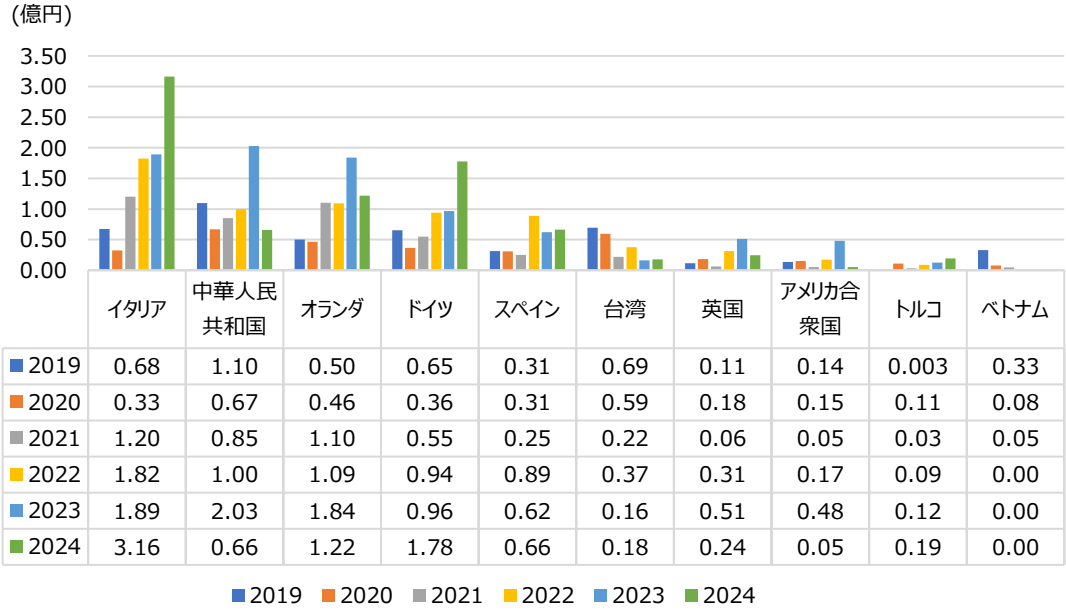
出典：令和元年から令和６年の「貿易統計」（財務省）（URL:https://www.customs.go.jp/toukei/info/）を参照し作成した。



	中華人民共和国	台湾	オランダ	イタリア	スペイン	ドイツ	英国	アメリカ合衆国	フランス	シンガポール
2019	2.18	1.84	0.37	0.45	0.31	0.33	0.09	0.04	0.17	0.03
2020	2.18	1.54	0.50	0.29	0.34	0.30	0.26	0.08	0.03	0.01
2021	2.38	0.50	0.85	0.58	0.28	0.38	0.06	0.04	0.01	0.04
2022	2.26	1.23	0.82	0.59	0.80	0.60	0.31	0.10	0.00	0.05
2023	1.45	0.43	1.07	0.72	0.44	0.55	0.40	0.08	0.05	0.07
2024	1.25	0.41	0.57	1.21	0.41	0.39	0.25	0.02	0.03	0.08

図２　盆栽の輸出量上位 10 か国の輸出量の推移

出典：令和元年から令和６年の「貿易統計」（財務省）（URL:https://www.customs.go.jp/toukei/info/）を参照し作成した。なお、ここで言う「上位 10 か国」とは、各国における令和元～６年の輸出量の総計を算出し、その中から輸出量が多い上位 10 か国を選んでいる。



	イタリア	中華人民共和国	オランダ	ドイツ	スペイン	台湾	英国	アメリカ合衆国	トルコ	ベトナム
2019	0.68	1.10	0.50	0.65	0.31	0.69	0.11	0.14	0.003	0.33
2020	0.33	0.67	0.46	0.36	0.31	0.59	0.18	0.15	0.11	0.08
2021	1.20	0.85	1.10	0.55	0.25	0.22	0.06	0.05	0.03	0.05
2022	1.82	1.00	1.09	0.94	0.89	0.37	0.31	0.17	0.09	0.00
2023	1.89	2.03	1.84	0.96	0.62	0.16	0.51	0.48	0.12	0.00
2024	3.16	0.66	1.22	1.78	0.66	0.18	0.24	0.05	0.19	0.00

図３　盆栽の輸出金額上位 10 か国の輸出額の推移

出典：令和元年から令和６年の「貿易統計」（財務省）（URL:https://www.customs.go.jp/toukei/info/）を参照し作成した。なお、ここで言う「上位 10 か国」とは、各国における令和元～６年の輸出額の総計を算出し、その中から輸出額が多い上位 10 か国を選んでいる。

盆栽関係者への評価

国の顕彰制度として、叙勲や褒章等の栄典制度が存在する。また、文化庁が実施する文化庁長官表彰といった顕彰制度もある。このような顕彰制度において盆栽に係る者の文化普及や振興、文化交流等の活動等が功績として評価され、表彰されている。

近年の例を見ると、平成５年（1993）に加藤三郎（社団法人日本盆栽協会理事長）が勲四等瑞宝章を受章、平成 25 年秋の叙勲で竹山浩（一般社団法人日本盆栽協会理事長）が旭日双光章を、平成 30 年秋の叙勲では、福田次郎（元　一般社団法人日本盆栽協会理事長）が、文化普及功労により旭日双光章を受章している。

また、外国人叙勲においても盆栽に係る者が叙勲を受けている。平成 29 年（2017）春の外国人叙勲においては、ケストゥティス・プタカウスカスがリトアニアにおける盆栽を通じた日本文化の紹介・普及に貢献した功績を認められ、旭日単光章を受章している。令和２年（2020）春の外国人叙勲では、エドガルド・オノラト・ホルヘ・ホブ（ドミニカ盆栽協会会長）が、盆栽普及を通じたドミニカ共和国における日本文化の紹介及び日本・ドミニカ共和国間の友好親善に大きく貢献した功績により、旭日双光章を受章している。

文化庁が実施する文化庁長官表彰では、平成 18 年度（2006）に木村正彦（盆栽作家・社団法人日本盆栽協会理事）、平成 29 年度に福田次郎（元　一般社団法人日本盆栽協会理事長）、平成 30 年度に小西幸彦（元　第 11 回アジア太平洋盆栽水石大会実行委員長・小西松楽園園主）、令和２年度（2020）に小林國雄（盆栽作家・春花園 BONSAI 美術館館長）、令和４年度に鈴木亨（盆栽作家・大

樹園主・宮内庁盆栽庭園管理（代表）・（一社）日本盆栽協会常任理事）が表彰されている。

このように、盆栽の振興や普及啓発、盆栽普及を通じた文化交流に貢献した者が評価されているなど、現代社会において、盆栽は日本の文化芸術分野の一つとして位置付けられているといえる。

表１　盆栽関係者の表彰一覧

受章年度	氏名	主要経歴	叙勲・褒章・表彰
平成　５年（1993）	加藤　三郎	社団法人日本盆栽協会理事長	勲四等瑞宝章
平成 18 年（2006）	木村　正彦	盆栽作家・社団法人日本盆栽協会理事	文化庁長官表彰
平成 25 年（2013）	竹山　浩	一般社団法人日本盆栽協会理事長	旭日双光章
平成 29 年（2017）	ケストゥティス・プタカウスカス	リトアニア盆栽協会会長	旭日単光章（外国人叙勲）
平成 29 年（2017）	福田　次郎	元　一般社団法人日本盆栽協会理事長	文化庁長官表彰
平成 30 年（2018）	福田　次郎	元　一般社団法人日本盆栽協会理事長	旭日双光章
平成 30 年（2018）	小西　幸彦	元　アジア太平洋盆栽水石大会実行委員長（第 11 回）・小西松楽園園主	文化庁長官表彰
令和２年（2020）	エドガルド・オノラト・ホルヘ・ホブ	ドミニカ盆栽協会会長	旭日双光章（外国人叙勲）
令和２年（2020）	小林　國雄	盆栽作家・春花園 BONSAI 美術館館長	文化庁長官表彰
令和４年（2022）	鈴木　亨	盆栽作家　大樹園主 宮内庁盆栽庭園管理（代表） （一社）日本盆栽協会常任理事	文化庁長官表彰

〈主要参考文献〉

・日本盆栽協会編『昭和の盆栽譜　−国風盆栽展五十年の歩み−』日本盆栽協会、昭和 58 年
・日本盆栽協会編『盆栽大事典　第３巻』同朋舎出版、昭和 58 年
・丸島秀夫・南伸坊『盆栽　癒しの小宇宙』新潮社、平成 15 年
・依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年

２－２　国民意識調査について

（１）調査の概要

生活文化に係る６分野（煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉）に関して、インターネットを活用し２万人を対象としたウェブアンケート調査による国民の意識調査を実施することで、国民の生活文化に対する興味や関心などの実情について把握し、今後の生活文化等に関する政策立案の基礎資料の作成を行うことを目的として調査を実施した。

このウェブアンケート調査では、下記に示すとおり、盆栽の経験の有無を問う設問を設け、回答者の経験・体験の深度を図ると共に、経験・体験の程度ごとに設問群を設け、活動内容や興味関心について把握を行った。（詳細は巻末参考資料を参照）

■調査設計

<table>
<tr><td>調査方法</td><td>インターネット調査（調査業者：株式会社クロス・マーケティング）</td></tr>
<tr><td>調査地域</td><td>全国</td></tr>
<tr><td>調査対象者</td><td>18 歳以上の男女</td></tr>
<tr><td>サンプル数</td><td>２万サンプル
<table>
<tr><td></td><td>18～20 代</td><td>30 代</td><td>40 代</td><td>50 代</td><td>60 代</td><td>70 代以上</td></tr>
<tr><td>男性</td><td>1,398</td><td>1,359</td><td>1,759</td><td>1,580</td><td>1,459</td><td>2,090</td></tr>
<tr><td>女性</td><td>1,342</td><td>1,303</td><td>1,713</td><td>1,588</td><td>1,533</td><td>2,723</td></tr>
<tr><td>それ以外／答えたくない</td><td>41</td><td>29</td><td>24</td><td>10</td><td>10</td><td>39</td></tr>
</table>
※国勢調査（令和２年）に基づき、性・年齢・都道府県別の比率に２万サンプルを割付けている。</td></tr>
<tr><td>調査期間</td><td>令和４年 10 月 14 日（金）～10 月 20 日（木）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">設問項目</td><td>【属性】
Ｆ１：性別
Ｆ２：年齢
Ｆ３：居住地
Ｆ４：職業
Ｆ５：同居している人の状況
Ｆ６：昨年度の世帯全体の年収
Ｆ７：最終学歴
Ｆ８：子供の頃の習い事</td></tr>
<tr><td>【フィルタリング・パート】
ＦＱ５：盆栽の経験の有無</td></tr>
<tr><td>【「盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）」と回答した者への設問】
ＥＱ１：盆栽を育て始めたきっかけ
ＥＱ２：盆栽を始めた当初に育て方や剪定の仕方を学んだ方法
ＥＱ２補問：育て方や剪定の仕方を学んだ方法を選んだ理由
ＥＱ３：現在の継続状況
ＥＱ３補問１：盆栽を続けている理由
ＥＱ３補問２：盆栽から離れたきっかけや理由</td></tr>
</table>

	ＥＱ４：盆栽を続けている（続けていた）年数 ＥＱ５：盆栽に関する活動内容 ＥＱ６：盆栽に関する活動頻度 ＥＱ７：盆栽に関する月額費用 ＥＱ８：盆栽に関する興味関心や魅力
	【「イベント等で盆栽体験をしたことはある」と回答した者への設問】 ＥＱ９：盆栽を体験したきっかけ ＥＱ10：盆栽を体験した場 ＥＱ11：盆栽を育てやすい状況 ＥＱ12：盆栽に支払える月額費用 ＥＱ13：盆栽を育てていない理由 ＥＱ14：盆栽に対する印象やイメージ ＥＱ15：盆栽に関する興味関心や魅力
	【「盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない」と回答した者への設問】 ＥＱ16：参加してみたい盆栽の体験内容 ＥＱ17：参加しやすい盆栽の体験条件 ＥＱ18：盆栽を体験したことがない理由 ＥＱ19：盆栽に対する印象やイメージ ＥＱ20：盆栽に関する興味関心や魅力
	【共通設問】 Ｑ１：趣味・余暇活動の参加状況 Ｑ２：１ヶ月に使える趣味・余暇費用 Ｑ３：１ヶ月に使える趣味・余暇時間 Ｑ４：趣味・余暇活動を行う時間帯 Ｑ５：消費行動に対する価値観 Ｑ６：接触メディア

■調査結果を見る上での注意事項

・集計は小数点第２位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

・集計表では、各回答の回答比率を示しているほか、属性（性別、年齢など）や設問間でのクロス集計を行った数値を示している。各回答の全体平均を比較して、±５pt もしくは±10pt の開きがある場合は色付けをしており、凡例を付してある。なお、５pt 丁度、10pt 丁度の場合、色付けを行っていない。

・集計によっては、母数が少なく、結果の信頼性が担保できないものがあるため、母数が少ない集計結果については、留意のため、グレーで表示している。

・調査設問項目【属性】のＦ３居住地は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」の「類型Ｉ」に沿って、下記のとおり都道府県を分類している。

北海道：北海道

東北：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県

関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県

北陸：新潟県・富山県・石川県・福井県

東海（中部）：岐阜県・静岡県・愛知県・三重県

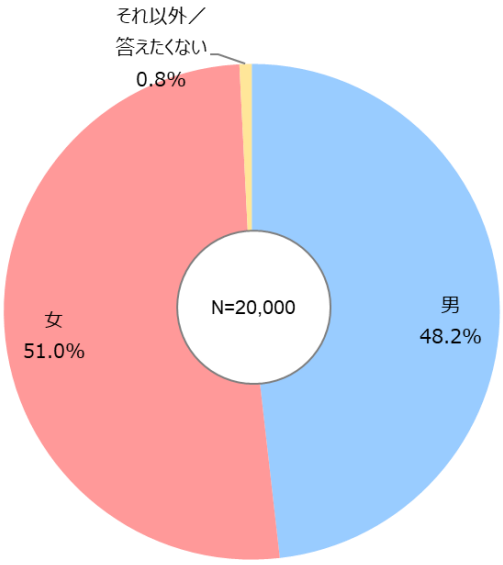
近畿：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

中国：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
四国：徳島県・香川県・愛媛県・高知県
九州：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
沖縄：沖縄県

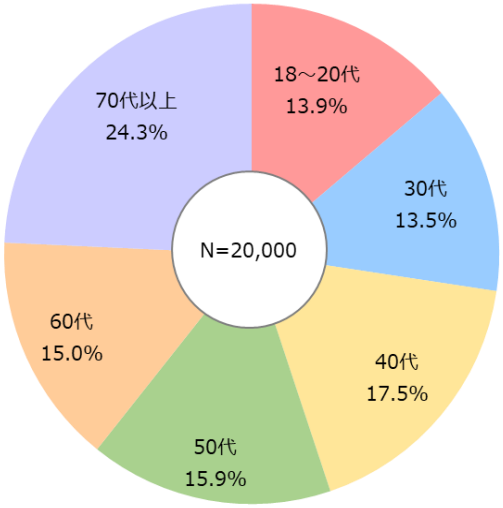
（２）調査結果概要

１．属性

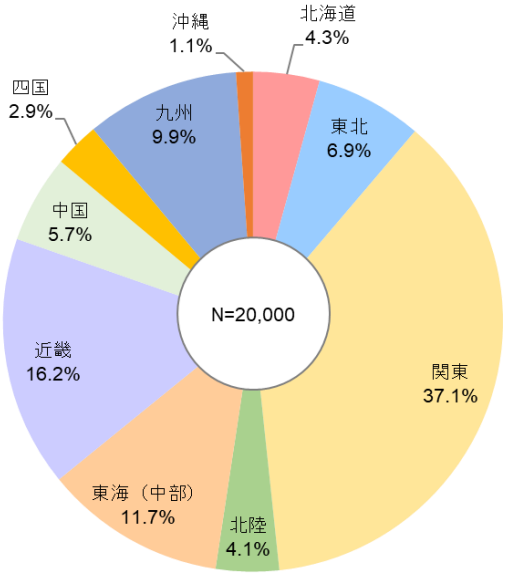
①性別



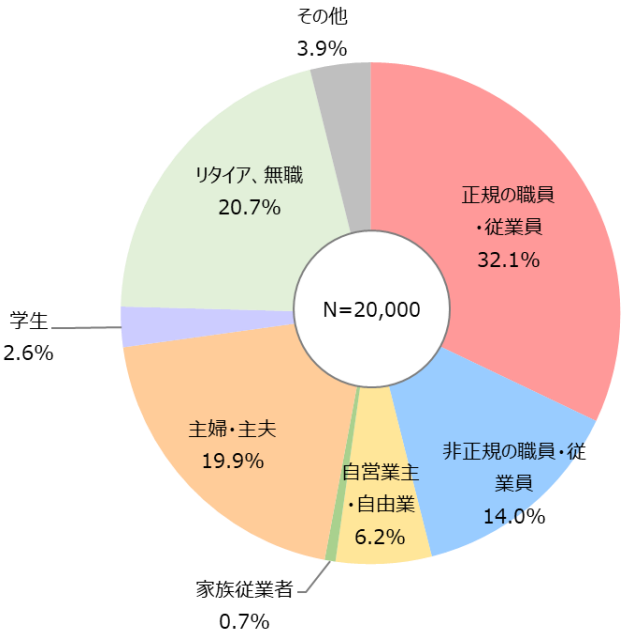
②年齢



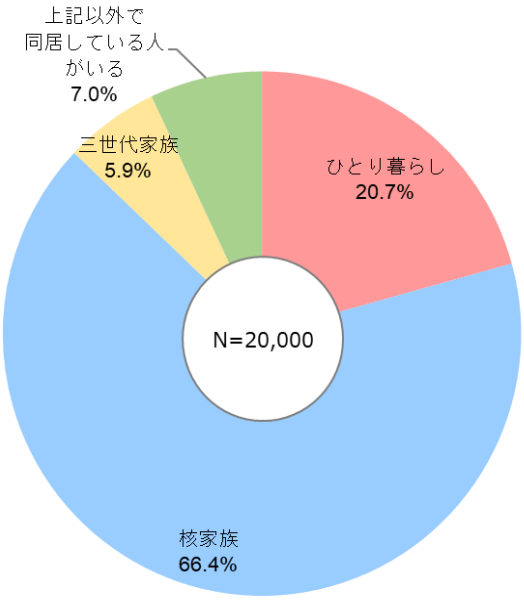
③居住地



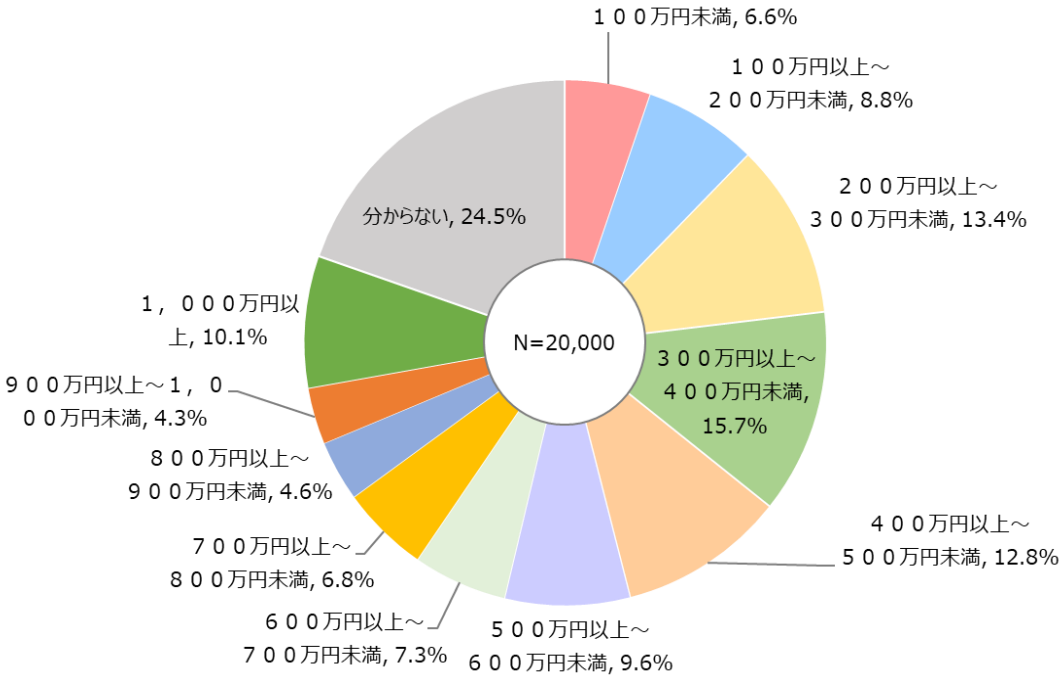
④職業



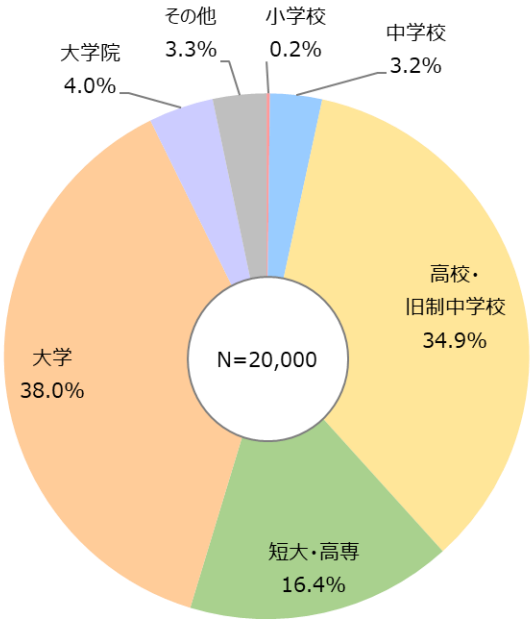
⑤同居している人の状況



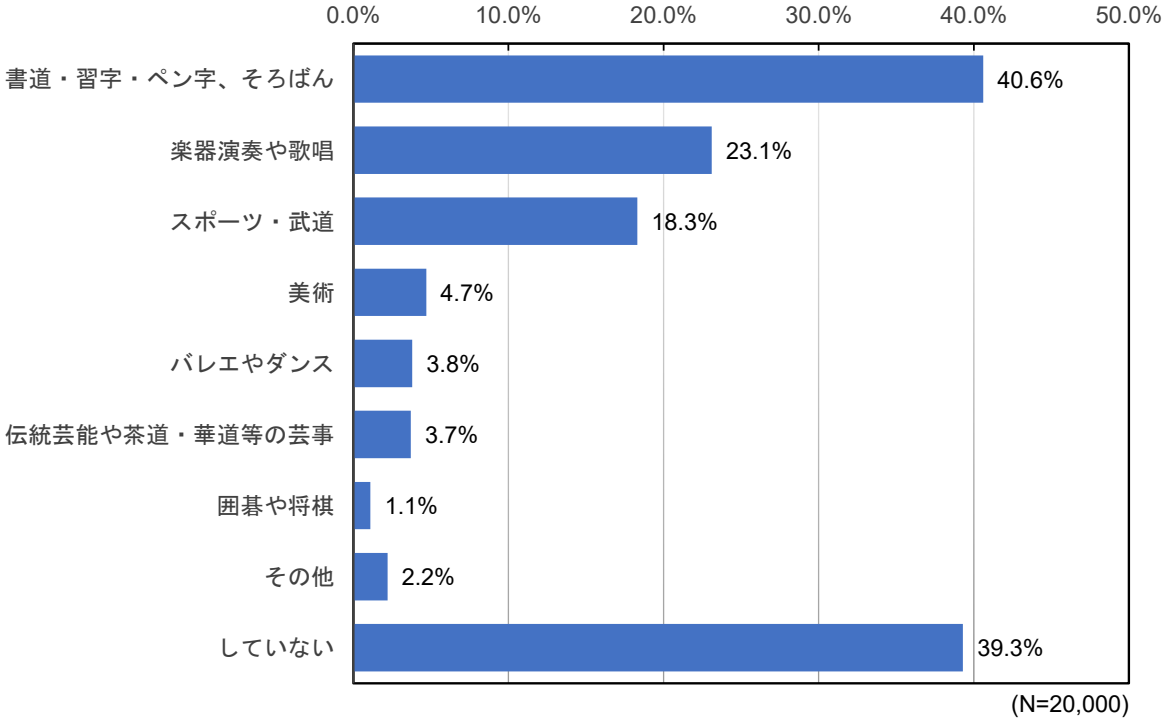
⑥昨年度の世帯全体の年収



⑦最終学歴



⑧子供の頃の習い事（複数回答）



（その他の内容）英会話教室、学習塾、ボーイスカウト

２．共通設問

共通１　あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。（複数回答）

【スポーツ（観戦除く）】

（件・%）

全体	ウォーキング	ジョギング・マラソン	トレーニング	体操（器具を使わないもの）	ゴルフ（コース）	ゴルフ（練習場）	釣り	水泳（プールでの）	サイクリング・サイクルスポーツ	テニス	キャッチボール・野球	スキー
	32.1	7.8	7.0	6.3	5.1	4.0	3.6	3.4	2.9	2.8	2.3	2.3
	卓球	エアロビクス、ジャズダンス	ボウリング	サッカー	バトミントン	スノーボード	バレーボール	柔道・剣道・空手などの武道	バスケットボール	フットサル	スキンダイビング・スキューバダイビング	パークゴルフ・グラウンドゴルフなどの簡易ゴルフ
	2.1	2.0	1.8	1.8	1.6	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7
	ソフトボール	サーフィン・ウィンドサーフィン	乗馬	アイススケート	ゲートボール	ヨット・モーターボート	カヌー・ラフティング	ハンググライダー・パラグライダー				
20,000	0.7	0.5	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1				

【趣味・創作】

（件・%）

全体	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	映画（テレビは除く）	動画鑑賞（レンタル、配信を含む）	園芸、庭いじり	音楽会、コンサートなど	スポーツ観戦（テレビは除く）	美術鑑賞（テレビは除く）	ファッション（楽しみとしての）	編物、織物、手芸	観劇（テレビは除く）	洋楽器の演奏
	17.3	16.1	14.5	13.6	12.8	10.8	7.4	6.7	5.9	5.9	4.9	4.7
	日曜大工	料理（日常的なものは除く）	写真の制作	学習・調べもの	絵を描く、彫刻をする	洋裁、和裁	文芸の創作（小説、詩、和歌、俳句など）	動画の制作・編集	演芸鑑賞（テレビは除く）	お花	模型づくり	書道
	4.6	4.3	3.9	3.7	3.0	2.9	2.3	2.1	2.0	1.8	1.8	1.7
	お茶	趣味工芸（組ひも、ペーパークラフト、革細工など）	邦楽、民謡	コーラス	陶芸	洋舞、社交ダンス	おどり（日舞など）					
20,000	1.6	1.5	1.5	1.1	1.0	0.8	0.4					

【娯楽】

（件・%）

	テレビゲーム（家庭での）	カラオケ	温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）	宝くじ	外食（日常的なものは除く）	ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	中央競馬	バーベキュー	麻雀	パチンコ	将棋	サウナ
全体	7.9	6.9	6.8	5.8	5.5	5.3	4.7	3.8	3.7	3.7	2.8	2.7
	ゲームセンター、ゲームコーナー	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	地方競馬	サッカーくじ（toto）	バー、スナック、パブ、飲み屋	囲碁	ボートレース（競艇）	競輪	ビリヤード	オートレース	クラブ、キャバレー	ディスコ
20,000	2.5	2.3	1.9	1.8	1.7	1.2	1.2	1.0	0.9	0.5	0.5	0.3

【観光・行楽】

（件・%）

	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	ドライブ	動物園、植物園、水族館、博物館	海外旅行	ピクニック・ハイキング・野外散歩	遊園地	帰省旅行	催し物、博覧会	登山	海水浴	オートキャンプ	フィールドアスレチック
全体	30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6

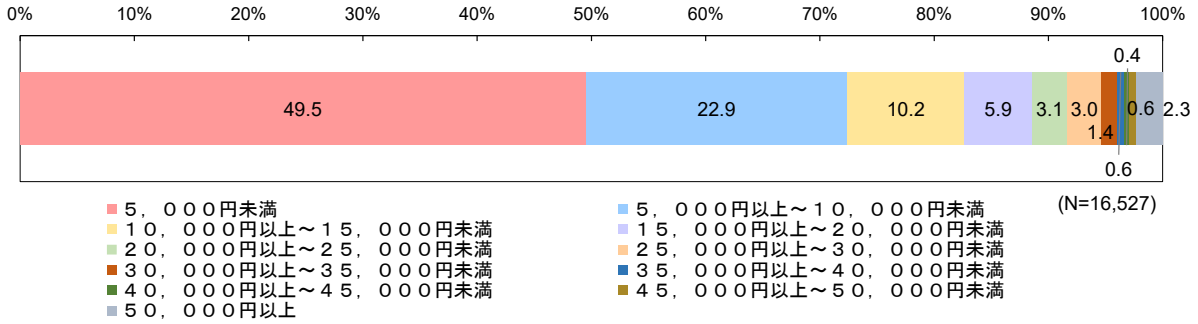
【その他・特に何もしていない】

（件・%）

	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	ウィンドウショッピング	ペット（遊ぶ、世話をする）	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	ヨガ、ピラティス	ボランティア活動	農園（市民農園など）	エステティック、ホームエステ	クルージング（客船による）	自由記述	特に何もしていない
全体	15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4
20,000											

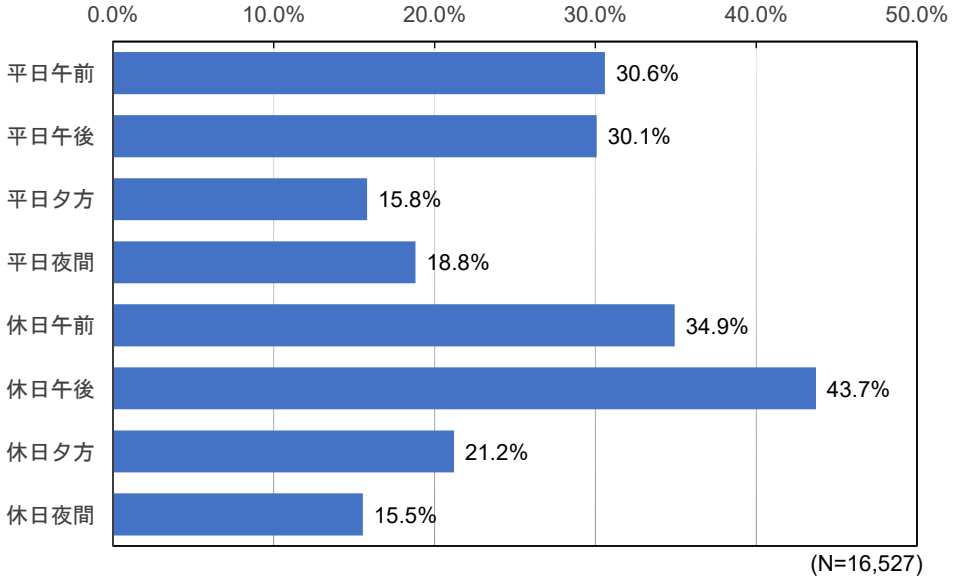
＜共通１で「特に何もしていない」以外を回答した方＞

共通２　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。



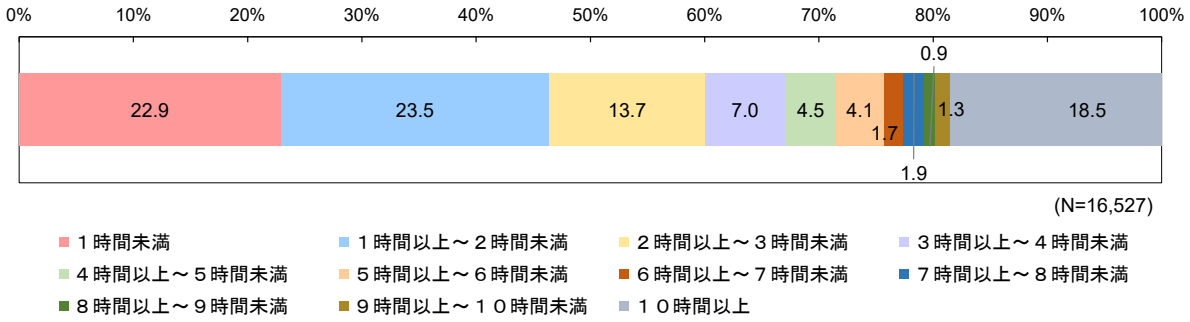
＜共通１で「特に何もしていない」以外を回答した方＞

共通３　あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。（複数回答）

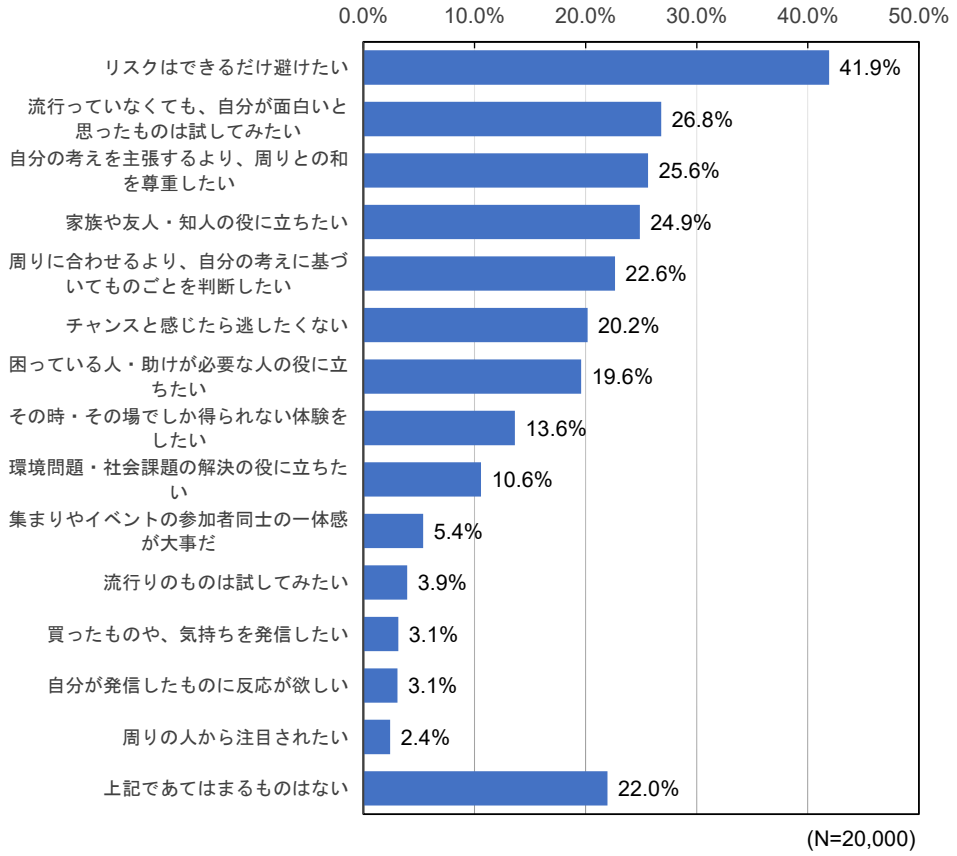


＜共通１で「特に何もしていない」以外を回答した方＞

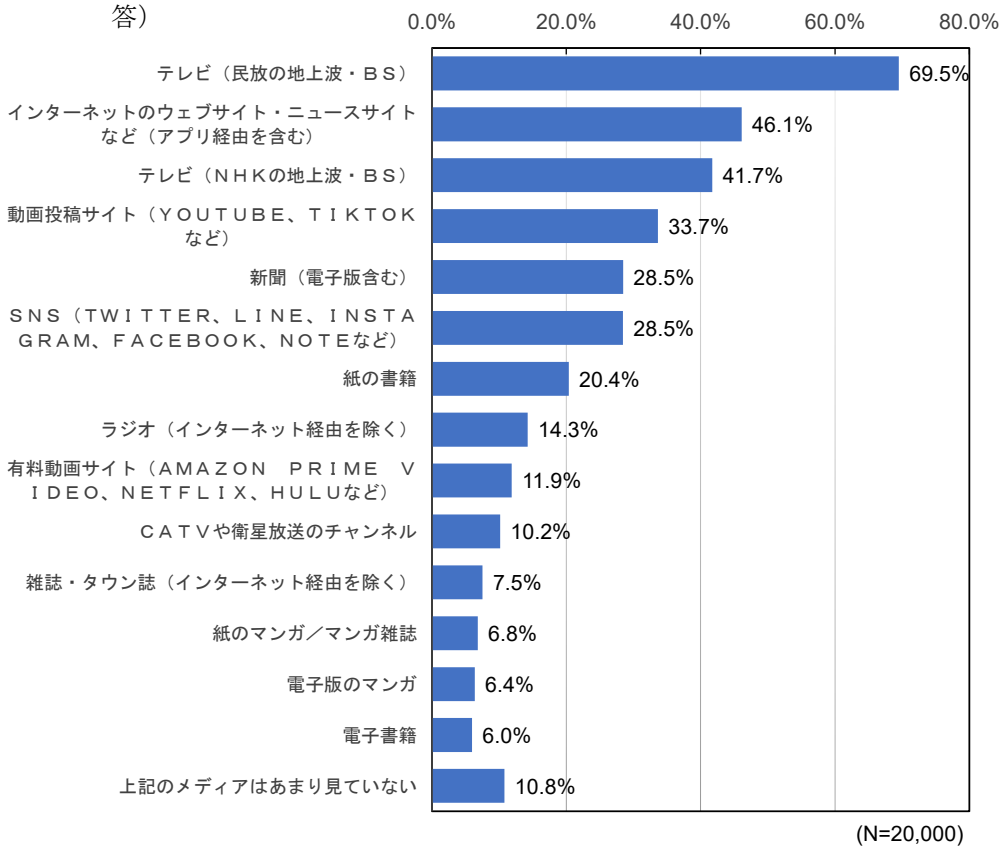
共通４　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。



共通５　下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。（複数回答）



共通６　下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。（複数回答）



３．単純集計の結果について

■全調査対象者への設問（ＦＱ５：盆栽の経験・体験の有無）

盆栽を育てたことがある者、あるいは全く育てたことがない者がどの程度いるのかは、統計調査等では明らかとなっていない。加えて、盆栽の「経験」にも深度があり、盆栽を育てたり盆栽園を営んでいたなどの経験がある者や、イベント等で盆栽の体験をしたことがある者等がいると想定される。経験の有無を大別するならば、盆栽を趣味あるいは職業として育てたことがある者、イベント等で体験をした者、そして盆栽等の経験がない者に分けることができると考えられる。

本設問では、上記の想定に基づき、盆栽の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

ＦＱ５　盆栽の経験の有無

経験率を見ると、「盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）」（以下、「経験あり」）比率は 3.0%（598 人）、「イベント等で盆栽体験をしたことはある」（以下、「参加体験あり」）4.4%（887 人）、「盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない」（以下「未経験」）92.6%（18,515 人）となった。

男女別では、男性で「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者の回答比率がそれぞれ全体平均を上回っており、若干男性が多い。

年齢別では、18～20 代と 70 代以上の回答比率が高く、中間の現役世代が、50 代を底に、低くなっている。

(%)

		n=	盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）	イベント等で盆栽体験をしたことはある	盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない
全体		20,000	3.0	4.4	92.6
性別	男	9,645	4.0	5.0	91.0
	女	10,202	2.1	3.9	94.0
	それ以外／答えたくない	153	0.7	2.0	97.4
年齢	18～20代	2,781	3.3	5.5	91.2
	30代	2,691	2.5	3.9	93.6
	40代	3,496	1.7	4.0	94.3
	50代	3,178	1.5	3.1	95.4
	60代	3,002	2.6	4.1	93.4
	70代以上	4,852	5.2	5.5	89.2

図１　ＦＱ５：盆栽の経験の有無

■「盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）」と回答した者への設問（ＥＱ１～ＥＱ８：経験者の実態把握）

本設問群では、盆栽を育てたことがあると回答した者が、どのようなきっかけや機会で盆栽を育てるようになったのか、また、興味関心を持っているのか等、経験の実態を把握するためのアンケートを実施した。

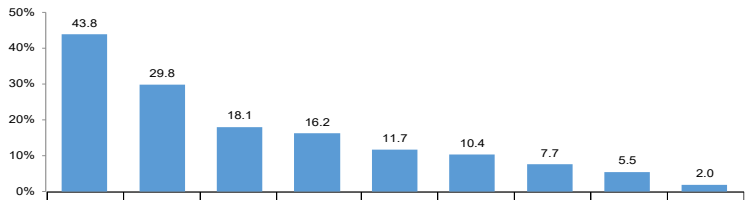
ＥＱ１　盆栽を育て始めたきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」の 43.8%で、次いで「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」29.8%、「友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた」18.1%、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」16.2%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、女性で「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」（49.0%）の回答比率が高く、「友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた」（12.9%）が低い。

次に年齢別で見ると、年齢が高いほど「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」の回答比率が高く、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた」、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」の回答比率が低くなる傾向が見られる。

経験年数別で見ると、「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」については、経験年数が長いほど回答比率が高まる傾向が見られる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	趣味や教養として、盆栽に興味関心があった	友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた	学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした	親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	その他
	全　体	598	43.8	29.8	18.1	16.2	11.7	10.4	7.7	5.5	2.0
性別	男	387	41.1	30.5	20.9	16.5	12.7	10.6	6.5	6.5	1.6
	女	210	49.0	28.6	12.9	15.2	10.0	10.0	10.0	3.8	2.9
	それ以外／答えたくない	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	92	32.6	15.2	17.4	23.9	38.0	10.9	12.0	7.6	-
	30代	67	52.2	19.4	19.4	20.9	22.4	16.4	10.4	6.0	3.0
	40代	59	59.3	22.0	15.3	20.3	13.6	8.5	5.1	6.8	1.7
	50代	49	36.7	24.5	22.4	20.4	8.2	12.2	6.1	6.1	-
	60代	77	48.1	35.1	14.3	16.9	5.2	14.3	11.7	7.8	-
	70代以上	254	42.1	39.0	18.9	10.2	1.6	7.5	5.1	3.5	3.5
経験年数	1年未満	75	56.0	18.7	17.3	9.3	9.3	8.0	9.3	2.7	1.3
	1～3年未満	132	34.8	22.0	21.2	15.9	22.0	16.7	5.3	3.8	3.0
	3～5年未満	120	35.8	30.0	15.0	22.5	15.8	10.0	7.5	5.0	1.7
	5～10年未満	120	45.0	30.0	15.8	16.7	6.7	6.7	5.8	5.8	0.8
	10～20年未満	68	54.4	35.3	19.1	14.7	2.9	7.4	11.8	8.8	1.5
	20年以上	83	48.2	47.0	20.5	14.5	6.0	10.8	9.6	8.4	3.6

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図２　ＥＱ１：盆栽を育て始めたきっかけ

（その他の内容）盆栽が好きだった、園芸店で見て一目惚れ、プレゼントされた

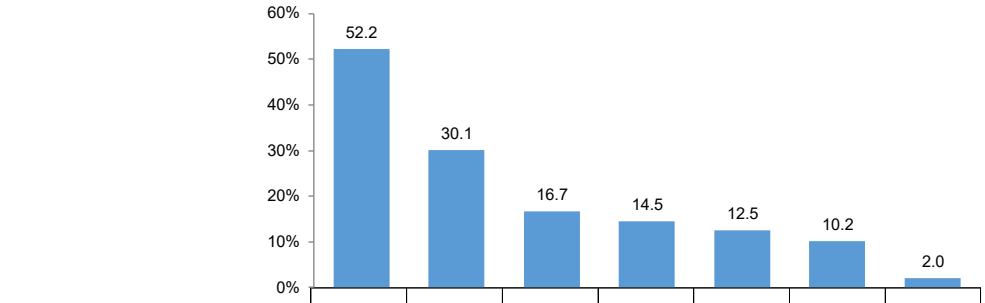
ＥＱ２　盆栽を始めた当初に育て方や剪定の仕方を学んだ方法

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた」の 52.2%で、次いで「雑誌や専門書等を見て学んでいた」30.1%、「ウェブサイトやYouTube 等を見て学んでいた」16.7%、「盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた」14.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では女性で「家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた」（57.6%）が高く、「雑誌や専門書等を見て学んでいた」（23.8%）が低い。

年齢別では、10～30 代で「盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた」、「カルチャーセンターの講座で習っていた」の回答比率が高い。

また、経験年数別では、経験が長いほど「雑誌や専門書等を見て学んでいた」の回答比率が高い。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた	雑誌や専門書等を見て学んでいた	ウェブサイトやYouTube等を見て学んでいた	盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた	盆栽園で教えてもらっていた	カルチャーセンターの講座で習っていた	その他
全 体		598	52.2	30.1	16.7	14.5	12.5	10.2	2.0
性別	男	387	49.4	33.6	16.3	15.0	14.5	10.3	1.8
	女	210	57.6	23.8	17.6	13.8	9.0	10.0	1.9
	それ以外／答えたくない	1	-	-	-	-	-	-	100.0
年齢	18～20代	92	42.4	21.7	18.5	31.5	16.3	22.8	1.1
	30代	67	55.2	19.4	20.9	28.4	26.9	16.4	-
	40代	59	49.2	27.1	22.0	15.3	18.6	11.9	1.7
	50代	49	44.9	34.7	24.5	12.2	8.2	14.3	2.0
	60代	77	55.8	31.2	16.9	10.4	13.0	9.1	-
	70代以上	254	55.9	35.4	12.2	6.3	6.7	3.1	3.5
経験年数	1年未満	75	54.7	21.3	18.7	16.0	5.3	10.7	1.3
	1～3年未満	132	43.2	25.0	19.7	18.9	16.7	15.2	1.5
	3～5年未満	120	45.8	31.7	14.2	15.0	12.5	11.7	2.5
	5～10年未満	120	54.2	31.7	20.0	10.0	9.2	7.5	1.7
	10～20年未満	68	70.6	32.4	8.8	13.2	13.2	4.4	1.5
	20年以上	83	55.4	39.8	15.7	13.3	16.9	8.4	3.6

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図３　ＥＱ２：盆栽を始めた当初に育て方や剪定の仕方を学んだ方法

（その他の内容）自己流、授業の一環で、TV 等から

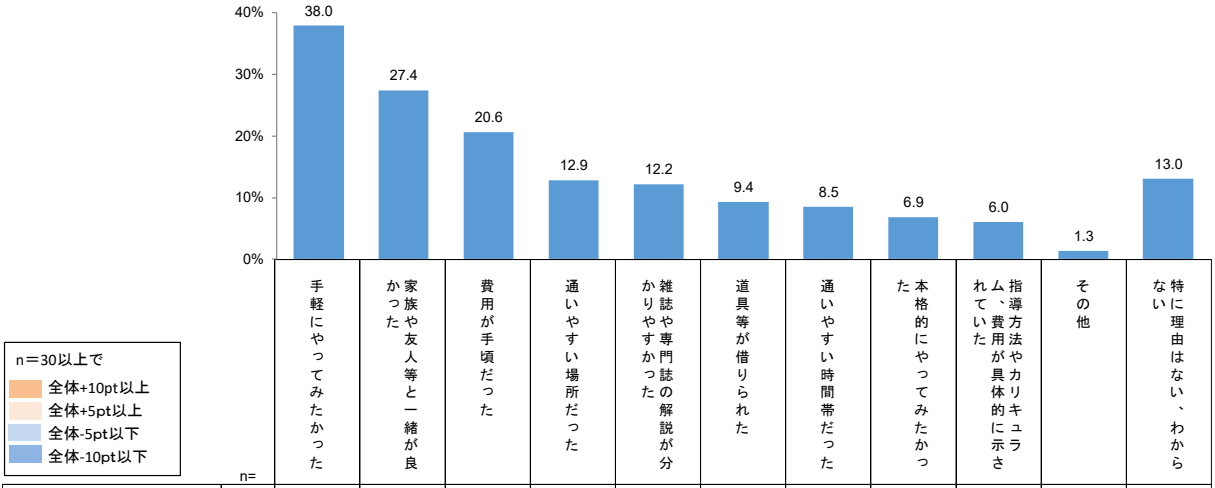
ＥＱ２補問　育て方や剪定の仕方を学んだ方法を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「手軽にやってみたかった」の 38.0%で、次いで「家族や友人等と一緒が良かった」27.4%、「費用が手頃だった」20.6%、「通いやすい場所だった」12.9%、「雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった」12.2%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、女性で「家族や友人等と一緒が良かった」(32.9%) の回答比率が高い。

年齢別では、若いほど「通いやすい場所だった」、「通いやすい時間帯だった」、「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた」の回答比率が高く、高齢の方が「手軽にやってみたかった」という回答比率が高い。

経験年数別では、10 年以上の者で「家族や友人等と一緒が良かった」、「手軽にやってみたかった」の２つの回答比率が高い傾向が見られる。



		n=	手軽にやってみたかった	家族や友人等と一緒が良かった	費用が手頃だった	通いやすい場所だった	雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった	道具等が借りられた	通いやすい時間帯だった	本格的にやってみたかった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	その他	特に理由はない、わから
全 体		598	38.0	27.4	20.6	12.9	12.2	9.4	8.5	6.9	6.0	1.3	13.0
性別	男	387	40.1	24.5	22.2	14.5	13.2	10.3	8.0	7.5	5.9	1.0	12.1
	女	210	34.3	32.9	17.6	10.0	10.5	7.6	9.5	5.7	6.2	1.4	14.8
	それ以外／答えたくない	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
年齢	18～20代	92	14.1	28.3	25.0	19.6	10.9	15.2	19.6	14.1	19.6	1.1	6.5
	30代	67	22.4	44.8	31.3	23.9	14.9	10.4	17.9	9.0	13.4	-	3.0
	40代	59	28.8	33.9	22.0	22.0	6.8	20.3	6.8	6.8	5.1	3.4	3.4
	50代	49	30.6	26.5	22.4	16.3	8.2	10.2	6.1	6.1	2.0	2.0	12.2
	60代	77	57.1	22.1	24.7	13.0	15.6	9.1	7.8	9.1	2.6	1.3	11.7
	70代以上	254	48.4	22.8	14.2	4.7	13.0	4.3	3.1	3.1	1.2	1.2	20.9
経験年数	1年未満	75	30.7	34.7	20.0	12.0	8.0	12.0	6.7	5.3	4.0	2.7	10.7
	1～3年未満	132	33.3	21.2	27.3	17.4	11.4	8.3	9.1	7.6	8.3	0.8	13.6
	3～5年未満	120	40.8	17.5	18.3	13.3	10.0	5.8	9.2	2.5	5.8	0.8	14.2
	5～10年未満	120	35.8	29.2	20.8	9.2	12.5	11.7	9.2	6.7	5.8	2.5	14.2
	10～20年未満	68	47.1	39.7	14.7	11.8	11.8	7.4	7.4	8.8	5.9	-	10.3
	20年以上	83	43.4	32.5	18.1	12.0	20.5	12.0	8.4	12.0	4.8	1.2	13.3

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図４　ＥＱ２補問：育て方や剪定の仕方を学んだ方法を選んだ理由

（その他の内容）授業の一環として、いきなり本格的に続けられる自信がない、植物・盆・土・時間など全て自由

ＥＱ３　現在の継続状況

継続状況については、「続けている」51.8%（310 人）、「続けていない」48.2%（288 人）と、続けているとの回答比率がやや高い。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では女性で「続けている」が 46.2%と低い。

年齢別では若い人ほど継続率が高く、特に 30 代（80.6%）が高い。

経験年数別では、５年以上で「続けている」という回答が半数を上回り、20 年以上では７割以上が継続していることが分かる。

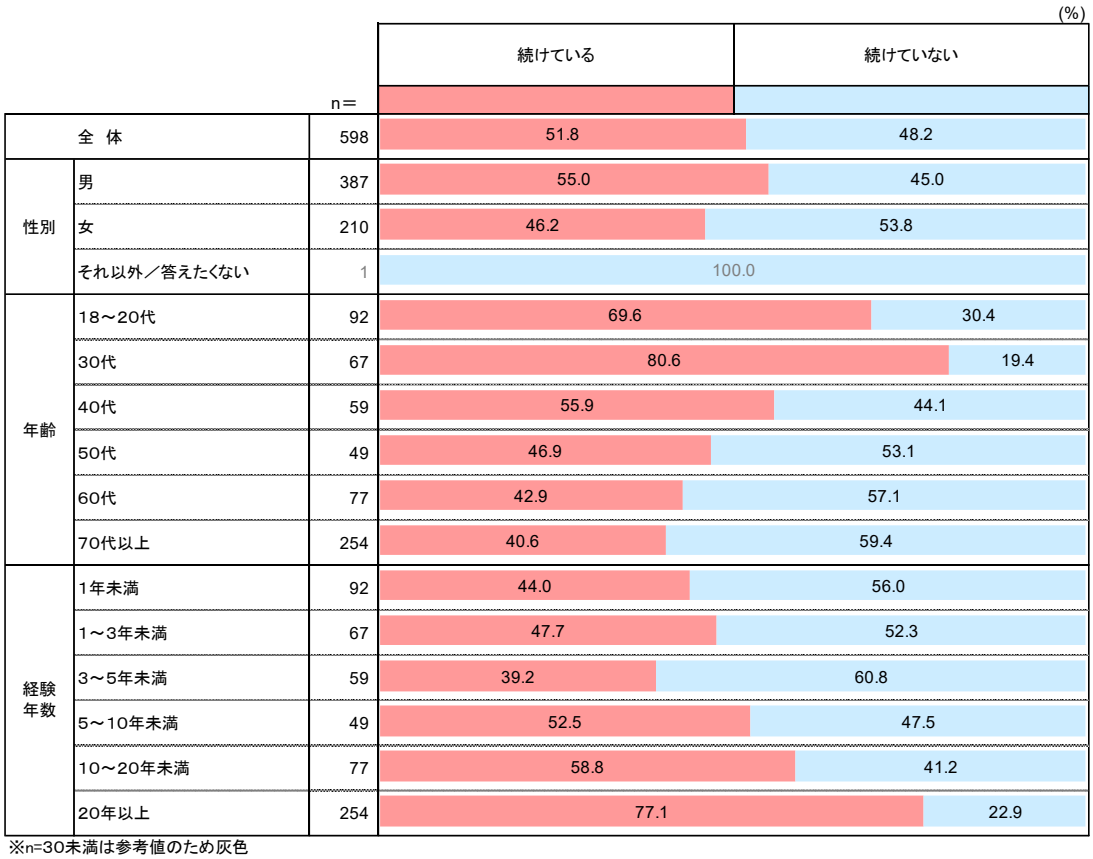


図５　ＥＱ３：現在の継続状況

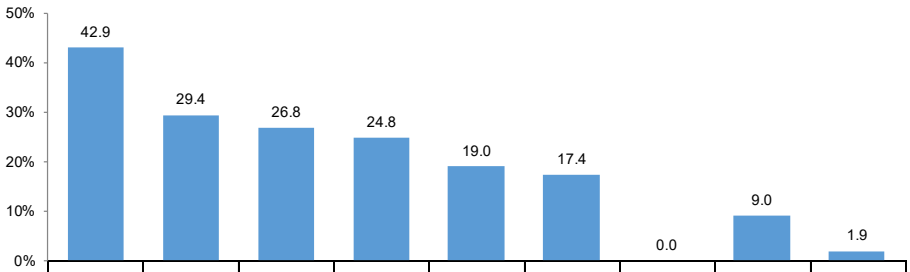
ＥＱ３補問１　盆栽を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）」の 42.9％で、次いで「日本の文化だから」29.4％、「暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）」26.8％、「盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい」24.8％と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、女性で、「暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）」（33.0％）の回答比率が高い。

年齢別では、10～40 代で「盆栽園を営みたい（営んでいる）」、「日本の文化だから」の回答比率が高く、60 代以上で「盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）」、「暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）」の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、経験年数が長い方が「盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）」、「暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）」の回答比率が高くなる傾向が見られる。また、経験年数が３年未満の者は「盆栽園を営みたい（営んでいる）」の回答比率が高く、経験年数によって、継続理由が異なる傾向がうかがえる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）	日本の文化だから	暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）	盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい	盆栽園を営みたい（営んでいる）	一緒に楽しむ仲間がいる	その他	特に理由はない	上記の中で当てはまるものはない
全 体		310	42.9	29.4	26.8	24.8	19.0	17.4	-	9.0	1.9
性別	男	213	40.8	30.5	23.9	26.3	17.8	16.4	-	9.4	2.3
	女	97	47.4	26.8	33.0	21.6	21.6	19.6	-	8.2	1.0
	それ以外／答えたくない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	64	18.8	39.1	15.6	25.0	39.1	18.8	-	3.1	3.1
	30代	54	35.2	46.3	24.1	27.8	35.2	35.2	-	3.7	-
	40代	33	39.4	36.4	21.2	27.3	24.2	18.2	-	-	3.0
	50代	23	56.5	30.4	17.4	39.1	17.4	8.7	-	4.3	-
	60代	33	48.5	18.2	30.3	21.2	9.1	12.1	-	24.2	-
	70代以上	103	58.3	15.5	37.9	20.4	-	10.7	-	14.6	2.9
経験年数	1年未満	33	18.2	21.2	12.1	33.3	51.5	12.1	-	3.0	-
	1～3年未満	63	34.9	38.1	20.6	28.6	25.4	25.4	-	1.6	3.2
	3～5年未満	47	38.3	48.9	23.4	19.1	21.3	21.3	-	4.3	-
	5～10年未満	63	46.0	20.6	22.2	22.2	7.9	12.7	-	14.3	-
	10～20年未満	40	50.0	25.0	40.0	20.0	10.0	17.5	-	12.5	5.0
	20年以上	64	59.4	21.9	39.1	26.6	10.9	14.1	-	15.6	3.1

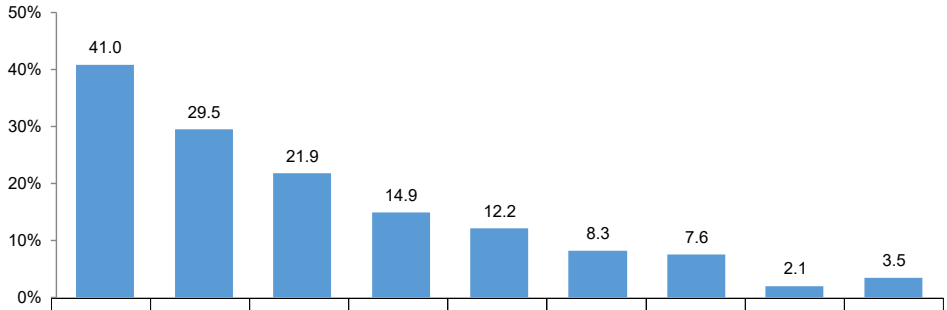
※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図６　ＥＱ３補問１：盆栽を続けている理由

ＥＱ３補問２　盆栽から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった」の 41.0%で、次いで「時間がなくなった」29.5%、「興味を失った」21.9%と続く。

経験年数別では、３～５年未満の者で「興味を失った」（32.9%）の回答比率が高く、５～10 年未満の者で「一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった」（19.3%）、「経済的に続けるのが難しくなった」（15.8%）の回答比率がやや高い。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった	時間がなくなった	興味を失った	手入れ等の相談をできる場所がなくなった	一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった	経済的に続けるのが難しくなった	健康面、体調面で続けることが難しくなった	盆栽園を閉鎖した	その他
全　体		288	41.0	29.5	21.9	14.9	12.2	8.3	7.6	2.1	3.5
性別	男	174	42.0	29.9	24.7	14.4	9.8	9.8	5.7	1.7	2.9
	女	113	39.8	28.3	17.7	15.9	15.9	6.2	10.6	2.7	3.5
	それ以外／答えたくない	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
年齢	18～20代	28	35.7	46.4	7.1	28.6	14.3	10.7	3.6	3.6	3.6
	30代	13	69.2	30.8	30.8	15.4	7.7	15.4	-	-	-
	40代	26	42.3	34.6	3.8	23.1	7.7	15.4	7.7	3.8	7.7
	50代	26	23.1	46.2	15.4	11.5	11.5	3.8	-	-	3.8
	60代	44	43.2	31.8	27.3	18.2	15.9	6.8	11.4	-	2.3
	70代以上	151	41.7	21.9	26.5	10.6	11.9	7.3	9.3	2.6	3.3
経験年数	1年未満	42	35.7	31.0	23.8	16.7	9.5	7.1	2.4	2.4	2.4
	1～3年未満	69	44.9	33.3	21.7	17.4	5.8	5.8	5.8	-	4.3
	3～5年未満	73	34.2	21.9	32.9	12.3	15.1	4.1	1.4	4.1	2.7
	5～10年未満	57	45.6	33.3	12.3	15.8	19.3	15.8	10.5	1.8	5.3
	10～20年未満	28	39.3	28.6	14.3	14.3	14.3	10.7	21.4	3.6	-
	20年以上	19	52.6	31.6	15.8	10.5	5.3	10.5	21.1	-	5.3

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図７　ＥＱ３補問２：盆栽から離れたきっかけや理由

（その他の内容）枯らしてしまった、転勤で移動が難しかった、ランの栽培に変更

ＥＱ４　盆栽を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「１～３年未満」の 22.1%で、次いで「３～５年未満」及び「５～10 年未満」（共に 20.1%）が続く。全体平均で３年以上続けている（いた）人の比率は 65.4%となっている。

男女別では、３年以上継続している者は、男性で 68.7%（387 人中 266 人）、女性で 59.5%（210 人中 125 人）となっており、男性の方が長く続けている（いた）人の割合が高いことが分かる。

(%)

		n=	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	3年以上
全 体		598	12.5	22.1	20.1	20.1	11.4	13.9	65.4
性別	男	387	11.6	19.6	21.4	19.9	10.6	16.8	68.7
	女	210	14.3	26.2	17.6	20.5	12.9	8.6	59.5
	それ以外／答えたくない	1	100.0						-
年齢	18～20代	92	19.6	33.7	23.9	17.4	2.2	3.3	46.7
	30代	67	17.9	28.4	23.9	13.4	11.9	4.5	53.7
	40代	59	22.0	23.7	16.9	22.0	13.6	1.7	54.2
	50代	49	16.3	30.6	20.4	22.4	6.1	4.1	53.1
	60代	77	14.3	20.8	14.3	16.9	15.6	18.2	64.9
	70代以上	254	5.1	14.6	20.1	22.8	13.8	23.6	80.3

※n=30未満は参考値のため灰色

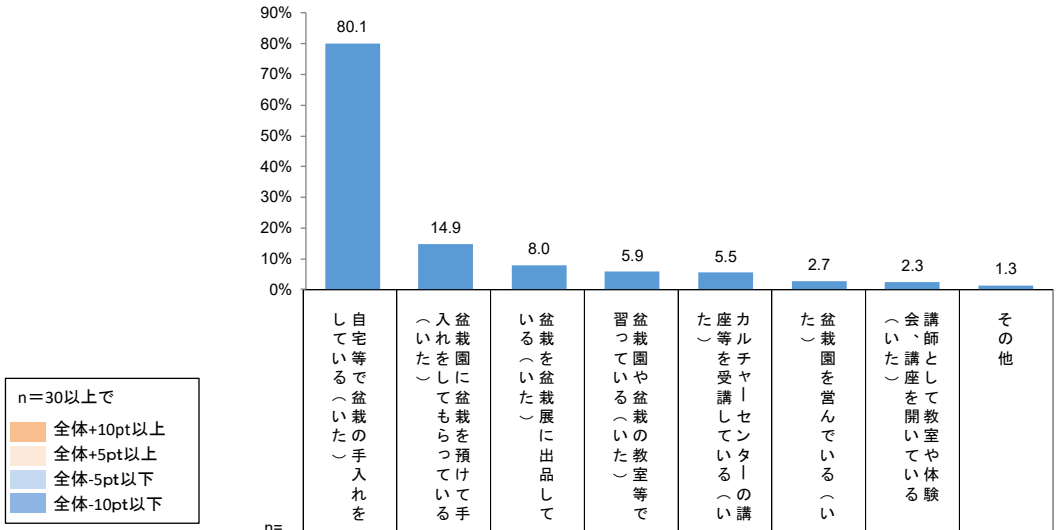
図８　ＥＱ４：盆栽を続けている（続けていた）年数

ＥＱ５　盆栽に関する活動内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）」の 80.1%で、次いで「盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）」14.9%、「盆栽を盆栽展に出品している（いた）」8.0%、「盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）」5.9%、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」5.5%と続く。

全体平均の回答比率と年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず年齢別では、年齢が低いほど「自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）」の回答比率が低く、「盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）」、「盆栽を盆栽展に出品している（いた）」、「カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）」という回答比率が高くなっている。

また、経験年数 10 年以上では「自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）」の回答比率が高く、「盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）」が低い。



		n=	自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）	盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）	盆栽を盆栽展に出品している（いた）	盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）	カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）	盆栽園を営んでいる（いた）	講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）	その他
全 体		598	80.1	14.9	8.0	5.9	5.5	2.7	2.3	1.3
性別	男	387	80.1	15.5	8.8	6.5	5.7	2.1	2.1	1.3
	女	210	80.5	13.8	6.7	4.8	5.2	3.8	2.9	1.0
	それ以外／答えたくない	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
年齢	18～20代	92	46.7	40.2	16.3	15.2	10.9	6.5	9.8	-
	30代	67	70.1	28.4	22.4	9.0	11.9	6.0	3.0	-
	40代	59	72.9	22.0	10.2	13.6	6.8	3.4	-	-
	50代	49	81.6	12.2	6.1	2.0	4.1	2.0	2.0	2.0
	60代	77	85.7	11.7	5.2	2.6	5.2	2.6	2.6	1.3
	70代以上	254	94.5	2.0	2.0	1.6	2.0	0.4	-	2.4
経験年数	1年未満	75	77.3	18.7	5.3	5.3	5.3	1.3	2.7	2.7
	1～3年未満	132	69.7	23.5	9.1	8.3	6.1	3.8	0.8	2.3
	3～5年未満	120	73.3	16.7	10.8	4.2	5.0	2.5	2.5	1.7
	5～10年未満	120	81.7	13.3	7.5	6.7	7.5	0.8	2.5	-
	10～20年未満	68	94.1	4.4	4.4	4.4	2.9	4.4	1.5	1.5
	20年以上	83	95.2	6.0	8.4	4.8	4.8	3.6	4.8	-

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図９　ＥＱ５：盆栽に関する活動内容

（その他の内容）授業で知識を得た、何もしていない

ＥＱ６　盆栽に関する活動頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「週に２～３回」の 28.9%で、次いで「ほぼ毎日」の 20.9%、「週１回程度」20.4%と続く。週１回以上活動している（いた）比率は 70.2%（598 人中 420 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で週１回以上活動している（いた）比率が 72.6%（387 人中 281 人）、女性で 66.2%（210 人中 139 人）となっている。

年齢別で見ると、30～40 代で、週１回以上活動している（いた）回答比率が全体平均を上回っている。

また、経験年数別では、経験年数５年以上の者で週１回以上活動している（いた）回答比率が全体平均を上回っている。

(%)

		n=	ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度	週1回以上
全 体		598	20.9	28.9	20.4	11.2	5.9	5.7	7.0	70.2
性別	男	387	22.0	29.7	20.9	11.1	5.9	5.2	5.2	72.6
	女	210	19.0	27.6	19.5	11.4	5.7	6.7	10.0	66.2
	それ以外／答えたくない	1	100.0							-
年齢	18～20代	92	23.9	28.3	17.4	14.1	6.5	3.3	6.5	69.6
	30代	67	34.3	32.8	17.9	6.0	3.0	3.0	3.0	85.1
	40代	59	32.2	22.0	27.1	8.5	3.4	1.7	5.1	81.4
	50代	49	10.2	30.6	12.2	10.2	10.2	16.3	10.2	53.1
	60代	77	19.5	27.3	22.1	13.0	6.5	5.2	6.5	68.8
	70代以上	254	16.1	29.9	21.7	11.8	5.9	6.3	8.3	67.7
経験年数	1年未満	75	32.0	17.3	14.7	6.7	6.7	6.7	16.0	64.0
	1～3年未満	132	11.4	37.1	21.2	12.1	6.8	3.0	8.3	69.7
	3～5年未満	120	15.0	33.3	21.7	14.2	5.0	5.0	5.8	70.0
	5～10年未満	120	15.8	32.5	23.3	10.8	4.2	10.0	3.3	71.7
	10～20年未満	68	27.9	22.1	25.0	11.8	4.4	4.4	4.4	75.0
	20年以上	83	36.1	20.5	14.5	9.6	8.4	4.8	6.0	71.1

※n=30未満は参考値のため灰色

図 10　ＥＱ６：盆栽に関する活動頻度

ＥＱ７　盆栽に関する月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは月額「5,000 円未満」の 66.6%で、次いで「5,000 円以上～10,000 円未満」14.4%、「10,000 円以上～15,000 円未満」5.2%と続く。月額１万円以上支出している（いた）と回答した比率は 19.1%（598 人中 114 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、月額１万円以上支出の割合が、男性 21.7%（387 人中 84 人）、女性 14.3%（210 人中 30 人）と男性の方が高い。

次に年齢別で見ると、年齢が低いほど、月額１万円以上支出している（いた）割合が高いことが分かる。

また、経験年数別では、経験年数１年未満の者、20 年以上の者は月額「5,000 円未満」の回答比率が高い。

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計10,000円以上
全体		598	66.6	14.4	5.2	3.5	3.7	1.2	1.3	1.2	0.7	0.8	1.5	19.1
性別	男	387	64.6	13.7	6.5	4.4	4.1	1.3	1.3	1.8	0.8	0.8	0.8	21.7
	女	210	70.0	15.7	2.9	1.9	2.9	1.0	1.4	-	0.5	1.0	2.9	14.3
	それ以外／答えたくない	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢	18～20代	92	33.7	23.9	13.0	5.4	8.7	1.1	1.1	4.3	2.2	3.3	3.3	42.4
	30代	67	49.3	9.0	7.5	7.5	10.4	1.5	6.0	3.0	3.0	-	3.0	41.8
	40代	59	54.2	15.3	10.2	5.1	6.8	3.4	3.4	-	-	1.7	-	30.5
	50代	49	71.4	10.2	4.1	4.1	4.1	2.0	-	-	-	2.0	2.0	18.4
	60代	77	76.6	14.3	2.6	1.3	1.3	-	1.3	-	-	-	2.6	9.1
	70代以上	254	81.9	13.0	1.6	2.0	-	0.8	-	0.4	-	-	0.4	5.1
経験年数	1年未満	75	82.7	6.7	5.3	-	2.7	-	1.3	-	-	-	1.3	10.7
	1～3年未満	132	65.2	17.4	8.3	2.3	3.0	0.8	1.5	1.5	-	-	-	17.4
	3～5年未満	120	60.0	18.3	4.2	4.2	7.5	0.8	0.8	1.7	0.8	0.8	0.8	21.7
	5～10年未満	120	62.5	12.5	5.0	5.8	5.0	1.7	2.5	1.7	0.8	2.5	-	25.0
	10～20年未満	68	63.2	14.7	5.9	5.9	-	2.9	-	-	2.9	1.5	2.9	22.1
	20年以上	83	72.3	13.3	1.2	2.4	1.2	1.2	1.2	1.2	-	-	6.0	14.5

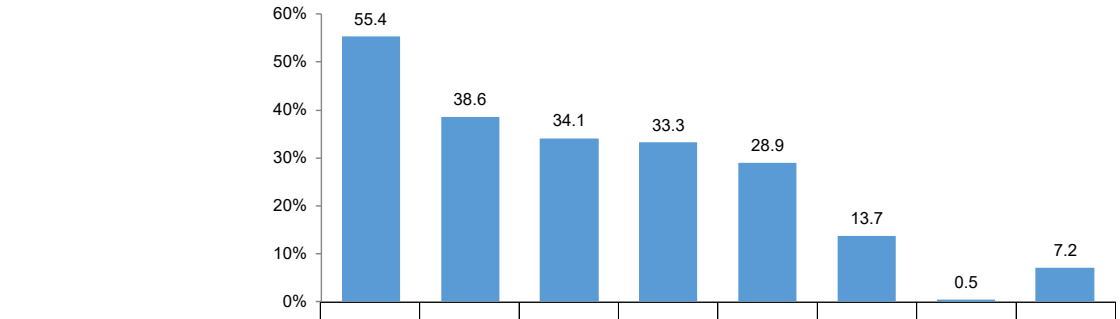
※n=30未満は参考値のため灰色

図 11　ＥＱ７：盆栽に関する月額費用

ＥＱ８　盆栽に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形」の 55.4%で、次いで「盆栽を育てる中で感じられる四季等」38.6%、「盆栽として仕立てていくための剪定等の技術」34.1%、「樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形」33.3%と続く。

経験年数別では、年数が長いほど「盆栽を育てる中で感じられる四季等」、「盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる」の回答比率が高い。



		n=	盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形	盆栽を育てる中で感じられる四季等	盆栽として仕立てていくための剪定等の技術	樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形	盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		598	55.4	38.6	34.1	33.3	28.9	13.7	0.5	7.2
性別	男	387	56.8	37.0	36.7	34.4	28.4	14.2	0.5	7.5
	女	210	52.9	41.4	29.5	31.4	29.5	12.4	0.5	6.7
	それ以外／答えたくない	1	-	100.0	-	-	100.0	100.0	-	-
年齢	18～20代	92	47.8	21.7	38.0	29.3	22.8	14.1	-	6.5
	30代	67	49.3	37.3	37.3	40.3	32.8	10.4	-	-
	40代	59	61.0	40.7	40.7	37.3	35.6	18.6	1.7	-
	50代	49	55.1	38.8	38.8	30.6	22.4	18.4	-	-
	60代	77	58.4	44.2	41.6	42.9	24.7	16.9	1.3	13.0
	70代以上	254	57.5	42.9	27.2	29.5	31.1	11.4	0.4	10.6
経験年数	1年未満	75	56.0	26.7	26.7	28.0	16.0	12.0	1.3	5.3
	1～3年未満	132	48.5	31.8	33.3	32.6	22.7	9.8	1.5	6.8
	3～5年未満	120	50.8	30.8	35.0	24.2	30.0	14.2	-	7.5
	5～10年未満	120	58.3	41.7	36.7	37.5	30.8	13.3	-	7.5
	10～20年未満	68	60.3	50.0	35.3	33.8	33.8	17.6	-	2.9
	20年以上	83	63.9	57.8	36.1	45.8	42.2	18.1	-	12.0

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 12　ＥＱ８：盆栽に関する興味関心や魅力

（その他の内容）静かなペットのような存在感、インテリアとして、緑に親しむ

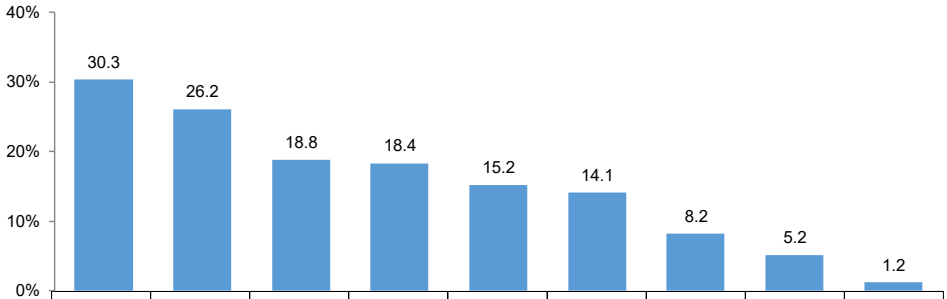
■「イベント等で盆栽体験をしたことはある」と回答した者への設問（ＥＱ９～ＥＱ15：参加体験者の実態把握）

本設問では、盆栽をイベント等で体験したと回答した者が、どのようなきっかけや機会で盆栽に関わる体験をしたのか、また、どの程度盆栽に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

ＥＱ９　盆栽を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」の 30.3%で、次いで「学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た」26.2%、「友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた」18.8%、「趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した」18.4%と続く。

年齢別では 10～30 代で「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた」の回答比率が高く、60 代以上は「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」の回答比率が高い。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た	友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた	趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	その他
全体		887	30.3	26.2	18.8	18.4	15.2	14.1	8.2	5.2	1.2
性別	男	483	26.9	27.5	21.7	18.2	15.7	15.1	7.5	5.6	0.8
	女	401	34.7	24.4	15.5	18.7	14.5	12.7	9.0	4.7	1.7
	それ以外／答えたくない	3	-	33.3	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-
年齢	18～20代	152	19.1	30.9	17.8	7.9	17.8	28.3	12.5	5.3	0.7
	30代	106	22.6	25.5	23.6	18.9	12.3	20.8	7.5	5.7	-
	40代	141	27.7	24.1	19.9	15.6	14.9	16.3	5.7	5.7	-
	50代	98	32.7	38.8	16.3	13.3	19.4	10.2	7.1	8.2	-
	60代	122	39.3	27.0	13.1	19.7	15.6	6.6	6.6	3.3	0.8
	70代以上	268	36.2	19.8	20.5	26.9	13.4	7.1	8.6	4.5	3.4

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 13　ＥＱ９：盆栽を体験したきっかけ

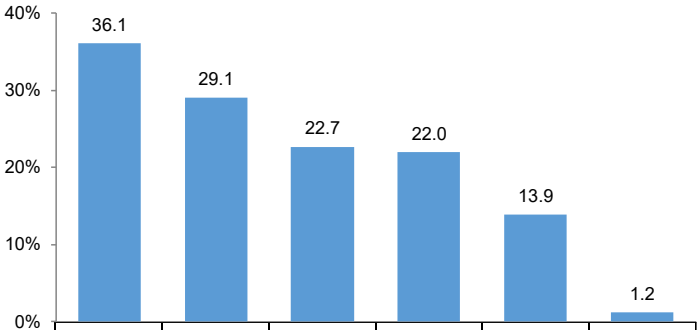
（その他の内容）趣味が多いため、隣に盆栽をたくさん作っている人が越してきた

ＥＱ10　盆栽を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「文化施設等で行われた体験イベント」の 36.1%で、次いで「盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会」29.1%、「自宅」22.7%、「学校の授業や職場の研修会」22.0%となる。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、女性で「学校の授業や職場の研修会」（16.5%）の回答比率が低い。

また、年齢別では、10～30 代で「学校の授業や職場の研修会」の回答比率が高い。また、10～40 代では「盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会」の回答比率が低い。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	文化施設等で行われた体験イベント	盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会	自宅	学校の授業や職場の研修会	自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験	その他
全 体		887	36.1	29.1	22.7	22.0	13.9	1.2
性別	男	483	34.4	26.7	23.8	26.3	13.9	0.8
	女	401	38.4	32.2	21.2	16.5	14.0	1.7
	それ以外／答えたくない	3	-	-	33.3	66.7	-	-
年齢	18～20代	152	32.2	23.0	17.8	36.8	17.8	0.7
	30代	106	34.9	23.6	14.2	37.7	16.0	0.9
	40代	141	40.4	22.0	17.7	25.5	14.2	0.7
	50代	98	33.7	34.7	20.4	20.4	12.2	1.0
	60代	122	38.5	27.9	28.7	13.9	12.3	2.5
	70代以上	268	36.2	36.9	29.5	9.7	11.9	1.5

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

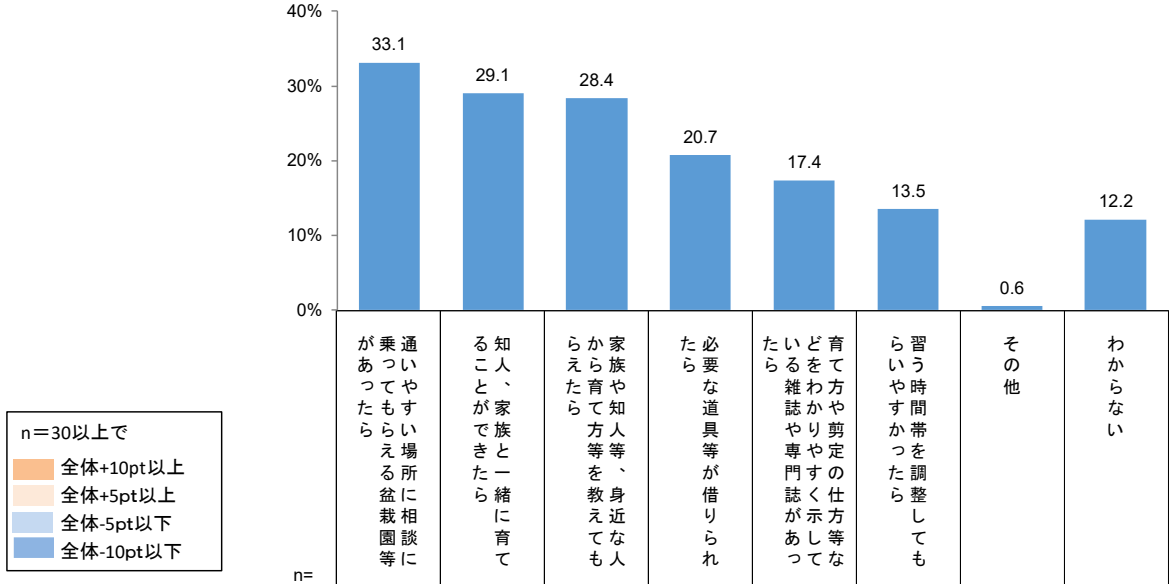
図 14　ＥＱ10：盆栽を体験した場

（その他の内容）愛好者の家で手入れを体験、企業のイベント、盆栽の美術館に行った、結婚式場の花屋で仕事をしていた

ＥＱ11　盆栽を育てやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら」の 33.1%で、次いで「知人、家族と一緒に育てることができたら」29.1%、「家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら」28.4%、少し離れて「必要な道具等が借りられたら」20.7%と並ぶ。

全体平均の回答比率と年齢別の回答比率とを比較した場合、30 代で「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら」の回答比率がやや低い一方、40～50 代ではやや高い。



		n=	通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら	知人、家族と一緒に育てることができたら	家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら	必要な道具等が借りられたら	育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら	習う時間帯を調整してもらいやすかったら	その他	わからない
全 体		887	33.1	29.1	28.4	20.7	17.4	13.5	0.6	12.2
性別	男	483	32.1	29.4	26.9	22.8	17.4	15.7	0.4	11.8
	女	401	34.4	28.7	30.4	18.2	17.2	11.0	0.7	12.7
	それ以外／答えたくない	3	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-
年齢	18～20代	152	29.6	28.3	27.0	18.4	13.8	16.4	-	7.9
	30代	106	26.4	31.1	23.6	22.6	16.0	19.8	-	1.9
	40代	141	41.1	34.0	27.7	22.0	12.8	13.5	-	9.9
	50代	98	38.8	27.6	24.5	27.6	13.3	16.3	-	12.2
	60代	122	37.7	26.2	28.7	19.7	23.0	15.6	1.6	13.9
	70代以上	268	29.5	28.0	32.8	18.7	21.3	7.5	1.1	19.0

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 15　ＥＱ11：盆栽を育てやすい状況

（その他の内容）置く場所次第、人様の作品で楽しませていただく

ＥＱ12　盆栽に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000 円未満」の 43.9%で、次いで「5,000 円以上～10,000 円未満」27.8%、「10,000 円以上～15,000 円未満」9.8%となった。月額１万円以上支払ってもいいと回答した比率は 28.3%（887 人中 251 人）である。

男女別を見ると、男性で月額１万円以上支払ってもよいという回答比率が 31.5%（483 人中 152 人）あったのに対し、女性は 24.4%（401 人中 98 人）にとどまる。

また、年齢別では、年齢が若いほど月額１万円以上支払ってもよいという回答が増える傾向がある。

n=30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	5,000円未満	15,000円以上～	11,000円以上～	21,000円以上～	22,000円以上～	32,000円以上～	33,000円以上～	43,000円以上～	44,000円以上～	54,000円以上～	50,000円以上	合計10,000円以上
全体		887	43.9	27.8	9.8	5.6	5.1	2.9	1.6	0.7	0.6	0.5	1.6	28.3
性別	男	483	37.9	30.6	11.4	6.4	5.6	3.7	2.1	0.4	0.2	0.2	1.4	31.5
	女	401	51.1	24.4	8.0	4.7	4.5	2.0	1.0	1.0	1.0	0.7	1.5	24.4
	それ以外／答えたくない	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3
年齢	18～20代	152	21.7	28.3	15.8	10.5	9.2	3.9	2.6	3.3	-	2.0	2.6	50.0
	30代	106	28.3	19.8	14.2	9.4	15.1	3.8	3.8	-	3.8	-	1.9	51.9
	40代	141	34.8	29.8	12.8	5.7	6.4	5.7	2.8	-	0.7	-	1.4	35.5
	50代	98	49.0	28.6	11.2	6.1	2.0	1.0	-	1.0	-	-	1.0	22.4
	60代	122	58.2	27.9	6.6	4.1	0.8	0.8	0.8	-	-	-	0.8	13.9
	70代以上	268	59.0	29.5	4.1	1.9	1.1	2.2	0.4	-	-	0.4	1.5	11.6

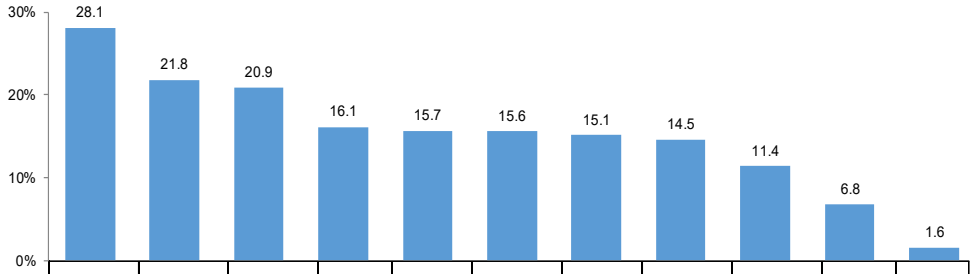
※n=30未満は参考値のため灰色

図 16　ＥＱ12：盆栽に支払える月額費用

ＥＱ13　盆栽を育てていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった」の 28.1%で、次いで「盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった」21.8%、「植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う」20.9%、「興味がなかった」16.1%となった。

年齢別では、18～20 代で「始めるための費用が確保できなかった」の回答比率が高い一方、60 代では「盆栽を育てて管理できる場所がない」、70 代以上では「植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う」、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」の回答比率が高く、年代によって育てていない理由に異なる傾向が見られる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった	盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった	植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う	興味がなかった	始めるための費用が確保できなかった	盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった	盆栽を育てて管理できる場所がない	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	一緒にやってくれる人がいない	自分の趣味と合わない	その他
全 体		887	28.1	21.8	20.9	16.1	15.7	15.6	15.1	14.5	11.4	6.8	1.6
性別	男	483	27.3	25.3	19.5	17.4	16.8	18.6	14.7	13.7	14.1	6.2	0.8
	女	401	29.2	17.7	22.7	14.2	14.2	12.0	15.7	15.7	8.2	7.2	2.5
	それ以外／答えたくない	3	-	-	-	66.7	33.3	-	-	-	-	33.3	-
年齢	18～20代	152	31.6	15.1	16.4	20.4	24.3	13.8	9.9	11.8	10.5	5.3	-
	30代	106	28.3	21.7	14.2	11.3	17.9	13.2	10.4	6.6	11.3	4.7	-
	40代	141	31.2	22.7	15.6	13.5	13.5	14.9	16.3	12.8	17.0	4.3	-
	50代	98	34.7	21.4	19.4	15.3	17.3	14.3	11.2	11.2	14.3	6.1	2.0
	60代	122	27.0	23.0	18.9	19.7	11.5	14.8	21.3	15.6	11.5	5.7	2.5
	70代以上	268	22.4	24.6	30.2	15.7	12.3	18.7	17.9	20.9	7.8	10.4	3.4

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

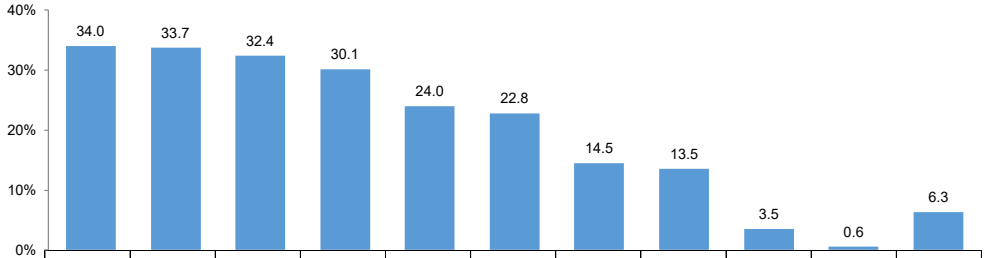
図 17　ＥＱ13：盆栽を育てていない理由

（その他の内容）毎日の水やりが大変、鑑賞だけで十分、素敵に思うが洋風な家で合わない

ＥＱ14　盆栽に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「剪定や育成等が難しい」の 34.0%で、ほぼ同率で「盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる」33.7%、「日本の伝統文化への理解を深められる」32.4%と続き、次いで「暮らし、生活が豊かになる」30.1%、「植物を育てるための環境を整えるのが難しい」24.0%となっており、剪定や育成の難しさがわずかに先行してはいるが、肯定的なイメージへの回答比率が高くなっている。

年齢別では、10～40 代で「盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる」の回答比率が低く、10～30 代で「剪定や育成等が難しい」、「植物を扱うのは容易ではない」という回答比率が低い。一方、60 代以上で「剪定や育成等が難しい」の回答比率が高くなる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	剪定や育成等が難しい	盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる	日本の伝統文化への理解を深められる	暮らし、生活が豊かになる	盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい	植物を扱うのは容易ではない	道具等にお金がかかる	育て始めると時間を取られる	一般に知られていない	その他	特に印象はない、わからない
全 体		887	34.0	33.7	32.4	30.1	24.0	22.8	14.5	13.5	3.5	0.6	6.3
性別	男	483	34.0	32.3	34.6	29.4	23.4	20.9	14.3	11.8	2.1	0.2	7.9
	女	401	34.4	35.7	29.4	31.2	24.9	25.2	14.7	15.5	5.0	1.0	4.5
	それ以外／答えたくない	3	-	-	66.7	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-
年齢	18～20代	152	19.7	23.0	32.2	17.1	22.4	16.4	13.8	12.5	6.6	-	7.2
	30代	106	20.8	26.4	37.7	30.2	17.9	14.2	12.3	10.4	3.8	-	3.8
	40代	141	32.6	27.0	27.0	29.8	22.0	26.2	19.1	14.9	5.7	-	3.5
	50代	98	29.6	39.8	41.8	35.7	25.5	24.5	12.2	11.2	3.1	-	5.1
	60代	122	40.2	38.5	30.3	34.4	30.3	22.1	14.8	14.8	0.8	0.8	6.6
	70代以上	268	47.0	41.8	30.6	33.6	25.0	27.6	14.2	14.9	1.9	1.5	8.6

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

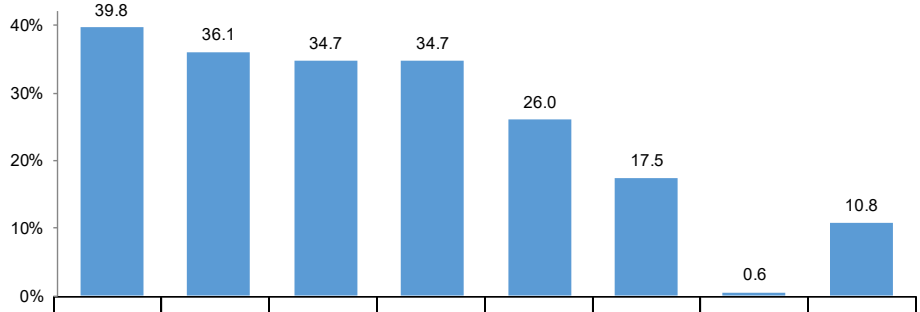
図 18　ＥＱ14：盆栽に対する印象やイメージ

（その他の内容）我流で楽しんでいる、毎日の手入れが必要、旅行に行けない

ＥＱ15　盆栽に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形」の 39.8%で、次いで「盆栽として仕立てていくための剪定等の技術」36.1%、「樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形」、「盆栽を育てる中で感じられる四季等」（共に 34.7%）、「盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる」26.0%が続いている。

年齢別で見ると、60 代以上で「盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形」や「盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる」の回答比率が高くなる傾向がある一方、40～50 代では、「樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形」の回答比率が高く、年代によって魅力や興味関心の傾向は若干異なっている。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形	盆栽として仕立てていくための剪定等の技術	樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形	盆栽を育てる中で感じられる四季等	盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		887	39.8	36.1	34.7	34.7	26.0	17.5	0.6	10.8
性別	男	483	38.5	33.7	35.0	31.7	25.9	15.5	0.4	11.4
	女	401	41.6	38.9	34.7	38.4	26.2	19.7	0.7	10.0
	それ以外／答えたくない	3	-	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3
年齢	18～20代	152	34.9	35.5	24.3	27.0	16.4	13.8	-	8.6
	30代	106	33.0	34.9	34.9	24.5	26.4	17.0	-	5.7
	40代	141	34.8	34.8	39.0	32.6	24.8	15.6	-	7.8
	50代	98	38.8	40.8	40.8	37.8	20.4	20.4	-	6.1
	60代	122	41.8	39.3	36.9	42.6	32.0	16.4	2.5	13.9
	70代以上	268	47.4	34.3	35.1	39.6	31.3	20.1	0.7	16.0

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 19　ＥＱ15：盆栽に関する興味関心や魅力

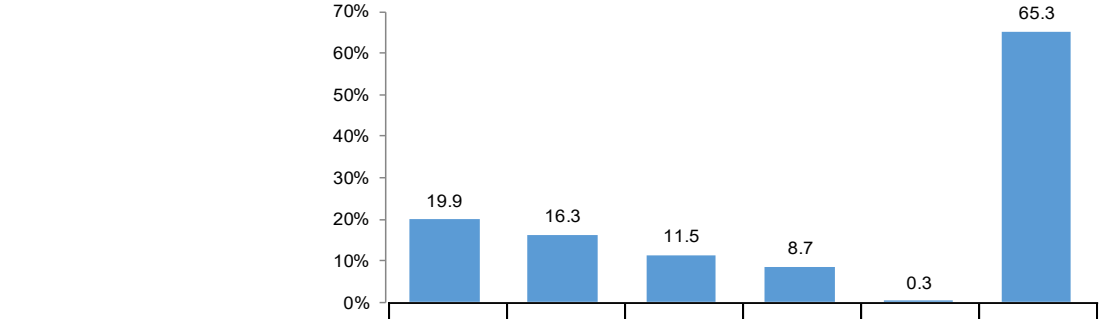
（その他の内容）自然に親しむ心がけ、苔が好き、完成作品の美しさ

■「盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない」と回答した者への設問（ＥＱ16～ＥＱ20：未経験者の実態把握）

本設問では、盆栽を経験したことがないと回答した者が、盆栽を育てる体験をするなら、どのような内容や機会なら参加したいか、また、盆栽に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

ＥＱ16　参加してみたい盆栽の体験内容

全体で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 65.3%で、次いで「盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる」19.9%、「普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる」16.3%、「盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる」11.5%となった。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる	普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる	盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる	盆栽の歴史や意義を教えてくれる	その他	上記の中で当てはまるものはない
全　体		18,515	19.9	16.3	11.5	8.7	0.3	65.3
性別	男	8,775	18.2	13.1	11.3	9.3	0.3	68.8
	女	9,591	21.6	19.5	11.7	8.1	0.2	61.8
	それ以外／答えたくない	149	11.4	5.4	6.0	6.7	-	79.9
年齢	18～20代	2,537	17.2	15.7	12.1	10.1	0.1	65.0
	30代	2,518	17.9	16.6	12.9	10.8	0.2	65.7
	40代	3,296	21.4	17.6	13.4	10.0	0.1	62.7
	50代	3,031	20.6	16.2	11.0	8.4	0.2	65.2
	60代	2,803	20.0	14.7	10.3	7.1	0.2	67.0
	70代以上	4,330	20.9	16.8	9.8	6.7	0.6	66.1

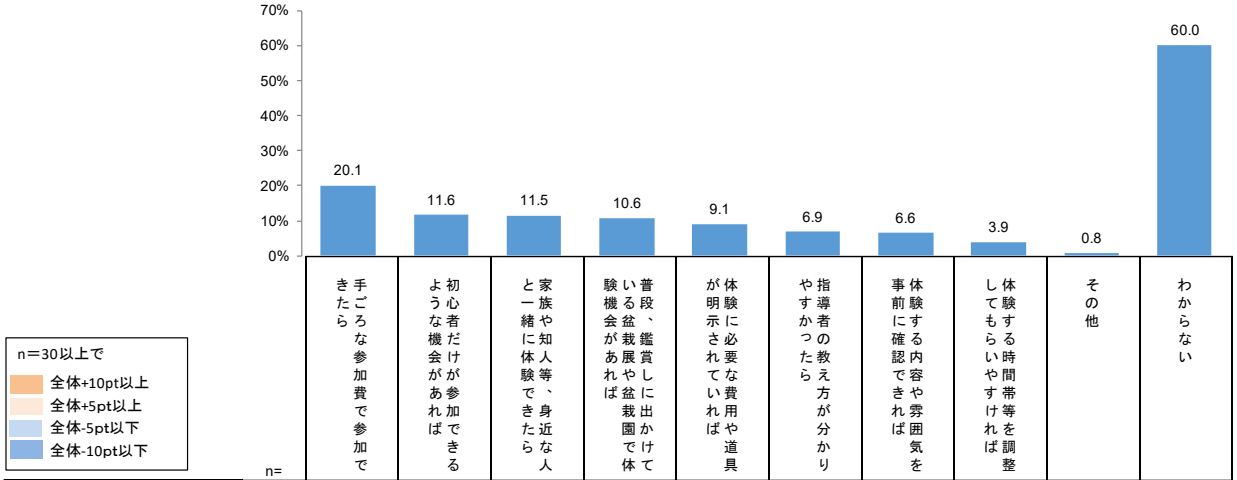
※全体の値を基準に降順並び替え

図 20　ＥＱ16：参加してみたい盆栽の体験内容

（その他の内容）無料・値段が安い、一日体験、格付けの盆栽を見分けることができる、通販で買える

ＥＱ17　参加しやすい盆栽の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の 60.0%で、次いで「手ごろな参加費で参加できたら」20.1%、「初心者だけが参加できるような機会があれば」11.6%、「家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら」11.5%、「普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば」10.6%となる。



		n=	手ごろな参加費で参加できたら	初心者だけが参加できるような機会があれば	家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら	普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば	体験に必要な費用や道具が明示されていれば	指導者の教え方が分かりやすかったら	体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば	体験する時間帯等を調整してもらいやすければ	その他	わからない
全 体		18,515	20.1	11.6	11.5	10.6	9.1	6.9	6.6	3.9	0.8	60.0
性別	男	8,775	17.5	10.1	9.5	9.8	8.4	6.0	6.0	3.7	0.6	64.1
	女	9,591	22.6	13.1	13.4	11.4	9.9	7.7	7.2	4.0	0.9	56.0
	それ以外／答えたくない	149	6.7	4.0	4.7	8.7	6.0	6.0	4.7	3.4	0.7	76.5
年齢	18～20代	2,537	18.5	10.0	14.6	10.4	8.1	6.3	6.1	4.5	0.4	59.0
	30代	2,518	20.4	10.1	14.1	11.1	10.2	7.0	7.1	5.6	0.6	58.1
	40代	3,296	22.6	12.5	13.9	12.4	10.2	6.6	7.1	4.5	0.3	57.7
	50代	3,031	21.1	12.1	10.0	9.0	9.7	6.9	7.1	4.0	0.6	61.2
	60代	2,803	19.7	11.2	8.5	9.7	8.5	6.4	6.2	2.7	0.9	62.3
	70代以上	4,330	18.3	12.7	9.2	10.8	8.2	7.8	6.2	2.6	1.5	61.1

※全体の値を基準に降順並び替え

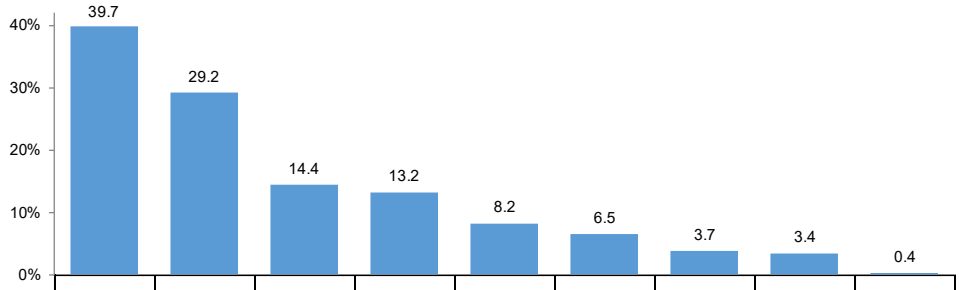
図 21　ＥＱ17：参加しやすい盆栽の体験条件

（その他の内容）無料体験があれば、かしこまった感じではなくフランク、場所が近ければ、持ち帰れる

ＥＱ18　盆栽を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは 「興味がない」の 39.7%で、次いで「自分の趣味と合わない」29.2%、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」14.4%、「そもそも知らなかった」13.2%と続く。

年齢別では、18～20 代で「自分の趣味と合わない」（35.5%）の回答比率が高いほか、60 代で「興味がない」（46.6%）の回答比率が高い。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	興味がない	自分の趣味と合わない	気軽に体験できそうな場所や機会がなかった	そもそも知らなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	体験できる場所や機会があることを知らなかった	体験できる詳しい内容が分からなかった	参加する時間がとれなかった	その他
全 体		18,515	39.7	29.2	14.4	13.2	8.2	6.5	3.7	3.4	0.4
性別	男	8,775	37.8	33.7	13.6	12.5	8.1	6.2	3.6	4.1	0.3
	女	9,591	41.9	24.6	15.3	13.9	8.4	6.8	3.8	2.8	0.4
	それ以外／答えたくない	149	18.8	52.3	8.1	12.8	5.4	6.0	3.4	2.7	0.7
年齢	18～20代	2,537	33.0	35.5	10.1	16.7	7.1	5.0	3.5	3.9	0.2
	30代	2,518	37.9	32.2	12.4	14.9	8.2	6.1	3.7	4.2	0.2
	40代	3,296	36.7	28.9	14.0	16.2	7.3	7.0	4.2	3.5	0.3
	50代	3,031	41.9	27.7	13.3	13.8	6.7	6.2	3.4	3.4	0.3
	60代	2,803	46.6	25.7	14.6	11.2	7.3	6.2	2.5	3.0	0.4
	70代以上	4,330	41.0	27.1	19.1	8.8	11.2	7.5	4.5	2.9	0.6

※全体の値を基準に降順並び替え

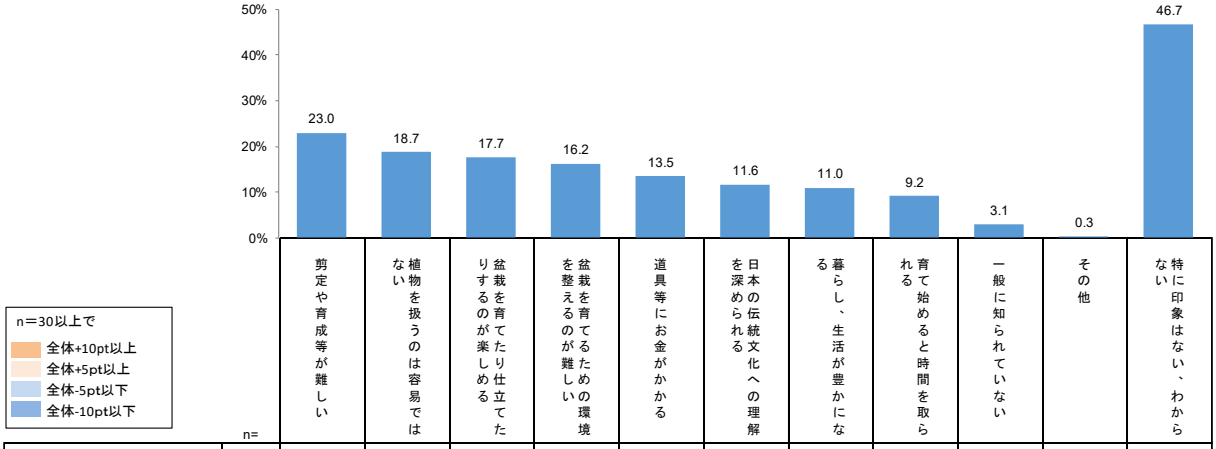
図 22　ＥＱ18：盆栽を体験したことがない理由

（その他の内容）費用が高そう、育てるのが難しい、長い年月がかかるから、専門的で敷居が高い

ＥＱ19　盆栽に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の 46.7%で、次いで「剪定や育成等が難しい」23.0%、「植物を扱うのは容易ではない」18.7%、「盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる」17.7%、「盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい」16.2%、「道具等にお金がかかる」13.5%と続いている。「特に印象はない、わからない」以外の上位５つの回答のうち、プラスのイメージはあるものの、盆栽が生き物であるが故に剪定や育成、環境を整えることが難しいという印象が強いことが傾向に表れている。

次に年齢別に見ると、「剪定や育成等が難しい」との回答した者の中で、70 代以上（29.8%）の回答比率が高い一方で、18～20 代（16.1%）の回答比率が低い。



		n=	剪定や育成等が難しい	植物を扱うのは容易ではない	盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる	盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい	道具等にお金がかかる	日本の伝統文化への理解を深められる	暮らし、生活が豊かになる	育て始めると時間を取られる	一般に知られていない	その他	特に印象はない、わからない
全体		18,515	23.0	18.7	17.7	16.2	13.5	11.6	11.0	9.2	3.1	0.3	46.7
性別	男	8,775	18.9	14.7	15.1	13.6	12.5	11.2	8.9	8.6	2.8	0.3	53.5
	女	9,591	26.9	22.5	20.2	18.8	14.5	12.1	13.0	9.7	3.3	0.3	40.1
	それ以外／答えたくない	149	9.4	12.1	9.4	10.1	10.1	6.0	3.4	6.0	1.3	-	72.5
年齢	18～20代	2,537	16.1	14.5	16.8	13.5	14.0	11.3	9.3	9.1	4.2	0.2	50.8
	30代	2,518	20.0	19.3	18.0	17.6	16.2	11.7	9.1	11.0	3.6	0.2	48.0
	40代	3,296	21.6	19.1	19.3	16.4	15.8	11.6	10.9	9.0	3.3	0.4	46.6
	50代	3,031	22.2	18.7	17.4	16.6	14.4	11.3	10.7	8.6	3.0	0.2	48.2
	60代	2,803	23.8	19.9	16.4	15.4	11.8	10.9	10.6	8.6	2.4	0.4	46.9
	70代以上	4,330	29.8	19.8	17.8	17.3	10.5	12.4	13.5	9.1	2.4	0.3	42.5

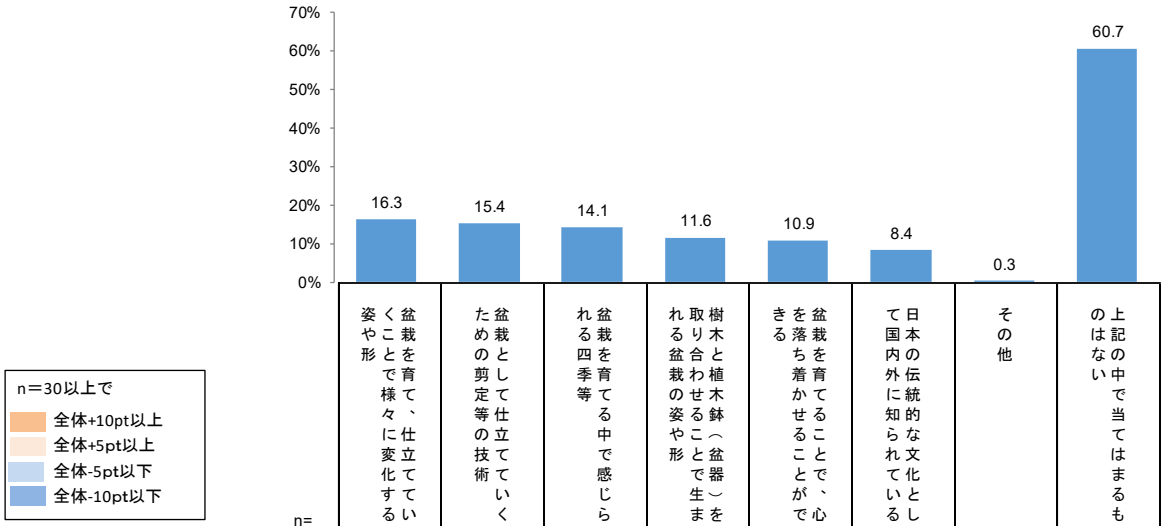
※全体の値を基準に降順並び替え

図 23　ＥＱ19：盆栽に対する印象やイメージ

（その他の内容）植物を無理な方向に曲げたり成長を止めたり不自然なことをしている、どちらかというと定年後の男性の趣味、場所をとる

ＥＱ20　盆栽に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 60.7%で、次いで「盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形」16.3%、「盆栽として仕立てていくための剪定等の技術」15.4%、「盆栽を育てる中で感じられる四季等」14.1%と続く。



		n=	盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形	盆栽として仕立てていくための剪定等の技術	盆栽を育てる中で感じられる四季等	樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形	盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全　体		18,515	16.3	15.4	14.1	11.6	10.9	8.4	0.3	60.7
性別	男	8,775	14.2	14.4	11.6	10.3	9.3	7.8	0.3	65.1
	女	9,591	18.4	16.3	16.6	12.9	12.3	8.9	0.3	56.3
	それ以外／答えたくない	149	8.1	7.4	10.1	6.7	8.1	6.7	-	77.9
年齢	18～20代	2,537	17.3	12.5	13.2	10.4	10.4	9.1	0.2	60.6
	30代	2,518	16.4	14.2	14.9	11.4	11.5	8.9	0.2	60.0
	40代	3,296	18.1	16.0	14.7	12.9	12.7	8.9	0.2	58.8
	50代	3,031	16.0	14.7	14.2	11.1	10.6	8.2	0.2	62.0
	60代	2,803	14.3	15.2	13.0	11.0	8.3	7.3	0.3	63.0
	70代以上	4,330	15.8	17.7	14.6	12.2	11.3	8.0	0.6	60.0

※全体の値を基準に降順並び替え

図 24　ＥＱ20：盆栽に関する興味関心や魅力

（その他の内容）安価に体験できるなら、入門セットみたいな物があれば始めるかも

（３）調査結果に基づく分析と考察

本節では、盆栽の振興施策の検討を主眼として、前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

盆栽に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

盆栽の経験・体験の有無と各属性別とのクロス集計の結果、特に際立った傾向は見られない。

集計表１　居住地・職業・同居家族・昨年度の世帯年収×盆栽の経験の有無

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	FQ フィルタリング・パート 「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全 体		20,000	3.0	4.4	92.6
居住地	北海道	852	3.2	2.9	93.9
	東北	1,385	3.1	4.8	92.1
	関東	7,422	3.2	5.1	91.8
	北陸	816	3.6	2.9	93.5
	東海（中部）	2,349	2.3	4.7	93.0
	近畿	3,247	3.0	3.7	93.3
	中国	1,140	3.2	4.0	92.7
	四国	584	3.6	4.6	91.8
	九州	1,987	2.7	4.0	93.3
	沖縄	218	0.5	5.0	94.5
職業	正規の職員・従業員	6,411	2.9	5.3	91.7
	非正規の職員・従業員	2,803	1.9	4.0	94.1
	自営業主・自由業	1,239	3.6	6.1	90.4
	家族従業者	135	3.7	8.1	88.1
	主婦・主夫	3,987	2.4	3.8	93.8
	学生	512	3.7	3.9	92.4
	リタイア、無職	4,141	4.4	3.7	91.9
	その他	772	1.3	3.0	95.7
同居家族	ひとり暮らし	4,145	3.3	4.6	92.2
	核家族	13,277	2.9	4.3	92.8
	三世代家族	1,179	3.6	5.9	90.6
	上記以外で同居している人がいる	1,399	2.1	4.1	93.8
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	3.0	3.0	93.9
	100万円以上～200万円未満	1,325	3.8	4.5	91.7
	200万円以上～300万円未満	2,030	3.8	4.8	91.4
	300万円以上～400万円未満	2,367	3.9	4.9	91.3
	400万円以上～500万円未満	1,937	2.5	5.5	92.0
	500万円以上～600万円未満	1,457	2.8	5.1	92.0
	600万円以上～700万円未満	1,096	2.9	6.0	91.1
	700万円以上～800万円未満	1,024	2.5	3.9	93.6
	800万円以上～900万円未満	702	3.6	8.0	88.5
	900万円以上～1，000万円未満	653	3.4	5.5	91.1
	1，000万円以上	1,525	4.1	5.9	90.0
	分からない	4,893	1.8	2.4	95.8

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、盆栽の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者の全体平均（3.0%）と比較すると、「囲碁や将棋」（18.6%）の回答比率が大きく上回っているほか、「バレエやダンス」（10.1%）、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」（8.7%）も全体平均を上回る回答比率を示している。「参加体験あり」と回答した者でも近似した傾向が表れており、「囲碁や将棋」、「バレエやダンス」、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」に加えて、「美術」についても回答比率が高いことが分かる。

集計表２　子供の頃の習い事×盆栽の経験の有無

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	FQ フィルタリング・パート 「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全　体	20,000	3.0	4.4	92.6
楽器演奏（ピアノやバイオリンなど）や歌唱（コーラスや声楽など）	4,615	3.7	5.8	90.5
バレエやダンス（バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど）	755	10.1	14.6	75.4
美術（絵画や版画、彫刻、工芸など）	939	7.9	12.2	79.9
伝統芸能や茶道・華道等の芸事	743	8.7	13.7	77.5
囲碁や将棋	221	18.6	23.1	58.4
書道・習字・ペン字、そろばん	8,121	3.3	5.3	91.4
スポーツ・武道	3,661	3.6	6.6	89.9
その他	449	3.6	3.6	92.9
していない	7,852	2.1	2.2	95.7

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見ることができる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容のクロス集計結果を見ると、「特に何もしていない」の全体平均の回答比率は 17.4%であるが、「経験あり」（3.0%）、「参加体験あり」（3.7%）と、経験あり・参加体験ありの回答者共に、趣味・娯楽等と積極的な関わりを持っていることがうかがえる。

次に盆栽を育てた経験があると回答した者の、趣味・娯楽等の活動内容の傾向を見ると、日本の伝統的な文化に関して全体平均を上回る回答比率となっている。

一方、盆栽体験をしたことがあると回答した者の趣味・娯楽等の活動内容の傾向を見ると、盆栽の経験者と比べて「書道」と「お花」の回答比率が高い。また、「特に何もしていない」の回答比率も経験者の回答比率と比べると少し高いことが分かる。

また、前述のとおり、盆栽を未経験であると回答した者については「特に何もしていない」の回答比率が全体平均をやや上回っている上、日本の伝統的な文化との関わりも全体平均をやや下回っており、伝統的な文化との関わりについてはあまり積極的な傾向は見られない。

次に、１ヶ月に使える趣味・娯楽等にかける費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかける費用については、「5,000 円未満」（49.5%）で、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者の回答比率が全体平均を下回っている。また、月額２万円以上を支出している者の全体平均は 11.4%であるが、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者共に回答比率が上回っている。このことから、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者については、「未経験」と回答した者よりも、趣味・娯楽等に費用を用いている。

趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、「平日午前」（30.6%）の場合、「経験あり」と回答した者の回答比率が 44.1%と高く、「平日午後」、「平日夕方」も全体平均より少し回答比率が高い。また、「参加体験あり」と回答した者の場合、「平日夕方」と「休日午前」が全体平均より少しだけ回答比率が高いが、顕著な特徴とはいえない。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、「１時間未満」（22.9%）の場合、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者の両方で、全体平均を下回っていることが確認できる。また、「２時間以上～３時間未満」（13.7%）では、「経験あり」、「参加体験あり」と回答した者の両方が全体平均を上回る回答比率となっている。

集計表３　盆栽の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問1　趣味・余暇活動の参加状況					
		邦楽、民謡	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	特に何もしていない
全　体	20,000	1.5	1.7	1.6	1.8	0.4	17.4
「経験あり」層	598	5.0	6.0	7.2	6.0	2.3	3.0
「参加体験あり」層	887	2.6	6.3	5.3	6.4	1.0	3.7
「未経験」層	18,515	1.3	1.4	1.2	1.4	0.3	18.5

※共通設問１は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。（以下同様）

集計表４　盆栽の経験の有無×趣味・娯楽等に１ヶ月に使える費用

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下

(%)

	n=	共通設問2　1ヶ月に使える趣味・余暇費用											
		５，０００円未満	１５０，０００円未満～	１１５０，０００円未満～	２１０５，０００円未満～	２２５０，０００円未満～	３２０５，０００円未満～	３３５０，０００円未満～	４３０５，０００円未満～	４４５０，０００円未満～	５４０５，０００円未満～	５０，０００円以上	合計２０，０００円以上
全　体	16,527	49.5	22.9	10.2	5.9	3.1	3.0	1.4	0.6	0.4	0.6	2.3	11.4
「経験あり」層	580	38.6	21.6	11.7	8.1	5.3	4.7	1.7	2.1	0.7	0.9	4.7	20.0
「参加体験あり」層	854	27.0	26.6	14.8	9.1	7.8	5.2	3.2	1.2	1.3	0.6	3.3	22.5
「未経験」層	15,093	51.2	22.7	9.9	5.7	2.7	2.8	1.2	0.5	0.3	0.6	2.2	10.5

集計表５　盆栽の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問3　1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯							
		平日午前	平日午後	平日夕方	平日夜間	休日午前	休日午後	休日夕方	休日夜間
全　体	16,527	30.6	30.1	15.8	18.8	34.9	43.7	21.2	15.5
「経験あり」層	580	44.1	34.5	19.0	15.9	37.4	31.9	17.9	11.0
「参加体験あり」層	854	29.4	28.9	19.0	15.3	35.9	34.0	17.3	7.5
「未経験」層	15,093	30.1	30.0	15.5	19.1	34.8	44.7	21.6	16.2

集計表６　盆栽の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問4　趣味・余暇活動を行う時間										
		１時間未満	２１時間未満～	３２時間未満～	４３時間未満～	５４時間未満～	６５時間未満～	７６時間未満～	８７時間未満～	９８時間未満～	１９０時間未満～	１０時間以上
全　体	16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	580	14.8	20.2	15.7	11.0	5.2	4.3	2.1	2.9	0.7	2.2	20.9
「参加体験あり」層	854	15.7	24.1	19.0	10.8	5.2	6.0	2.5	2.0	0.8	1.3	12.8
「未経験」層	15,093	23.6	23.6	13.3	6.6	4.5	4.0	1.7	1.8	0.9	1.3	18.7

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と盆栽の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者の場合、「リスクはできるだけ避けたい」と「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が平均を上回っている。これらの回答比率の中でも、「周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい」（34.1%）と「環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい」（20.7%）の回答比率は、全体平均を大きく上回っている。

「参加体験あり」と回答した者の場合、「経験あり」との回答者と同じく、「リスクはできるだけ避けたい」、「上記であてはまるものはない」を除いた全ての意見で回答比率が全体平均を上回って

おり、「経験あり」と回答した者と異なり「チャンスと感じたら逃したくない」（30.9%）の回答比率が大きく上回っているほか、「自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい」（32.0%）の回答比率は、全体平均及び「経験あり」と回答した者の回答比率も上回っている。一方、「周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい」（30.9%）は、「経験あり」と回答した者よりも回答比率がやや低い傾向が見られ、「経験あり」と回答した者とは異なる価値観を持っている傾向にあると推察される。

なお、「未経験」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」（23.2%）と「リスクはできるだけ避けたい」（42.2%）の２項目のみ、全体平均を少し上回っている。

集計表７　盆栽の経験の有無×消費行動に対する価値観

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問5 消費行動に対する価値観														
		自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい	周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい	チャンスと感じたら逃したくない	リスクはできるだけ避けたい	家族や友人・知人の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい	困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい	周りの人から注目されたい	集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ	その時・その場でしか得られない体験をしたい	流行りのものは試してみたい	流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい	買ったものや、気持ちを発信したい	自分が発信したものに反応が欲しい	上記であてはまるものはない
全 体	20,000	25.6	22.6	20.2	41.9	24.9	10.6	19.6	2.4	5.4	13.6	3.9	26.8	3.1	3.1	22.0
「経験あり」層	598	31.1	34.1	27.8	40.8	31.4	20.7	27.9	3.8	10.5	18.7	6.0	33.3	6.2	4.3	7.0
「参加体験あり」層	887	32.0	30.9	30.9	36.2	31.0	19.4	26.7	4.2	10.1	18.3	8.1	27.7	7.2	5.2	5.4
「未経験」層	18,515	25.1	21.9	19.4	42.2	24.4	9.8	19.0	2.3	5.0	13.2	3.7	26.5	2.8	2.9	23.2

■普段接するメディアとのクロス集計結果

回答者が普段接するメディアと盆栽の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

まず、「経験あり」と回答した者の場合、「テレビ（NHK）」（60.0%）、「新聞」（47.5%）の２つで全体平均を大きく上回っているほか、「CATV や衛星放送のチャンネル」、「ラジオ」、「雑誌・タウン誌」、「紙の書籍」なども全体平均を上回る回答比率である。

「参加体験あり」と回答した者の場合、「CATV や衛星放送のチャンネル」（20.6%）、「雑誌・タウン誌」（17.6%）の回答比率が全体平均を大きく上回っている。その他のメディアへの接触については「経験あり」と回答した者と比べると、あまり高い傾向とはいえない。

「未経験」と回答した者は、ほとんどのメディアにおいて回答比率が低く、「上記のメディアはあまり見ていない」（11.4%）、「テレビ（民放）」（69.9%）、「動画投稿サイト」（33.9%）、「SNS」（28.6%）の回答比率が全体平均の回答比率を少し上回っており、普段からのメディア接触は高くない傾向がうかがえる。

集計表８　盆栽の経験の有無×接触メディア

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問6 接触メディア														
		テレビ（民放の地上波・BS）	テレビ（NHKの地上波・BS）	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ（インターネット経由を除く）	新聞（電子版含む）	雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）	インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）	動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）	SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebook、mixi、Tweetなど）	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	有料動画サイト（AmazonPrime Video、Netflix、Huluなど）	上記のメディアはあまり見ていない
全 体	20,000	69.5	41.7	10.2	14.3	28.5	7.5	46.1	33.7	28.5	20.4	6.0	6.8	6.4	11.9	10.8
「経験あり」層	598	69.1	60.0	18.2	24.1	47.5	13.7	50.7	31.4	25.3	30.1	10.2	9.7	6.2	13.7	1.7
「参加体験あり」層	887	62.6	49.5	20.6	22.1	36.6	17.6	44.8	30.7	27.3	26.6	8.2	9.5	7.0	12.9	3.7
「未経験」層	18,515	69.9	40.8	9.4	13.6	27.5	6.9	46.0	33.9	28.6	19.8	5.7	6.6	6.3	11.8	11.4

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別とのクロス集計の結果も踏まえ、盆栽の「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

１）盆栽を育てたことがあると回答した者の傾向

男女別で見た場合、男性の方が女性よりも経験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。年齢別で見た場合、70 代以上が最も多く、次いで 18～20 代、60 代と続く。

次に経験者の場合、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者は全体平均と比べた場合、回答比率が高い傾向にある。同様に、趣味・娯楽等の活動についても全体平均と比べると、伝統的な文化に係る趣味への嗜好性が高い傾向にあるといえる。消費行動への意識については、自分の考えに基づき物事を判断し、環境・社会課題の解決に対して役に立ちたいという価値観は全体平均と比べると回答比率が高いほか、周囲への一体感を大事にする、家族や困っている人の役に立ちたいなどの特徴も見られる。普段のメディア接触については NHK の地上波及び BS、新聞を始め、CATV や衛星放送、ラジオ、雑誌、紙の書籍などを中心に幅広く触れている傾向にある。

２）盆栽を参加体験したと回答した者の傾向

男女別で見た場合、男性の方が女性よりも参加体験者の総数が多いのが特徴の一つといえる。また、年齢別で見た場合、70 代以上が最も多く、次いで 18～20 代、40 代と続く。

次に、子供の頃の習い事の経験があるとの回答比率が高く、盆栽を育てた経験があると回答した者よりも習い事の回答比率は高い傾向にある。一方、趣味・娯楽等の活動については、「書道」や「お花」については経験ありと回答した者よりも回答比率が高いが、何もしていないという回答比率も高い。

消費行動への意識については、全体平均と比べて、チャンスと感じたら逃したくないとの回答比率が高く、リスクはできるだけ避けたいとの回答比率が低い。加えて、自分の考え方に基づき判断するという点は、全体平均を上回る回答比率ではあるが、盆栽を育てた経験があると回答した者よりも回答比率が低いことから、盆栽を育てたことがある者とは異なる価値観を有しているものと推察される。普段のメディア接触については、CVTV や BS 放送、雑誌等との接触が高い傾向にある。

３）盆栽を未経験と回答した者の傾向

男女別、年齢別等では顕著な特徴は見られなかった。

子供の頃の習い事の経験については、全体平均と比べると、経験がないとの回答比率がやや高い傾向にあると共に個別の習い事への回答比率も全体平均を下回っている。また、趣味・娯楽等の活動に対して、「特に何もしていない」という回答比率が全体平均を上回っており、必ずしも積極的に趣味・娯楽等を行っていない回答者が多い傾向がうかがえる。

消費行動への意識については、当てはまるものはない、リスクは避けたい、の２項目で回答比率が全体平均を上回っている以外、特徴的な傾向は見られない。また、メディア接触については、民放のテレビ放送を除き、いずれのメディアの回答比率も全体平均を下回っている上、「上記のメディアはあまり見ていない」の回答比率も全体平均を少し上回っており、盆栽を経験したことがある者や、体験したことがある者と比べると普段からのメディア接触率はあまり高い傾向にあるとはいえない。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」「参加体験あり」「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

はじめに、「未経験」と回答している者について分析を行う。上述の回答者属性に関する分析では、「未経験」と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、「未経験」と回答した者が、盆栽をなぜ経験してこなかったのか、また、盆栽を経験することに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験層の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、盆栽を体験してみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とＥＱ16「参加してみたい盆栽の体験内容」とのクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

ＥＱ16 では、体験内容として設定した選択肢にはあてはまるものはないと 65.3%が回答しており、残りの 34.7%については、体験内容によっては盆栽の体験に参加してみたいという意向を持っていると推察される。

まず、盆栽の体験に参加してみたいとの意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動とのクロス集計結果では、提示した体験内容を選択している者の場合、趣味・娯楽等の項目全てで全体平均をやや上回る結果が出ていることから、趣味・娯楽等の活動に対して決して消極的ではないことが推察される。

盆栽の体験内容と消費行動に対する価値観とのクロス集計の結果からは、提示した体験内容を選択している者は、消費行動に関する価値観のほとんどの項目で、全体平均を上回る回答比率を示しており、明確な意見や嗜好性があることがうかがえる。

普段からのメディア接触については、提示した体験内容を選択している者は、様々なメディアへの回答比率が全体平均を上回っており、特にウェブサイトや動画投稿サイト、SNS を普段から使っている点で、盆栽を経験した者、体験した者と異なるメディア接触の傾向が見られる。

以上のように、盆栽の体験に参加してみたいとの意向を示した回答者の特徴として、趣味・娯楽等の活動に関して決して消極的ではない傾向にあるほか、消費行動に関する価値観については、経験者や参加体験者と近似した傾向が見られる。メディア接触については、経験者や参加体験者と異なる傾向があり、ウェブサイトをはじめとしたウェブメディアとの接触が高い特徴が見られる。

次に、盆栽の参加体験の意向がない者についてはどのような特徴があるか。ＥＱ16 で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者のうち、25.3%は趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」と回答しており、全体平均を上回る回答比率を示している。また、消費行動に関する価値観に対する設問では「上記で当てはまるものはない」（33.1%）、メディア接触についても、「上記のメディアはあまり見ていない」（11.4%）と、全体平均を上回る回答比率を示している。

以上のように、盆栽体験への参加の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とはいえず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向が確認できる。

集計表９　参加してみたい盆栽の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問1　趣味･余暇活動の参加状況					
		邦楽、民謡	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	特に何もしていない
全　体	18,515	1.3	1.4	1.2	1.4	0.3	18.5
盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる	3,683	2.5	2.2	2.1	2.4	0.4	4.6
盆栽の歴史や意義を教えてくれる	1,603	3.3	2.9	2.9	2.9	0.5	3.8
盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる	2,120	3.4	2.5	2.4	2.7	0.5	4.9
普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる	3,027	2.8	2.4	2.4	2.8	0.5	5.5
その他	47	2.1	4.3	2.1	2.1	-	4.3
上記の中で当てはまるものはない	12,085	0.8	0.9	0.8	1.0	0.2	25.3

集計表 10　参加してみたい盆栽の体験内容×消費行動に対する価値観

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問5　消費行動に対する価値観														
		自分の考えを主張するよりも、周りとの和を尊重したい	周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい	チャンスと感じたら逃したくない	リスクはできるだけ避けたい	家族や友人・知人の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい	困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい	周りの人から注目されたい	集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ	その時・その場でしか得られない体験をしたい	流行りのものは試してみたい	流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい	買ったものや、気持ちを発信したい	自分が発信したものに反応が欲しい	上記であてはまるものはない
全　体	18,515	25.1	21.9	19.4	42.2	24.4	9.8	19.0	2.3	5.0	13.2	3.7	26.5	2.8	2.9	23.2
盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる	3,683	37.3	32.0	30.7	55.6	38.4	19.4	33.4	3.7	9.0	25.0	6.5	44.9	5.1	4.6	3.5
盆栽の歴史や意義を教えてくれる	1,603	36.7	33.7	37.5	49.0	38.3	23.7	33.7	5.4	9.8	26.7	8.5	38.7	7.9	5.6	3.4
盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる	2,120	35.9	33.3	35.2	56.6	40.9	22.0	35.8	4.7	10.1	28.6	8.1	46.3	7.4	6.2	3.2
普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる	3,027	35.8	29.5	31.2	55.3	39.9	20.4	34.0	3.5	10.1	27.8	6.8	45.6	6.1	5.4	4.4
その他	47	29.8	48.9	19.1	68.1	27.7	17.0	25.5	2.1	8.5	12.8	4.3	51.1	6.4	14.9	8.5
上記の中で当てはまるものはない	12,085	20.1	18.3	14.7	38.2	19.5	6.4	14.0	1.6	3.3	8.9	2.5	20.8	1.9	2.2	33.1

集計表 11　参加してみたい盆栽の体験内容×接触メディア

n＝30以上で
全体+10pt以上
全体+5pt以上
全体-5pt以下
全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問6 接触メディア														
		テレビ（民放の地上波・BS）	テレビ（NHKの地上波・BS）	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ（インターネット経由を除く）	新聞（電子版含む）	雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）	インターネットのウェブサイト・ニュースサイト（アプリ経由を含む）	動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）	SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebookなど）	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど）	上記のメディアはあまり見ていない
全 体	18,515	69.9	40.8	9.4	13.6	27.5	6.9	46.0	33.9	28.6	19.8	5.7	6.6	6.3	11.8	11.4
盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる	3,683	81.3	55.4	12.6	19.2	37.3	11.8	60.5	44.3	38.9	31.9	8.9	10.6	10.5	17.4	1.0
盆栽の歴史や意義を教えてくれる	1,603	75.9	52.0	13.4	20.5	31.9	14.8	57.1	46.9	42.0	31.6	12.7	13.1	11.1	17.9	2.0
盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる	2,120	77.9	52.1	13.7	20.0	33.9	14.2	60.6	47.9	40.9	32.5	11.4	13.5	12.6	19.5	1.2
普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる	3,027	78.2	51.6	12.8	18.2	34.0	12.6	58.9	44.2	40.0	31.3	8.8	10.9	9.7	17.6	2.2
その他	47	72.3	55.3	14.9	6.4	38.3	4.3	66.0	40.4	31.9	10.6	6.4	4.3	2.1	19.1	-
上記の中で当てはまるものはない	12,085	66.2	36.2	8.2	11.8	25.0	4.8	41.6	30.4	24.7	16.0	4.5	5.3	5.1	10.0	16.5

■参加したい体験機会別に見た参加条件

次に、盆栽を育てたり、盆栽体験をしたりしたことがないと回答した者が体験したい内容、また、体験条件にはどのような特徴があるのかについて、ＥＱ16「参加してみたい盆栽の体験内容」の各種の参加体験とＥＱ17「参加しやすい盆栽の体験条件」の回答結果をクロス集計し、未経験者の考える体験しやすい内容と条件の傾向について分析を行う。

まず、ＥＱ17 で「わからない」（60.0%）と回答した者のうち、ＥＱ16 で「上記の中で当てはまるものはない」（87.8%）の回答比率が高く、盆栽の体験内容についての回答比率は極めて低いことから、盆栽の体験に関して参加意向が極めて低い者であると推察される。

次に、具体的な体験内容を選択した者の参加条件への回答比率は、全体平均より非常に高いことが分かる。体験条件の選択肢の回答比率を見ると、「手ごろな参加費で参加できたら」、「普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば」の２項目は回答比率が高く、特に重視されている傾向が見える。また、「盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる」を選択した回答者については、「手ごろな参加費で参加できたら」、「体験に必要な費用や道具が明示されていれば」、「初心者だけが参加できるような機会があれば」、「体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば」、「指導者の教え方が分かりやすかったら」と、多くの体験条件を選択しており、具体的な体験条件を想定して回答している傾向がうかがえる。

以上のように、盆栽に関して未経験であると回答した者のうち、ＥＱ16 で具体的な体験内容を答えた者の多くは、ＥＱ17 の体験を行う際の条件についても具体的な条件を選択していることから、体験内容及び条件が明確な方が未経験者への参加体験を促しやすいものと推察できる。

集計表 12　参加してみたい盆栽の体験内容×参加しやすい盆栽の体験条件

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	EQ17 参加しやすい盆栽体験の条件									
		家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら	普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば	手ごろな参加費で参加できたら	体験に必要な費用や道具が明示されていれば	体験する時間帯等を調整してもらいやすければ	初心者だけが参加できるような機会があれば	体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば	指導者の教え方が分かりやすかったら	その他	わからない
全　体	18,515	11.5	10.6	20.1	9.1	3.9	11.6	6.6	6.9	0.8	60.0
盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる	3,683	35.7	33.0	58.2	28.9	11.7	32.4	19.7	20.6	0.3	6.0
盆栽の歴史や意義を教えてくれる	1,603	32.5	43.9	57.8	34.1	20.5	31.6	23.6	20.6	0.2	5.4
盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる	2,120	31.4	39.6	66.3	42.4	19.0	40.8	26.6	26.6	0.4	3.8
普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる	3,027	28.1	30.0	55.0	30.0	14.3	38.0	24.3	24.9	0.3	7.9
その他	47	4.3	6.4	8.5	2.1	2.1	6.4	4.3	6.4	63.8	27.7
上記の中で当てはまるものはない	12,085	2.9	1.3	4.5	1.3	0.5	2.8	1.4	1.9	0.8	87.8

■これまで盆栽を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

ＥＱ18「盆栽を体験したことがない理由」を見ると、「興味がない」39.7%と「自分の趣味と合わない」29.2%が多く、次いで「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」14.4%、「そもそも知らなかった」13.2%となっている。

盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことがないと回答した者に対して、これまでに盆栽体験してこなかった理由や事情（ＥＱ18）に関する問いを設けている。この設問を設けた理由として、未経験者のうちには、体験内容が身近になかった、特定の事情で体験することができなかった者や、そもそも全く興味がなかった等、回答者によって個々の事情や理由があることを想定したためである。

既に、回答者の中には興味関心がなかったわけではなく、体験できなかった事情や理由があると回答した者がいることがＥＱ18 の回答結果から判明しているが、体験できなかった事情や理由があると回答した者はどのような体験機会があれば参加しやすいと考えているのか。ＥＱ18 と参加してみたい体験内容を問う設問（ＥＱ16）のクロス集計を行い、その傾向を分析する。

ＥＱ16 とのクロス集計の結果を見ると、ＥＱ18 で「興味がない」（39.7%）や「自分の趣味と合わない」（29.2%）を選んだ者の場合、ＥＱ16 で「その他」を除き、「上記の中で当てはまるものはない」との回答比率が高く、参加体験の意向がないことが分かる。

一方、ＥＱ18 で「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」（14.4%）と回答している者をはじめ、具体的な理由や事情を回答している者については、ＥＱ16 の体験内容に関する回答比率が全体平均を上回っており、未経験者の中でも参加体験をできない理由や事情があって体験機会を逸していたことが分かる。特に、体験できる場所や機会がなかった、知らなかったと回答した者が、具体的な体験内容を回答している傾向にあることから、体験機会の周知を行っていくことで、未経験者に参加体験をしてもらう機会を醸成できる可能性があると推察される。

また、「そもそも知らなかった」（13.2%）を選んだ者の中でも、具体的な体験内容を選ぶ者がいることから、盆栽自体がどのような文化なのかも周知を行っていくことで、参加体験を促すことができるものと推察される。

集計表 13　参加してみたい盆栽の体験内容×盆栽を体験したことがない理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ18 盆栽を体験したことがない理由								
		そもそも知らなかった	興味がない	気軽に体験できそうな場所や機会がなかった	参加する時間がとれなかった	体験できる場所や機会があることを知らなかった	体験できる詳しい内容が分からなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	自分の趣味と合わない	その他
全　体	18,515	13.2	39.7	14.4	3.4	6.5	3.7	8.2	29.2	0.4
盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる	3,683	17.2	27.7	41.1	8.1	18.9	10.3	15.0	7.3	0.7
盆栽の歴史や意義を教えてくれる	1,603	15.8	25.9	41.2	14.5	20.4	12.9	14.7	7.4	0.5
盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる	2,120	11.6	22.4	47.0	13.3	26.0	16.2	18.1	7.8	0.8
普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる	3,027	12.6	27.4	38.1	8.3	20.0	12.4	18.9	10.7	0.5
その他	47	2.1	70.2	4.3	10.6	2.1	4.3	21.3	34.0	10.6
上記の中で当てはまるものはない	12,085	12.0	46.1	3.1	0.8	1.2	0.8	4.8	40.1	0.3

■「未経験」層と「参加体験あり」層の盆栽へのイメージの違い

盆栽を育てたことがない、盆栽体験をしたことがないと回答した者が持つ盆栽に対するイメージについて、ＥＱ19 の結果では、「特に印象はない、わからない」（46.7%）、次いで「剪定や育成等が難しい」（23.0%）、「植物を扱うのは容易ではない」（18.7%）、「盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる」（17.7%）、「盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい」（16.2%）、「道具等にお金がかかる」（13.5%）となっており、回答者は盆栽を育てたり盆栽体験をしたことがない者であるため、印象やイメージを持っていないという回答が多くなったものと考えられる。また、未経験者にとって、盆栽の剪定や育成は難しいものであると捉えられていることが分かる。

下のグラフは、盆栽体験に参加したことがある者のイメージ（ＥＱ14）とＥＱ19 の回答結果を比較したものである。

未経験者で最も回答比率が高かった「特に印象はない、わからない」の回答比率は参加体験を行うことで大幅に減っている一方、「盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる」、「日本の伝統文化への理解を深められる」、「暮らし、生活が豊かになる」といったプラスイメージに対する回答比率が未経験者と比べて、参加体験した者の方が回答比率は高くなっている。なお、「剪定や育成等が難しい」という回答については、未経験者・参加体験者共に回答比率が高いことが分かる。

以上のように、参加体験をすることで、盆栽が持つ魅力はもちろんのこと、剪定や育成の難しさなどについても明確なイメージを描けるようになっており、参加体験を行うことで盆栽の魅力を理解してもらえる可能性が大きいことが推察される。

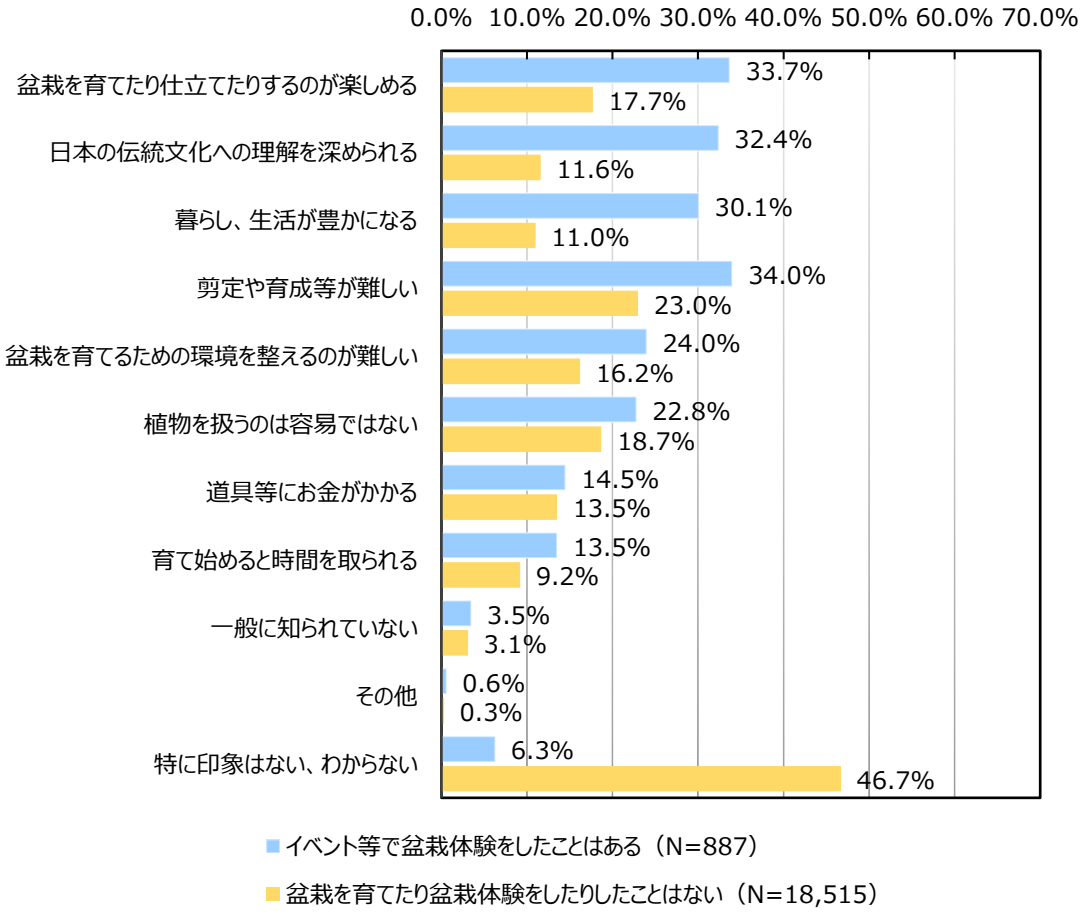


図 25　未経験者と参加体験者の盆栽に対する印象やイメージの違い

■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の盆栽の魅力についての評価の違い

未経験者が盆栽に対する印象やイメージを具体的に描けないように、盆栽の魅力に対する設問（ＥＱ８、ＥＱ15、ＥＱ20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、盆栽に関して未経験であると回答した者の６割は「上記の中で当てはまるものはない」（60.7%）と回答し、経験者と参加体験者の場合の回答比率と比較しても大きな差がある。

このことは、盆栽の魅力や興味関心に関する回答比率についてもいえ、参加体験者と未経験者を比較すると「盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形」や「盆栽として仕立てていくための剪定等の技術」等の回答比率に大きな差が見られることから、イメージや印象と同じく実際に体験することの重要性がうかがえる。また、それぞれの回答者が考える盆栽の魅力や興味関心については、体験や経験を重ねることで、仕立てていく中で盆栽の姿や形が変化することや、盆栽を育てる中でその姿に感じる四季などに魅力や興味関心を感じるようになる傾向があると考えられる。

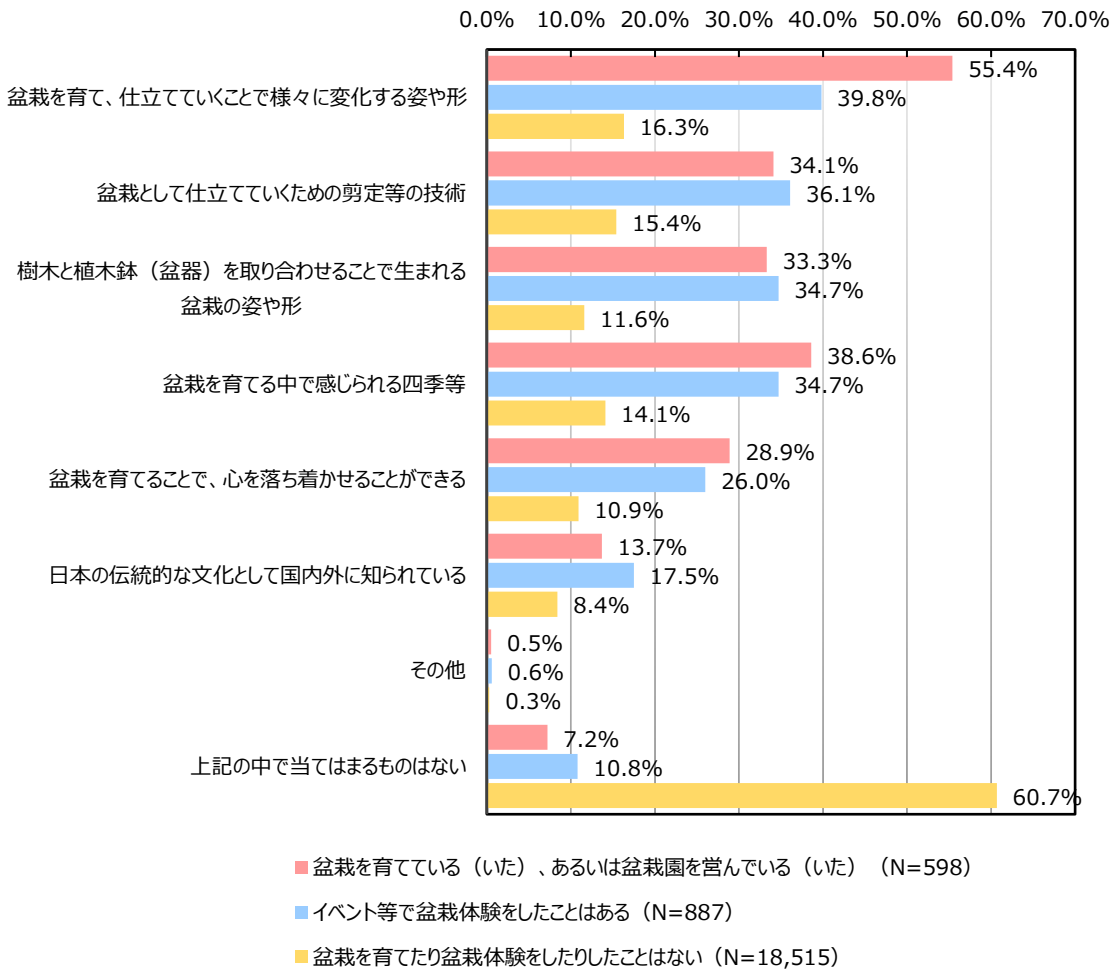


図 26　各回答者における盆栽に対する興味関心や魅力の違い

上記のクロス集計の結果から、盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことがないと回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

１）盆栽に興味関心がある者の属性に関する傾向と特徴

盆栽に関して未経験であると回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 65.3%いる一方、34.7%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したいという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、盆栽について未経験と回答したほかの者と比べた場合、趣味・娯楽等の活動に対して決して消極的ではなく、また、消費行動に対しての明確な意見を有し、普段から幅広いメディア、特にウェブメディア等に触れている傾向が見られる。

２）未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容についての傾向と特徴

ＥＱ16、ＥＱ17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者は、手頃な参加費用と盆栽展や盆栽園等で体験したい、の２点を参加体験の条件として

とりわけ重視している傾向が見えてくる。また、盆栽を育てようと考えている者については、具体的な参加条件を回答している傾向にあり、このような者に対して参加体験を促すのであれば、具体的な体験機会の内容や条件などを示しておいた方が良いと考えられる。

また、ＥＱ16 とＥＱ18 とのクロス集計の結果からは、具体的な体験内容を回答した者ほど、体験できなかった事情・理由として「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」、「体験できる場所や機会があることを知らなかった」と回答しており、参加体験の意向を持つ者の多くが、盆栽を体験する機会を得ることができなかったことが分かる。また、「そもそも知らなかった」と回答する者の中でも体験に参加する意向がある者がいることから、盆栽そのものの周知を行うことで、参加体験を希望する者に機会を提供できる可能性があると推察される。

３）盆栽の印象や魅力に関する傾向と特徴

未経験者の場合、盆栽に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになることが分かる。また、経験を重ねた者ほど、仕立てていくことで変化する盆栽の姿や形、盆栽に感じる四季など、実際に育て続けることで初めて実感することができる魅力等に対しての回答比率が高い傾向にあるといえる。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあって盆栽体験する機会を得ており、しかし、自ら盆栽を育てるまでには至ってはいない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、盆栽を育てるまでに至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（ＥＱ９）を問う設問の結果から、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」(30.3%）の回答比率が最も高く、次いで「学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た」(26.2%)、「友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた」(18.8%)、「趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した」(18.4%)、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」(15.2%）となっており、親族等が盆栽を育てていたことが体験するきっかけとして大きいことが分かる。また、盆栽を体験した場（ＥＱ10）については「文化施設等で行われた体験イベント」(36.1%）の回答比率が高く、次いで「盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会」(29.1%)、「自宅」(22.7%）と続いている。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、ＥＱ９とＥＱ10 のクロス集計の結果が下の表である。

体験したきっかけとして最も回答比率が高かった、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」（30.3%）を回答した者の場合、「自宅」（48.8%）が最も回答比率が高く、次に「盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会」（41.9%）の回答比率が高い傾向にある。他方、「学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た」（26.2%）を回答した者の場合は、「学校の授業や職場の研修会」（39.5%）、「文化施設等で行われた体験イベント」（38.8%）における回答比率が高い。また、「趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した」（18.4%）と回答した者では、「盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会」（31.4%）の回答比率が特に高く、次に「文化施設等で行われた体験イベント」（25.0%）と続く。

以上のように、親族等が盆栽を育てていた場合、自宅で盆栽体験している傾向が強く、学校や職場、庭園等で盆栽を見たことがきっかけで体験した者は、学校や職場、文化施設等で体験機会を得ていることが分かる。また、盆栽展等で盆栽の鑑賞をしていた者は盆栽園等が開く体験会に参加している。身近に盆栽を育てている人がいる場合は、自宅はもちろんのこと、盆栽園等が主催する体験会等が体験機会となっているほか、一般の人向けには学校や職場、文化施設等の体験イベントが体験機会として大きな位置を占めているものと推察される。

集計表 14　盆栽を体験した場×盆栽を体験したきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ9盆栽を体験したきっかけ								
		親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた	学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した	盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	自分が行っている別の分野の趣味・習い事として関係していた	その他
全　体	887	30.3	14.1	18.8	26.2	15.2	18.4	5.2	8.2	1.2
盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会	258	41.9	13.6	21.3	26.0	14.7	31.4	5.8	5.8	0.8
学校の授業や職場の研修会	195	21.5	33.3	28.2	39.5	16.9	12.8	5.6	6.7	-
文化施設等で行われた体験イベント	320	28.1	13.1	23.8	38.8	21.9	25.0	5.0	4.4	1.6
自宅	201	48.8	10.9	17.9	16.9	17.9	19.9	6.5	10.9	1.0
自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験	123	22.8	13.0	13.0	17.1	16.3	18.7	12.2	30.1	-
その他	11	18.2	-	36.4	27.3	27.3	9.1	-	-	27.3

※n=30未満は参考値のため灰色

■盆栽を育てやすい状況

盆栽を育てやすい状況（ＥＱ11）に関する設問の結果では、「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら」（33.1%）の回答比率が最も高く、次いで「知人、家族と一緒に育てることができたら」（29.1%）、「家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら」（28.4%）と続いている。一方、盆栽に支払える月額費用（ＥＱ12）を見ると、「5,000 円未満」（43.9%）、「5,000 円以上～10,000 円未満」（27.8%）と続き、回答者の約 70%が 1 万円未満の費用であれば盆栽を育て始めやすいと回答している。

ＥＱ11 とＥＱ12 のクロス集計の結果を見ると、「5,000 円未満」（43.9%）を選択した者の中では、「わからない」（74.1%）の回答比率が最も高く、次いで「育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら」（50.6%）、「家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら」（49.2%）と続いており、「わからない」を除いて、専門誌や身近な人から手ほどきを受けながら手軽な値段で始めたい者がいることが分かる。

一方、「5,000 円以上～10,000 円未満」（27.8%）と回答した者の場合、「知人、家族と一緒に育てることができたら」（31.0%）、「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら」（29.6%）との回答が全体平均を上回っており、こちらもある程度気軽ではあるが、専門家に相談に乗ってもらいたいと考えている。支払う費用が上がると、「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園があったら」との回答比率が少し高くなると共に、「習う時間帯を調整してもらいやすかったら」の回答比率も高くなっている傾向から、支払える金額の回答が高いほどに盆栽を本格的に育てようとする意向が見えてくる。

集計表 15　盆栽を育てやすい状況×盆栽に支払える月額費用

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ12盆栽に支払える月額費用										
		5,000円未満	150,000円以上～	110,000円以上～	210,000円以上～	250,000円以上～	320,000円以上～	350,000円以上～	430,000円以上～	450,000円以上～	540,000円以上～	50,000円以上
全　体	887	43.9	27.8	9.8	5.6	5.1	2.9	1.6	0.7	0.6	0.5	1.6
家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら	252	49.2	29.4	7.9	2.4	4.8	3.2	0.4	-	0.8	0.8	1.2
知人、家族と一緒に育てることができたら	258	33.7	31.0	15.5	6.6	6.6	2.7	0.8	0.8	-	0.4	1.9
通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら	294	35.0	29.6	10.2	8.8	6.1	4.8	2.7	0.3	0.7	0.7	1.0
必要な道具等が借りられたら	184	44.6	27.7	4.9	8.7	6.5	3.3	1.6	-	0.5	0.5	1.6
習う時間帯を調整してもらいやすかったら	120	37.5	25.0	9.2	9.2	10.0	3.3	2.5	-	1.7	-	1.7
育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら	154	50.6	26.0	5.2	3.9	4.5	1.3	3.2	1.9	1.3	0.6	1.3
その他	5	80.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
わからない	108	74.1	14.8	2.8	0.9	0.9	1.9	-	-	-	-	4.6

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、盆栽を育てていない理由（ＥＱ13）に関する設問の結果では、「通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった」（28.1%）が最も多く、次いで「盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった」（21.8%）、「植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う」（20.9%）と続く。ＥＱ11 の習う状況とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい状況について分析を行う。

ＥＱ11 で育てやすい状況について「わからない」（12.2%）と回答した者のうち、ＥＱ13 で育てていない理由について「自分の趣味と合わない」（41.7%）、「興味がなかった」（31.5%）の回答比率が高く、盆栽体験をしても興味関心が湧かなかった者が一定数いることが確認できる。

一方、参加しやすい状況として「通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら」（33.1%）と回答した者が習っていない理由として、「盆栽の育て方等の相談をできる人が身近に

いなかった」（50.7%）、「一緒にやってくれる人がいない」（50.5%）、「盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった」（48.7%）と続いており、その他の選択肢についても、全体平均を大きく上回っていることから、盆栽のことを相談できる場所が、参加体験者にとって、盆栽を育て始める際に条件として重視されている傾向が見て取れる。また、「必要な道具等が借りられたら」、「育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら」と回答した者の場合も、育てていない理由や事情についての回答比率が高い傾向が見える。

集計表 16　盆栽を育てていない理由×盆栽を育てやすい状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ11盆栽を育てやすい状況							
		家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら	知人、家族と一緒に育てることができたら	通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら	必要な道具等が借りられたら	習う時間帯を調整してもらいやすかったら	育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら	その他	わからない
全　体	887	28.4	29.1	33.1	20.7	13.5	17.4	0.6	12.2
興味がなかった	143	32.9	16.8	15.4	19.6	11.9	11.2	0.7	31.5
通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった	249	35.7	45.4	44.6	19.7	12.4	16.1	-	3.6
始めるための費用が確保できなかった	139	22.3	33.8	44.6	36.0	23.0	19.4	0.7	5.8
盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった	193	30.1	29.5	48.7	33.7	24.4	22.8	0.5	2.1
一緒にやってくれる人がいない	101	31.7	30.7	50.5	41.6	16.8	21.8	-	2.0
盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった	138	33.3	32.6	50.7	31.9	21.0	31.9	-	2.2
植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う	185	32.4	29.2	46.5	30.3	17.8	33.0	0.5	6.5
盆栽を育てて管理できる場所がない	134	29.9	24.6	38.8	26.9	20.9	32.1	1.5	10.4
他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	129	38.0	37.2	34.9	24.0	14.7	34.1	0.8	8.5
自分の趣味と合わない	60	20.0	23.3	10.0	11.7	8.3	16.7	1.7	41.7
その他	14	28.6	35.7	14.3	14.3	-	21.4	7.1	35.7

※n=30未満は参考値のため灰色

上記のクロス集計の結果から、盆栽体験をしたことがあると回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

１）参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

ＥＱ９とＥＱ10 のクロス集計結果の分析から、親族等が盆栽を育てていた場合は自宅で体験しているほか、盆栽園等でも体験機会を得ている。また、学校や職場、文化施設等で鑑賞した者は同じ場で体験機会を得ている傾向が見られ、きっかけの違いが体験機会の場と強い関係性があるものと推察される。一般的には、文化施設等でのイベント等で体験機会を得る機会が多いものと考えられるが、興味関心があり盆栽展等で盆栽を鑑賞している者に対しては、盆栽園等が主催する体験イベント等で体験機会を得ていることから、このような体験機会を広く周知することによって、興味関心がある者の体験機会への参加をより促すことができる可能性があると考えられる。

２）参加体験者が考える育てやすい状況や内容ついての傾向と特徴

参加体験者が盆栽を育て始めやすい状況や内容について、月に支払える費用と盆栽を育て始めやすい状況とのクロス集計結果からは、月額の費用として 10,000 円未満の金額であれば始めやすい傾向にあり、5,000 円～10,000 円程度の回答者は気軽に始めたいと考えている傾向が回答比率から推察される。他方、回答している金額が多くなるほど、盆栽を育てるにあたって育成等の相談に乗ってもらいやすい状況を選択していることから、多くの金額を回答した者ほど、本格的に盆栽を育てても良いと考えている者と捉えることができる。

盆栽を育てていない理由と育てやすい状況とのクロス集計結果からは、盆栽体験を参加しても盆栽を育てることに興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があっても盆栽の育て方等に相談できる場所や人がいない等の事情があることが分かる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

経験ありと回答した者の回答傾向について分析を行う。経験者がどのような経緯や場所で盆栽を育て始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、参加体験者と未経験者との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

盆栽を育て始めたきっかけ（ＥＱ１）の結果では、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」(43.8%）が最も回答比率が高く、次いで「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」(29.8%)、「友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた」(18.1%)、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」(16.2%）と続いており、回答者の親族等が盆栽を育てていたり、回答者自身が盆栽に興味関心があった、友人・知人等が育てていたなど、盆栽に関する情報やイベントが身近にあったものと推察される。

まず、盆栽を育て始めたきっかけ（ＥＱ１）と現在の継続状況（ＥＱ３）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。継続率の全体平均（51.8%）に対し、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた」(80.0%)、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」(61.9%)、が特に回答比率が高く、親族等が盆栽園を営んでいた者、イベント等で鑑賞をしたことをきっかけとして、盆栽を育て始めた者の継続率が高い傾向にある。

集計表 17　盆栽を育て始めたきっかけ×現在の継続状況

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	EQ3 活動の継続	
		続けている	続けていない
全 体	598	51.8	48.2
親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	262	54.2	45.8
親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	70	80.0	20.0
友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた	108	57.4	42.6
学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした	97	61.9	38.1
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	62	48.4	51.6
趣味や教養として、盆栽に興味関心があった	178	52.2	47.8
盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	33	57.6	42.4
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	46	52.2	47.8
その他	12	58.3	41.7

※n=30未満は参考値のため灰色

次に、継続理由に関する設問（ＥＱ３補問１）では、「盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）」（42.9%）の回答比率が最も高く、次いで「日本の文化だから」（29.4%）、「暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）」（26.8%）、「盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい」（24.8%）と続いている。

始めたきっかけ（ＥＱ１）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）」（42.9%）と回答した者の中でも「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」（73.1%）、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」（63.3%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（53.3%）の回答比率が全体平均と比べると特に高く、「盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい」（24.8%）でも近い傾向が見られる。盆栽への愛着が継続理由となっていることから、盆栽への興味関心などがきっかけとして盆栽を愛好しているものと推察される。

一方、「盆栽園を営みたい（営んでいる）」（19.0%）を回答した者の場合、始めたきっかけとして「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた」（42.9%）と全体平均と比べると回答比率が特に高く、また、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」（29.6%）も回答比率が高い傾向にあり、身近に盆栽があった者の場合、盆栽園を営みたい（営んでいる）ことが続けている理由となっていることが分かる。

このほか、「日本の文化だから」（29.4%）と回答した者の中では、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた」（73.2%）が極めて回答比率が高いほか、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（43.3%）、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭

園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」（41.7%）の回答比率も高い。また、「一緒に楽しむ仲間がいる」（17.4%）においても、近似した傾向があることから、職業として盆栽園を営みたい、愛好者として盆栽を楽しんでいると考えられる者、いずれも盆栽が日本の文化であること、また、仲間と楽しむことができるものと捉えている傾向が見られる。

集計表 18　盆栽を育て始めたきっかけ×盆栽を続けている理由

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	EQ3補問1　盆栽を続けている理由								
		盆栽園を営みたい（営んでいる）	日本の文化だから	一緒に楽しむ仲間がいる	盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい	盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）	暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）	その他	特に理由はない	上記の中で当てはまるものはない
全　体	310	19.0	29.4	17.4	24.8	42.9	26.8	-	9.0	1.9
親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	142	29.6	29.6	21.8	24.6	45.1	31.7	-	8.5	0.7
親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	56	42.9	73.2	33.9	32.1	21.4	23.2	-	-	-
友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた	62	21.0	38.7	38.7	35.5	48.4	29.0	-	9.7	-
学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした	60	20.0	41.7	28.3	45.0	63.3	33.3	-	0.0	-
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	30	26.7	43.3	33.3	53.3	53.3	33.3	-	3.3	6.7
趣味や教養として、盆栽に興味関心があった	93	8.6	26.9	22.6	37.6	73.1	43.0	-	9.7	-
盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	19	36.8	47.4	31.6	52.6	78.9	63.2	-	5.3	-
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	24	25.0	33.3	29.2	29.2	62.5	58.3	-	12.5	8.3
その他	7	-	-	14.3	28.6	85.7	42.9	-	-	14.3

※n=30未満は参考値のため灰色

一方、盆栽から離れたきっかけや理由（ＥＱ３補問２）を見ると、「盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった」（41.0%）と「時間がなくなった」（29.5%）が大きな理由となっている。

始めたきっかけ（ＥＱ１）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった」（41.0%）と回答した者の場合、始めたきっかけとして「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」（29.7%）の回答比率が全体平均を大きく下回っているほか、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（34.4%）も回答比率が下回っている。また、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」（45.8%）、「友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた」（45.7%）、「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」（42.4%）の３項目は全体平均を少し上回っている。

一方、「時間がなくなった」（29.5%）と回答した者の場合、「学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした」（37.8%）、「友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた」（37.0%）、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」（35.0%）と、それぞれ全体平均を上回る回答比率となっている。

以上の傾向を見ると、盆栽を育てる場所、盆栽を育てるための時間いずれかが維持できなくなると継続しにくい傾向にあるものと推察される。

集計表 19　盆栽を育て始めたきっかけ×盆栽から離れたきっかけや理由

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	EQ3補問2　盆栽から離れたきっかけ								
		時間がなくなった	盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった	手入れ等の相談をできる場所がなくなった	興味を失った	経済的に続けるのが難しくなった	健康面、体調面で続けることが難しくなった	一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった	盆栽園を閉鎖した	その他
全　体	288	29.5	41.0	14.9	21.9	8.3	7.6	12.2	2.1	3.5
親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	120	35.0	45.8	15.8	16.7	7.5	7.5	17.5	1.7	0.8
親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	14	14.3	64.3	42.9	14.3	7.1	21.4	7.1	-	-
友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた	46	37.0	45.7	17.4	15.2	8.7	10.9	8.7	2.2	2.2
学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした	37	37.8	29.7	16.2	16.2	8.1	5.4	8.1	2.7	13.5
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	32	25.0	34.4	18.8	25.0	3.1	18.8	15.6	-	3.1
趣味や教養として、盆栽に興味関心があった	85	27.1	42.4	16.5	27.1	8.2	10.6	11.8	1.2	4.7
盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	14	21.4	50.0	28.6	14.3	14.3	21.4	14.3	7.1	-
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	22	27.3	31.8	13.6	31.8	13.6	13.6	18.2	4.5	-
その他	5	40.0	60.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-	20.0

※n=30未満は参考値のため灰色

以上のようなクロス集計の結果からは、親族等が盆栽園を営んでいた者や、イベント等で盆栽の鑑賞をしたことをきっかけとして盆栽を育て始めた者の継続率は高い傾向にある。また、親族等が盆栽園を営んでいたりした場合は、回答者自身も盆栽園を営んでいる場合が多く、親族等が盆栽を育てている場合でも盆栽を営もうと考えている者もいることが継続理由の回答傾向から推察される。その一方で、イベント等で鑑賞したり、メディア等で知ったり、友人・知人に誘われたりした者は、盆栽への愛着があり愛好者として継続している。

一方、盆栽を継続できていない理由についてのクロス集計からは、始めたきっかけとの関係性の中で特定の傾向は見えなかったが、盆栽を育成するための場所や育成するための時間、いずれかが維持できなくなると、継続しにくくなる傾向が見られる。

■活動内容

盆栽に関する活動内容（ＥＱ５）の結果では、「自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）」（80.1%）が最も回答比率が高く、次いで「盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）」（14.9%）、「盆栽を盆栽展に出品している（いた）」（8.0%）と続く。

まず、活動内容（ＥＱ５）と現在の継続状況（ＥＱ３）についてクロス集計を行い、活動内容と継続率の関係を分析する。このうち継続していると回答した者（51.8%）の中で、「盆栽を盆栽展に出品している（いた）」（79.2%）、「盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）」（77.1%）、「盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）」（74.2%）と続く。

集計表 20　盆栽に関する活動内容×現在の継続状況

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	EQ3 現在の継続状況	
		続けている	続けていない
全　体	598	51.8	48.2
自宅等で盆栽の手入れをしている(いた)	479	49.1	50.9
盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている(いた)	89	74.2	25.8
盆栽を盆栽展に出品している(いた)	48	79.2	20.8
盆栽園や盆栽の教室等で習っている(いた)	35	77.1	22.9
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	33	63.6	36.4
盆栽園を営んでいる(いた)	16	75.0	25.0
講師として教室や体験会、講座を開いている(いた)	14	71.4	28.6
その他	8	12.5	87.5

※n=30未満は参考値のため灰色

次に活動内容（ＥＱ５）と毎月使う費用（ＥＱ７）についてクロス集計を行い、関係性を分析する。

「5,000 円未満」（66.6%）と回答した者のうち、「自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）」（75.6%）と回答した者以外の項目は、全体平均を下回っている。また、5,000 円以上の費用を見ると、「盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）」と回答した者の場合、5,000 円以上 25,000 円未満の金額帯で全体平均の回答比率を上回っており、特に「5,000 円以上～10,000 円未満」（28.1%）の回答比率が高い。また、「盆栽を盆栽展に出品している（いた）」と回答した者の場合、10,000 円以上を月額の費用として払っている傾向にあり、自宅で盆栽の手入れをしている者、盆栽園に預けて手入れをしている者、盆栽展の出品まで視野に入れている者で、月額費用の傾向が大きく異なるといえる。

集計表 21　盆栽に関する活動内容×盆栽に関する月額費用

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	EQ7 盆栽に関する月額費用											
		5,000円未満	150,000円以上未満	1150,000円以上未満	2150,000円以上未満	2250,000円以上未満	3250,000円以上未満	3350,000円以上未満	4350,000円以上未満	4450,000円以上未満	5450,000円以上未満	50,000円以上	合計10,000円以上
全　体	598	66.6	14.4	5.2	3.5	3.7	1.2	1.3	1.2	0.7	0.8	1.5	19.1
自宅等で盆栽の手入れをしている(いた)	479	75.6	11.7	3.8	2.3	2.1	0.6	0.6	0.8	0.4	0.4	1.7	12.7
盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている(いた)	89	23.6	28.1	12.4	9.0	10.1	1.1	3.4	4.5	-	2.2	5.6	48.3
盆栽を盆栽展に出品している(いた)	48	22.9	12.5	10.4	6.3	20.8	4.2	4.2	8.3	4.2	-	6.3	64.6
盆栽園や盆栽の教室等で習っている(いた)	35	22.9	17.1	14.3	11.4	17.1	-	2.9	5.7	-	-	8.6	60.0
カルチャーセンターの講座等を受講している(いた)	33	42.4	12.1	6.1	3.0	18.2	-	3.0	3.0	-	3.0	9.1	45.5
盆栽園を営んでいる(いた)	16	6.3	18.8	6.3	18.8	6.3	-	6.3	12.5	6.3	-	18.8	75.0
講師として教室や体験会、講座を開いている(いた)	14	14.3	7.1	-	7.1	-	7.1	7.1	14.3	-	14.3	28.6	78.6
その他	8	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※n=30未満は参考値のため灰色

■経験年数

盆栽を続けている年数（ＥＱ４）の結果では、「１～３年未満」（22.1%）の回答比率が最も高く、次いで「３～５年未満」（20.1%）、「１年未満」（12.5%）と続いている。

経験年数（ＥＱ４）と習い始めたきっかけ（ＥＱ１）のクロス集計を行い関係性について分析する。まず、習い始めたきっかけとして回答比率が最も高かった「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた」（43.8%）を回答した者のうち、「１年未満」（56.0%）、「10～20 年未満」（54.4%）が平均を大きく上回っている一方、「１～３年未満」（34.8%）、「３～５年未満」（35.8%）の経験年数については、全体平均を下回る結果となっている。一方、「親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた」（11.7%）と回答した者の場合、５年以上の経験年数の回答比率が全体平均より低く、「１年～３年未満」（22.0%）の回答比率が全体平均を大きく上回っているほか、「３～５年未満」（15.8%）の回答比率も全体平均を上回っている。

また、「趣味や教養として、盆栽に興味関心があった」（29.8%）と回答した者の中では、「１年未満」（18.7%）の回答比率が全体平均を大きく下回っているほか、「１～３年未満」（22.0%）も全体平均を下回っている。その一方、「10～20 年未満」（35.3%）、「20 年以上」（47.0%）と、10 年以上の盆栽を育てている者が多いことが分かる。

これらの傾向を見る限り、親族等が盆栽を育てていた場合や、盆栽に興味関心を持ったことをきっかけとして盆栽を育て始めた場合については経験年数が長い傾向にある一方、親族等が盆栽園を営んでいたことをきっかけとして盆栽を育て始めた者については、経験年数が短い者が多いことがうかがえる。

集計表 22　盆栽を続けている年数×盆栽を育て始めたきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ1 盆栽を始めたきっかけ								
		親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた	親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた	友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた	学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展で、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	趣味や教養として、盆栽に興味関心があった	盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	その他
全　体	598	43.8	11.7	18.1	16.2	10.4	29.8	5.5	7.7	2.0
1年未満	75	56.0	9.3	17.3	9.3	8.0	18.7	2.7	9.3	1.3
1～3年未満	132	34.8	22.0	21.2	15.9	16.7	22.0	3.8	5.3	3.0
3～5年未満	120	35.8	15.8	15.0	22.5	10.0	30.0	5.0	7.5	1.7
5～10年未満	120	45.0	6.7	15.8	16.7	6.7	30.0	5.8	5.8	0.8
10～20年未満	68	54.4	2.9	19.1	14.7	7.4	35.3	8.8	11.8	1.5
20年以上	83	48.2	6.0	20.5	14.5	10.8	47.0	8.4	9.6	3.6

次に経験年数（ＥＱ４）と育て方や剪定の仕方を学んだ方法を選んだ理由（ＥＱ２補問）のクロス集計を行い関係性について分析する。学んだ方法を選んだ理由として最も回答比率が高かった「手軽にやってみたかった」（38.0%）を回答した者のうち、「10～20 年未満」（47.1%）、「20 年以上」（43.4%）の回答比率が全体平均よりも高い傾向にある。また、「家族や友人等と一緒が良かった」（27.4%）を回答した者のうち、「10～20 年未満」（39.7%）が全体平均を大きく上回っているほか、「１年未満」（34.7%）、「20 年以上」（32.5%）の回答比率も全体平均より高い。

これらの傾向を見る限り、手軽にやってみたかったと考えた者や、家族や友人等と一緒に盆栽を育て始めた者についても経験年数が長いことが分かる。

集計表 23　盆栽を続けている年数×育て方や剪定の仕方を学んだ方法を選んだ理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ2補問　その方法を選んだ理由										
		家族や友人等と一緒が良かった	通いやすい場所だった	費用が手頃だった	道具等が借りられた	通いやすい時間帯だった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった	本格的にやってみたかった	手軽にやってみたかった	その他	特に理由はない、わからない
全　体	598	27.4	12.9	20.6	9.4	8.5	6.0	12.2	6.9	38.0	1.3	13.0
1年未満	75	34.7	12.0	20.0	12.0	6.7	4.0	8.0	5.3	30.7	2.7	10.7
1～3年未満	132	21.2	17.4	27.3	8.3	9.1	8.3	11.4	7.6	33.3	0.8	13.6
3～5年未満	120	17.5	13.3	18.3	5.8	9.2	5.8	10.0	2.5	40.8	0.8	14.2
5～10年未満	120	29.2	9.2	20.8	11.7	9.2	5.8	12.5	6.7	35.8	2.5	14.2
10～20年未満	68	39.7	11.8	14.7	7.4	7.4	5.9	11.8	8.8	47.1	-	10.3
20年以上	83	32.5	12.0	18.1	12.0	8.4	4.8	20.5	12.0	43.4	1.2	13.3

経験年数（ＥＱ４）と盆栽に関する興味関心や魅力（ＥＱ８）のクロス集計を行い関係性について分析する。興味関心や魅力として最も回答比率が高かった「盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形」（55.4%）を回答した者の中では、１～５年未満の経験年数の者を除き、回答比率が全体平均をやや上回っており、広く盆栽の魅力として捉えられているものと推察される。

一方、「20 年以上」の経験年数では「樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形」（45.8%）、「盆栽を育てる中で感じられる四季等」（57.8%）、「盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる」（42.2%）と、いずれも全体平均を大きく上回っており、その一方で、これらの項目は経験年数が１年未満の者では回答比率が全体平均を下回っていることから、特定の魅力については、継続や体験を重ねていくことで魅力として捉えられていく傾向にあるものと推察される。

集計表 24　盆栽を続けている年数×盆栽に関する興味関心や魅力

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	EQ8　盆栽に関する興味関心や魅力							
		盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形	盆栽として仕立てていくための剪定等の技術	樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形	盆栽を育てる中で感じられる四季等	盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全　体	598	55.4	34.1	33.3	38.6	28.9	13.7	0.5	7.2
1年未満	75	56.0	26.7	28.0	26.7	16.0	12.0	1.3	5.3
1～3年未満	132	48.5	33.3	32.6	31.8	22.7	9.8	1.5	6.8
3～5年未満	120	50.8	35.0	24.2	30.8	30.0	14.2	-	7.5
5～10年未満	120	58.3	36.7	37.5	41.7	30.8	13.3	-	7.5
10～20年未満	68	60.3	35.3	33.8	50.0	33.8	17.6	-	2.9
20年以上	83	63.9	36.1	45.8	57.8	42.2	18.1	-	12.0

上記のクロス集計の結果から、盆栽を育てたことがあると回答した者の特徴や傾向をまとめると、以下のとおりである。

１）盆栽を育て始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

親族等が盆栽園を営んでいた者、イベント等で鑑賞をしたことをきっかけとして、盆栽を育て始めた者の継続率が高い傾向にあり、このうち、親族等が盆栽園を営んでいた者については、自身も盆栽園を営もうと思っている（営んでいる）と考え、一方、イベント等の鑑賞等をきっかけに盆栽を育て始めた者は盆栽の愛好者として、盆栽を育てていることが分かる。

ただし、継続できなくなった者も多く、盆栽を育てるための環境や育成にかけるための時間のいずれかが充足できなくなり、やむを得ず辞めてしまう者がいる。

２）活動内容と継続している状況年数から見える傾向と特徴

盆栽展に出品している者や、盆栽園や盆栽教室に通っている者、盆栽園に預けて盆栽の手入れをしている者ほど、継続率は高い傾向にある。また、盆栽を自宅で育てて手入れをしている者ほど月額の費用は低い傾向にあり、盆栽園に預けたりする者や盆栽展に出品する者ほど月額の費用は高くなっている傾向にある。

３）経験年数と盆栽を育て始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と盆栽を育て始めたきっかけとの関係を見ると、親族等が盆栽を育てていたり、趣味や教養として盆栽に興味関心があって盆栽を育て始めたりした者の中で、経験年数が長い者が多い傾向が見られ、また、家族や友人と一緒に盆栽を育てたり、手軽に始めたりした者の中にも、経験年数が長い者が多い傾向が見られる。

盆栽の魅力や興味関心については、盆栽を育て、仕立てていくことで変化していく姿や形は、経験年数を問わず魅力や興味関心として捉えられている一方、鉢合わせや盆栽に感じる四季など、長年盆栽を育てることによって初めて捉えることができる魅力や関心がある。

（４）分析結果のまとめ

盆栽の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の盆栽への活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、盆栽を育てたことがない者が圧倒的に多いことが分かった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも見えるように、盆栽に対して興味関心が持てなかった者がいる一方で、盆栽のことを知っていても、体験できる場がなかった、あるいは場や機会を知らなった事情があったこと、そもそも盆栽を知らなかった者も一定数おり、その結果として参加体験に至らなかったことが明らかになった。

経験者の場合は親族等が盆栽を育てていた、あるいは趣味や教養として関心があったことをきっかけとして盆栽を育て始めた者が多い傾向にある。一方、参加体験者の場合は、親族等が育てていた他、学校や職場、公園や庭園等で盆栽を鑑賞する機会を得ており、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、盆栽を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約５割が継続しており、若い世代ほどに継続率が高く、経験年数が長いほどに継続している傾向にある。一方で、継続していない者が続けられなかった事情については、興味を失ったから辞めたという理由よりも、盆栽を育てる場所が維持できなくなった、あるいは育てるための時間がなくなった等の事情が大きく、回答者の環境が整えば再開する可能性があることも推察される。

参加体験者の活動状況等については、参加体験をしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、文化施設等のイベントや盆栽園等が主催する体験会で体験機会を得たと回答比率が高い傾向にあるほか、親族等が盆栽を育てていた場合は自宅で体験機会を得ている場合もある。盆栽園を営む者等が文化施設のイベントや盆栽園で盆栽教室を開く等、盆栽体験の機会の醸成などを図っている事例もある。なお、参加体験者がこれまで盆栽を育て始めるに至らなかった理由や事情については、参加体験をしても興味関心を持てなかった者もいる一方で、興味関心があっても盆栽の育て方等に相談できる場所や人がいない等の事情があって始められなかった傾向にあり、盆栽の育て方などを相談できる機会などの提供や周知を行うことで、興味関心がある者が盆栽を育て始めるきっかけを醸成できる可能性があると推察される。

上記の結果から、学校や職場、公園や庭園、文化施設等でイベントや、盆栽園が開く盆栽教室等の体験機会を丁寧に周知していくことで、経験者や体験者を増やす可能性が広がるものと考えられる。また、盆栽の育て方などを相談することができる場所や機会などを、盆栽に興味関心がある者に対して適切に情報を伝えていくことも有効な取組として考えられる。

２－３　海外からの評価と国際発信

海外における盆栽への評価

現在、盆栽は国内だけではなく海外にも広がり、その名称も日本語のまま「BONSAI」で通用している。

海外において盆栽を愛好する者は、欧米をはじめ、中国、韓国、台湾等のアジア圏においても増えている傾向が見られ、各国では、盆栽展や盆栽教室が開催され、それぞれの国の自然を表現する独自の盆栽も見られるようになっている。

・外国人が見た鉢木

今日のように盆栽が外国人の中で愛好されるようになる状況以前、盆栽はどのような評価をされていたのか。まず、幕末や明治時代に日本を訪れた外国人の著作物の記述からは、当時の鉢木等を見た外国人の感想や評価についてうかがい知ることができる。

万延元年（1860）に日本の園芸植物の採取を目的として来日したロバート・フォーチュンは、巣鴨にある植木屋を訪れ、そこに置かれた鉢木や樹木を植えた鉢の意匠、飾り砂等や、鉢木を仕立てる技術について記述を残している[23]。次に、慶応元年（1865）に来日したハインリッヒ・シュリーマンが記した“*CHINA AND JAPAN IN THE DAY*”（邦題：『シュリーマン旅行記 清国・日本』）では、苗木園にある様々な植木鉢の鉢木について述べており、庭師によって矮小化された樹木や、動物の形に整えられた樹木の姿に驚嘆を覚えていることが記載されている[24]。

明治６年（1873）に来日したバジル・ホール・チェンバレンは、日本の海軍の兵寮で英語を教えていたほか、東京帝国大学（現：東京大学）の教授として日本語学や言語学を担当する教授を務めた人物で、和歌や謡曲の翻訳を行うほか、様々な日本文化への関心も高く、その内容が“*THINGS JAPANESE*”（邦題：『日本事物誌』）としてまとめられている。当該書籍の「庭園（Gardens)」という項目において盆栽についての記述が見受けられ、日本の庭園及び庭園術を美術と評するほか、盆栽を園芸の傑作品であるとし、60年の樹齢を超えたマツやモミジが、30cmほどに矮小化されつつもその姿が完全なものであると評している[25]。

次に、明治 10 年（1877）に来日したアメリカの動物学者エドワード・シルヴェスター・モースが、第１回内国勧業博覧会の農業館の様子について“*JAPAN DAY BY DAY*”（邦題：『日本その日その日』）に記述しており、「蛸作り」された松を見て「怪奇極まる」と評している。また、庭園に招かれた際に見かけた一見枯れ木のような姿を持つ矮小化された鉢植えの梅の木が、美しい花を咲かす様を見て、その奇観を作り出す庭師の技巧に驚嘆したことを記している[26]。そのほか、“*JAPANESE HOMES AND THEIR SURROUNDINGS*”（邦題：『日本人の住まい』）では、日本庭園に置かれた梅の盆栽のねじれ曲がった枝等を見て「怪奇な展示のために選ばれたみたいだと思う人がいても不思議ではな

23 ロバート・フォーチュン著、三宅薫訳『幕末日本滞在記』講談社、平成９年
24 ハインリッヒ・シュリーマン著、石井和子訳『シュリーマン旅行記 清国・日本』講談社、平成 10 年
25 バジル・ホール・チェンバレン著、高梨健吉訳『日本事物誌１』平凡社、昭和 44 年
なお原文では、「dwarting」と記載されており、矮小化した樹木のことについて述べられており、当時の鉢木もしくは盆栽に対しての記載だと推察される。
26 エドワード・シルヴェスター・モース著、石川欣一訳『日本その日その日』講談社、平成 25 年

いだろう」と述べている。しかし、その一方でモースは、植物の生命力を引き出す技術に対して「園芸の魔術」と讃嘆している[27]。

以上のような記述では、現在の盆栽の仕立てが形成される以前の鉢木等に対する外国人の評価をうかがい知ることができる。マツ等の植物を「蛸作り」のような形に仕上げたものや、矮小化した松や紅葉を見る機会を得た外国人達は、植物を矮小化する技術やその姿形に驚き、感動をしていたことが分かる。

このように、幕末から明治時代にかけて来日した外国人による鉢木への評価がある一方、明治時代以降において海外の博覧会において、出品された鉢木や盆栽に関する評価も見受けられる。

明治６年（1873)、明治政府が初めて参加したウィーン万国博覧会において、西洋における日本趣味の流行に合わせた展示が行われた中で、盆栽も出品されている。続いて明治９年のフィラデルフィア万博、明治 11 年、明治 22 年、明治 33 年のパリ万博でも盆栽が展示された。

このうち、明治11年（1878）のパリ万博で展示された盆栽や盆景について、イギリスで刊行されていた園芸雑誌 *“The Gardeners’ chronicle.”* では、その仕立ての姿を酷評し、奇妙なものとして捉えられていたことがうかがえる一方、ジャポニスムの影響もあって、出品された盆栽は現地で買い上げられ、管理や育成が必要となったため職人が呼び寄せられるなど関心が持たれていたこともうかがえる[28]。

この間にも、アメリカやヨーロッパ向けに盆栽が輸出される等の取組がされていた。明治 30 年（1897）頃には日本古美術の海外への販売で知られる山中商会が、ボストン支店に園芸部門を開設しており、そこでは盆栽類が販売されていた[29]。このボストンやニュージャージーにおいては盆栽がオークションに出品され、盆栽の紹介等も行われてきた。昭和12年（1937）に開催されたパリ万国博覧会では、審査会において最高賞となる大賞を盆栽が獲得するなど[30]、欧州における盆栽への理解が少しずつ進展していったことが分かる。

世界盆栽大会

４年に１回開催される世界盆栽大会は、世界中の盆栽愛好者が一堂に会する大イベントである。第１回世界盆栽大会は平成元年（1989）に大宮市（現・さいたま市）で日本盆栽協会の主催により開催され、同年、世界盆栽友好連盟（WBFF）も発足した。その後、アメリカ、韓国、ドイツ等、世界各国で開催された。平成 29 年の第８回大会は 28 年ぶりの日本開催であり、40 の国と地域から約４万 5,000 人が参加した[31]。大会では盆栽の名品の陳列や、国内外の著名盆栽作家によるデモンス

27 エドワード・シルヴェスター・モース著、斎藤正二訳、藤本周一訳『日本人の住まい』八坂書房、令和３年

28 菅靖子「両大戦間期イギリスの空間のジャポニスムにみる生け花・盆栽の影響」(『デザイン学研究』第４号、日本デザイン学会、平成 22 年)

29 朽木ゆり子『東洋の至宝を世界に売った美術商　ハウス・オブ・ヤマナカ』新潮社、平成 23 年

30『一九三七年「近代生活ニ於ケル美術ト工芸」巴里万国博覧会協会事務報告』巴里万国博覧会協会、昭和 14 年

31 記者発表資料「『第８回世界盆栽大会 in さいたま』実施状況を報告します」(URL:https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11561745/www.city.saitama.jp/006/014/008/003/006/006/p000000a_d/fil/290915sekaibonsaitaikai.pdf 最終確認日：令和６年２月 15 日）によれば、メイン会場（さいたまスーパーアリーナ、大宮ソニックシティ、パレスホテル大宮）への来場者が４万 5,000 人、登録者（一定の登録料を払い、期間中に実施される全てのプログラムに参加する盆栽の愛好者）として国内 438 人、海外 777 人が参加している。

トレーション、子供盆栽の展示、盆栽苗や用具の販売等が行われたほか、輸出向け売店コーナーには農林水産省による植物検疫カウンターが設置された[32]。

盆栽の国際発信について

・盆栽団体や自治体による国際発信の例

一般社団法人日本盆栽協会のように海外支部を持つ団体は、支部を拠点に研究発表会や特別教室を開催している。そのほか、盆栽業の盛んな自治体が盆栽のPR動画を作成して動画投稿サイトで公開したり[33]、盆栽関連企業が多言語で盆栽の情報を発信するポータルサイトを開設したりするなど、多様な媒体を用いて国際発信が行われている[34]。著名な盆栽園の園主が海外の盆栽イベントに招かれ、デモンストレーターや講師を務める例や盆栽の剪定等の指導を行う例もある[35]。

また、さいたま市大宮盆栽美術館では国内外における盆栽文化の普及を目的とした盆栽専門の学習プログラム「さいたま国際盆栽アカデミー」を開講しているが、新型コロナウイルス感染拡大前には英語の通訳補助をつけた外国人向けコースも開講していた。

・国が支援する国際発信の例

国が支援する国際発信の例としては、文化庁が芸術家、文化人等、文化に携わる方々を一定期間「文化交流使」として指名し、海外へ派遣する「文化庁文化交流使」において、平成 19 年（2007)、25 年（2013)、令和元年（2019）に盆栽作家や盆栽師をアメリカやカナダ、ヨーロッパの各国に派遣している[36]。また、観光庁が平成 24 年度ビジット・ジャパン事業の一環として、欧州の盆栽愛好家協会や盆栽ショップを通じて盆栽関連の日本の観光地・観光資源を紹介し、欧州盆栽ファンの訪日意欲の喚起を図るプロモーション事業が行われた。

外務省は令和元年（2019）の日本ブランド発信事業において、日本で盆栽園を営むアメリカ人盆栽師をアメリカに派遣し盆栽の魅力を発信した。また、国際交流基金でも盆栽作家らを世界各国に派遣し、盆栽の紹介やワークショップ等を行っている。また、令和２・３年９月には在カナダ日本大使館がオタワ盆栽協会とオンラインで盆栽展を開催した例もある。

〈主要参考文献〉

---

32 さいたま市経済局商工観光部観光国際課「第８回世界盆栽大会 in さいたま大会概要について」(URL:https://www.city.saitama.jp/006/007/002/015/009/p0419691_d/fil/0129-1shiryou.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日

33 令和元年（2019)、高松市は特産の松盆栽を海外に PR するため、動画「盆栽 de ボンジュール」を制作し、動画投稿サイト YouTube で公開。令和６年（2024）２月 15 日現在、再生回数は 1.4 万回に上る。

34 日本盆栽の情報ポータルサイト『JAPAN BONSAI』 株式会社東京盆栽倶楽部が日本盆栽協同組合の協力のもとで運営しているサイト。日・英・中・台の４か国語で盆栽の情報や、盆栽関連の商品・サービスを発信。

35 秋山実氏（秋山盆栽園）が平成 28 年（2016）の U.S. National Bonsai Exhibition でデモンストレーションを実施、令和元年（2019）のイタリアの Crespi Cup 2019 では鈴木伸二氏（大観盆栽美術館）がデモンストレーションを実施したなどの例がある。

36 平成 19 年（2007）に中村享氏をカナダに、平成 25 年には平尾成志氏をリトアニア、イタリア、フランスをはじめ９か国に、令和元年（2019）には森隆宏氏をカナダ、アメリカ、オーストラリア、シンガポールに派遣した。

・依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年
・農林水産省　農産局（旧生産局）「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について」、平成 27 年
・ジェトロ香川　パンフレット『世界に羽ばたく香川の盆栽』、平成 28 年（URL:https://www.jetro.go.jp/ext_images/jetro/japan/kagawa/bonsai/jp_pamphlet201711.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日
・農林水産省「花きの現状について（平成 31 年４月）」
・金融財政事情研究会編『第 14 次　業種別審査事典』きんざい、令和２年
・財務省貿易統計

２章　盆栽団体・盆栽園の活動について

１．本章の主旨

本章では、令和元年度に文化庁が行った盆栽分野に関する調査の概要を整理した上で、令和５年度に盆栽に関する団体（横断的団体及び盆栽園）に対して実施したアンケート調査の結果を中心に、盆栽の担い手である盆栽団体や盆栽園の活動について現状を分析する。

２．令和元年度調査の概要

「令和元年度生活文化調査事業」において、盆栽団体５団体に対してアンケート調査を実施し、各団体の活動状況に関して把握を行った。

調査の結果、盆栽団体５団体全てが支部を有しており全国的な活動を行っており、また、会員制度を設けて団体の運営が行われている。主な事業活動としては、４団体が盆栽の展示会を実施しており、これら展示会に加えて、盆栽作家の派遣、講師の派遣等を実施している団体がある。また、４団体では認定講師やインストラクター等の資格制度を有している。

団体が考える現状の課題としては、回答した全ての団体が会員の高齢化を挙げており、加えて、会員数の減少、財政の悪化、広報不足という回答も挙げられている。盆栽文化の継承にあたっては、「自然な美しさを盆上において如何様に表現するか」「盆栽そのものが長く後世に伝えられていくことも重要」といった声があった。

今回のアンケート調査では、こうした令和元年度の調査の実績を踏まえ、さらに詳細な実態把握を行っていくものとする。

１節　盆栽団体の活動について

１－１　盆栽団体へのアンケート調査の実施概要

盆栽の活動の詳細な実態を把握することを目的として、盆栽の普及啓発や継承等を掲げて活動を行っている盆栽に関する団体（横断的団体）を対象とし、各団体の活動内容や、その現状と課題、盆栽のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることを目的としたアンケートを実施した。

なお、調査年度（令和５年度）においてはいまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	７団体（配布先は巻末参考資料を参照）
調査期間	令和５年（2023）11 月 29 日(水)～令和５年（2023）12 月 25 日(月)
回 収 数	６団体(回収率：85.7%)
設問項目	Ｑ１：団体について(概要、主な目的・定款等、沿革) Ｑ２：団体の普段行っている事業・活動について ①「盆栽展」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ②「会員向け研修会、講習会」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ④「資格制度」の実施（活動概要、課題、今後の展望等) ⑤「機関誌の発行」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ⑥「広報活動」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ⑦「その他活動」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) Ｑ３：盆栽の継承について ①「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由 ②①で選択した要素に関して、盆栽団体としての現状及び守っていく上で必要な取組 ③盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例 Ｑ４：新型コロナウイルス感染症の影響について ①新型コロナウイルス感染症の影響の程度 ②具体的な影響 ③実施した対応策 ④復旧の程度

〈調査結果を参照する際の注意事項〉
・集計は小数点第２位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

１－２　盆栽団体へのアンケート調査の結果概要

（１）盆栽団体の活動（直近３年）について

①「盆栽展」の実施について

○ 活動概要

（活動の種類や内容）

アンケート回答のあった６団体全てで盆栽展を実施している。なお、団体によって盆栽展の内容が異なり、盆栽愛好者が出品する展示会や、盆栽作家が作品を展覧するもの、皐月盆栽や小品盆栽など特定の樹種や大きさの盆栽に特化した展示会が行われていることが確認できる。

（開催頻度及び参加人数）

盆栽展の開催頻度は、年１回開催の団体が半数を占めており、年に３回盆栽展を開催している団体もある。

次に、盆栽展の入場者数については最も多い例で 8,600 人程度、その他の展示会では 1,000～2,000 人程度となっている。出展されている盆栽の席数は、最大で約 290 席の盆栽を展覧する場合もあれば、40 席ほどとの回答もあり、様々な規模感で開催されていることが確認できる。なお、開催時期については春や秋、初冬にかけて開催されている例が多く、夏に開催されている例は見られなった。

（活動の成果）

１団体から、盆栽展の開催によって国内におけるジャンルの確立や海外における知名度の向上に繋がっているとの回答が見られる。

○ 現状と課題

盆栽展に関する活動に関する現状と課題として最も多く回答が見られたのは、展示会へ出品数の減少であった。回答からは、団体の会員をはじめ、盆栽業者や愛好者が減少傾向にあるため、展示会への出品数が減少している状況にあることが確認できる。また、出品数と同じく盆栽展への入場者数も減少していると回答する団体も見られ、特に盆栽愛好者の減少を課題と考えている団体が多いことがうかがえる。

○ 今後の展望等

盆栽展に関する活動の今後の展望としては、愛好者の確保を企図した取組を考えている団体が多い。例えば、関西万博や園芸博への出展や、周年事業における特別企画の実施、SNS による広報活動の強化等の取組を展開したいとの回答があり、盆栽文化の発信の強化による愛好者の増加を考えている団体が多い。

②「会員向け研修会、講習会」の実施について

○ 活動概要

（活動の種類や内容）

アンケート回答のあった６団体のうち、２団体が会員向け研修会、講習会を実施している。１団体では、国際盆栽シンポジウムの開催を行っているほか、国内外における要望に応える形で活動を実施している。もう一つの団体では、団体が公認する講師及びインストラクター向けの講習会を実施しており、盆栽に関する専門知識の普及を行っている。

（開催頻度及び参加人数）

講師及びインストラクター向けの講習会について、直近の例は40名が講習会に参加している。

（活動の成果）

活動の成果については特に回答が無かった。

○ 現状と課題

国際シンポジウム等を実施している団体からは、盆栽を取り巻く様々な環境（気候の変動や貿易問題、言語など）に関する課題はあるが、とりわけ海外における盆栽に対する熱意を感じると回答している。また、講師及びインストラクター向けの講習会の実施を行っている団体は、盆栽の専門的知識を有する講師の選定に毎回苦労していると回答している。

○ 今後の展望等

シンポジウムを実施している団体からは盆栽の学問的把握を行っていく必要性について回答があった。また、研修会や講習会を実施している団体は、研修会等が大変好評であるので今後も継続的に実施していく方針との回答が得られた。

③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

○ 活動概要

（活動の種類や内容）

アンケート回答のあった６団体のうち、５団体が一般の人や学校向けに講演会の開催や講師派遣を実施している。このうち、２団体からは地域の小学校で盆栽の説明と実技を伴った形式で盆栽教室を開催している。別の１団体からは普段は講演会等を実施していないが、小学校から依頼を受けて別の団体と共同開催で盆栽の授業を実施したことがあると回答している。

この他、１団体からは団体の各支部で実施している展示会で開催する一般向けの講演会へ、団体から講師を派遣している例や、最近は新型コロナウイルス感染症の影響により中止しているが、以前は毎年、初心者向けに盆栽の実技等に関する講習会を開いていた団体もある。

なお、上記は国内における活動だが、１団体からは国内のみならず海外においても講演会等を開催しているとの回答もあった。

（開催頻度及び参加人数）

小学校で講演会を開いていると回答のあった２団体からは、年に１回の開催で１学年60名程度の参加人数であるとの回答があった。

（活動の成果）

小学校で講演会を開いている１団体からは、講演会をきっかけに盆栽の展示会に足を運んだ子どもがいたとの回答があった。

○ 現状と課題

現在、講演会を実施している団体からは、講演会を実施していくための予算や講師の確保、講演内容の検討や、盆栽団体同士の連携を図りたいという点が課題として挙げられている。また、支部へ講師派遣を行っている団体は、支部が実施している講習会をすべて把握できている状況ではない点を現状として回答している。

なお、現在は講演会を休止している団体からは、依頼や要望に応じて講演会を再開する予定との回答があった。

この他、国外でも講演会を開催している団体からは、盆栽の剪定等の実技だけではなく、盆栽を床の間等に飾る際の飾り方についての指導に力を入れているというが、予算や人員が限られている点や長期間の滞在が難しい等の課題を挙げている。

○ 今後の展望等

講演会を実施しているいずれの団体についても継続的な講演会の開催を行っていきたいとの展望を持っている。

④「資格制度」の実施について

○ 活動概要

（資格制度の内容）

アンケート回答のあった６団体のうち、２団体が盆栽に係る資格制度を運用している。２団体ともに、公認講師制度とインストラクター制度の２つを運用している。公認講師は、いわゆる盆栽園の園主等向けの指導者資格制度で、盆栽に係る正しい知識などを普及するための公認資格となっている。一方、インストラクター制度は団体会員向けの指導者資格制度で、愛好者なども当該制度を受けてインストラクターとなることができる制度として運用されている。

（資格制度の運用実績や効果）

１団体からは、平成 13 年に公認講師制度運用が開始されて以降、33 名が公認講師として活動しているほか、平成 20 年から運用を始めた公認インストラクター制度では、21 名がインストラクターとして活動を行っていると回答があった。

○ 現状と課題

１団体からは、資格制度による認定講師やインストラクターに認定された方は独自に盆栽に関する普及を行っているが、団体が主催する事業と接点や活動の場が少ないという意見があると、運用面での課題を挙げている。

○ 今後の展望等

１団体からは、海外で活動している盆栽事業者から認定資格取得の要望があるとのことで、今

後は海外での活動についても検討していくとの回答が見られた。

⑤「機関誌の発行」の実施について

○ 活動概要

（機関誌の内容）

アンケート回答のあった６団体のうち、４団体が団体機関誌を発行している。各団体とも、団体の会員や関係者向けに団体の活動報告や催事等の案内などを主な内容としている。なお１団体は、盆栽の専門誌として広く頒布されており、団体の活動情報に加えて愛好者向けの内容も掲載されている。

（発行数・部数）

専門誌的な性格をもった機関誌の場合は毎月発行されており、部数は 3,200 部ほどである。他の団体機関誌では、多いところで毎月発行している団体もあれば、年に４～５回、年に２回程度という所もある。

（発行の目的）

いずれの機関誌についても、団体の活動や理事会等に関する報告、イベント案内などを会員及び関係者に向けて発信することが主たる目的となっている。

○ 現状と課題

機関誌の掲載内容をどのように周知してもらうか、また掲載内容の充実を課題として挙げている団体もある。一方、発送の費用や手間等を課題と考えている団体は機関誌のペーパーレス化を検討しているとの回答も見られるほか、海外からの要望で、機関誌のデジタルブック化を検討している団体もある。

○ 今後の展望等

機関誌に掲載する内容のさらなる充実を図りたいと２団体から回答がある。ほかの２団体については、機関誌のペーパーレス化やデジタルブックへの対応を検討しているほか、１団体については海外にも会員がいるため、海外会員への対応等を検討している。

⑥「広報活動」の実施について

○ 活動概要

（広報媒体）

アンケート回答のあった６団体全てで広報活動を実施している。いずれの団体も HP を運用して、団体の活動情報や展示会等の催事に関する情報を発信している。

（広報活動の目的・効果）

団体HPの主な目的としては、団体の会員や関係者等への情報発信が中心となっている。いずれの団体も盆栽の展示会を実施していることから、展示会の開催情報や、展示会の様子等もあわせてHPに掲載している。

（２）盆栽の継承について

① 継承すべき要素

今日までの盆栽の継承において、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定していくために、盆栽団体向けのアンケート調査において、「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、団体において特に大事だと思われる要素を３点選んでもらった。

１．盆栽の樹種・樹形等の知識
２．盆栽の手入れ（剪定）等の技術
３．盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観
４．樹の来歴や伝承が貴重な盆栽
５．盆栽に適した苗木
６．鉢などの盆器や卓
７．剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類
８．盆栽の似合う和室や庭などの空間

上記はいずれも盆栽の構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、盆栽の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、盆栽団体が大事だと考える要素についてどのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、（１）「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、（２）（１）で選択した要素に対して、盆栽団体としての現状及び守っていく上で必要な取組、（３）盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。

その結果、（１）についての盆栽団体の選択は次のグラフ（図１）のとおりであった。

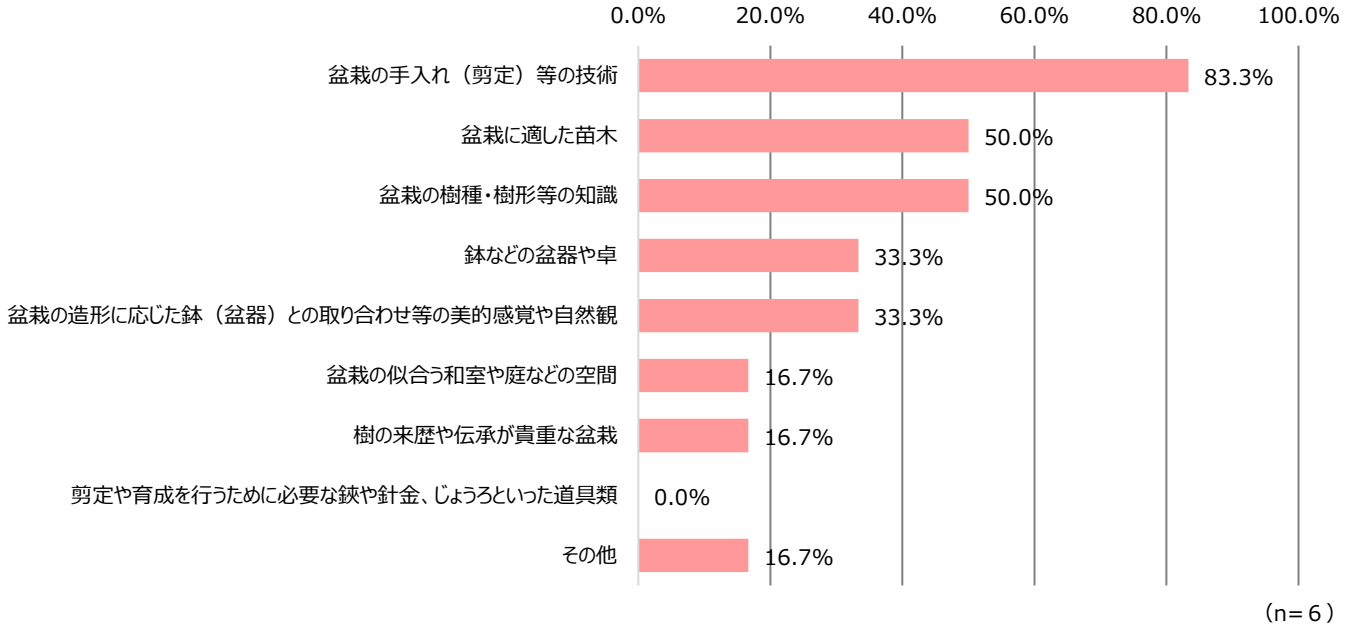


図１　盆栽の継承において特に大事だと思われる要素

上図のとおり、全体では「盆栽の手入れ（剪定）等の技術」が５団体（83.3%）と、ほとんどの団体が大事な要素として選んでいる。次に、「盆栽の樹種・樹形等の知識」「盆栽に適した苗木」の３団体（50.0%）が続いている。なお、「剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類」を選んだ団体はなかった。

以下、各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、下記のようになる（回答がなかった「７.剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類」を除く)。

「１.盆栽の樹種・樹形等の知識」３団体（50.0%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・樹種毎の特性などを踏まえた培養の仕方や樹種に応じた樹形に関する知識をはじめとして、良い盆栽の見分け方や良い盆栽に成長する苗木や素材に係る様々な知識が、盆栽を作っていく上で重要であるとしている。

・上記のような知識は、盆栽の業者間での情報交換が行われてきたほか、師匠や親方から弟子へと伝えられてきたもので、次世代の育成という観点からも重要であり、今後も伝えていく必要があると考えられている。

【現状】

・古くから伝えられてきた知識を継承しつつも、時代や環境の変化にも対応していくため日々知識の更新を行っているとの回答が見られる。

・盆栽園をはじめとした盆栽業の後継者が不足に陥っていることもあり、これまでに継承されてきた盆栽の知識や技術に関する伝承が難しくなっているとの指摘もある。

【必要な取組】

・取組の１つとして、盆栽団体が主催する講習会や盆栽展等を通じて盆栽に関する知識の普及が必要であると考える団体がある。

・一方、他の団体は、盆栽業の後継者不足という観点から、まずは盆栽の愛好者を増やしていき、盆栽業として成立するような環境づくりが必要と考えており、盆栽を広く認知してもらい知名度を上げていくためのイベントの実施に取り組むことが大事であるとの意見も見られる。

「２．盆栽の手入れ（剪定）等の技術」５団体（83.3%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽に関する知識も必要だが、盆栽を作る上で手入れ・剪定に関する技術は基本であり最も重要であるという意見や、美しい盆栽を維持するための技術、新木を盆栽として仕立てるための技術など、盆栽を作る上ではいずれも重要であるとの意見も見られる。

・盆栽に係る技術者へこれらの盆栽に係る技術を伝承していき、次の世代へと着実に伝えていくことは、貴重な盆栽自体を次の世代へ伝えていくことと同じくらい大切であると指摘する回答も見られる。

【現状】

・熟練の盆作業者も次の時代を担っていく若手も、誰もが技術を錬磨し日々修練に努めているとの回答がある。一方で、技術の伝承については、盆栽業者の後継者が不足しており、必ずしも十分とは言えない状況にあるとの指摘もある。

・公認講師やインストラクター制度を運用し各地で盆栽教室や講習会の開催を促進することによって、盆栽に関する培養技術の敷衍を行っている団体も見られる。

【必要な取組】

・必要な取組としては、愛好者向けに講習会や展示会を積極的に開催して技術の敷衍を図っていきたいと考えている団体がある。

・盆栽に関するイベントを通じて、世間に広く盆栽を認知してもらうことで盆栽の愛好者を増やしていき、盆栽業の活性化につなげたいと考えている団体もある。

「３.盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観」１団体（16.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・名品と言われるような貴重な盆栽は、樹の造形と器の調和がとれていることから、取り合わせの仕方は重要であるとの指摘がある。

・また、盆栽に関する知識や技術と並んで、美しいものを美しいと感じられる感覚が重要であるという意見も見られる。

【現状】

・それぞれの盆栽業者において、美的感覚等を磨いているとの意見がある。

【必要な取組】

・美的感覚や自然感を身に付けるためには展示会を開いていくことが必要との意見がある。

「４.樹の来歴や伝承が貴重な盆栽」１団体（16.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・100 年以上前から伝来している盆栽や、著名人が愛蔵していた盆栽をはじめ、様々な来歴や伝承を持つ盆栽は、は後世に受け継ぐべき財産であるとの意見が見られる。

【現状】

・貴重な盆栽については、全国各地にある盆栽園等で大事に培養されている。

【必要な取組】

・団体主催で貴重な盆栽のみを展示する展示会を実施しており、貴重な盆栽があること自体を広く知ってもらう取組が必要であるとの意見がある。

「５.盆栽に適した苗木」３団体（50.0%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽を作る上で、また、愛好者へ盆栽を供給していく上でも、盆栽に適した苗木は重要であるとの意見が見られる。

【現状】

・盆作業者のみならず、苗木を生産する業者も後継者不足で減少しているとの指摘が見られる。

【必要な取組】

・広く盆栽に対する世間一般の認知を高め、盆栽の愛好者を増やしていくことで、少しでも流通を拡大していくことが重要であるとの意見が見られる。

「６.鉢などの盆器や卓」２団体（33.3%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆器や卓は、盆栽を展示する上で必要不可欠な要素であるとの意見が見られる。

【現状】

・盆器、卓いずれについても作成できる職人や生産者が減少していると指摘されている。

【必要な取組】

・盆栽業者や苗木の生産者の減少への対応と同じく、盆栽の愛好者を増やしていくことで流通を拡大していくことが必要との意見が見られる。

「８.盆栽の似合う和室や庭などの空間」１団体（16.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽は、盆栽自体の培養とともにその飾り方が一対となることに意味があり、飾る場所としての空間、特に盆栽を飾る庭園の完成が望まれるとの意見が見られる。

【現状】

・現状については記載が見られなかった。

【必要な取組】

・必要な取組については記載が見られなかった。

「９. その他」１団体（16.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・「その他」として、日本文化として盆栽が認識される点が大事であるとの意見がある。
従来、様々な場所や機会で盆栽を目にすることがあり、古くから伝えられてきた盆栽だが、国内における盆栽に対する認知や認識はあまり高くない点を指摘している。

【現状】

・団体の支部では高齢化や会員数の減少が大きな問題となっている一方、団体が主催する盆栽展には毎年国内外から大勢の観覧者がやってくることから、盆栽が日本文化としてどの

程度認知されているのか、また、盆栽を見る人と趣味として盆栽を育てる人の認識の隔たりを感じていると指摘している。

【必要な取組】

・盆栽が日本文化であると広く周知するためには、全国各地で展示会を開き普及活動を続けていくとともに、海外からの注目度が高い現状を踏まえて、ユネスコ無形文化遺産の代表一覧への記載に向けた取組のようなことも必要だとの意見が見られる。

② 盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

「盆栽を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、「２．取り組むことが難しい状況にある課題がある」という回答が４団体（66.7%）で最も多く、次いで「１．解決に向けて取り組んでいる課題がある」２団体（33.3%）となった。「３．課題はない（解決した場合を含む）」との回答はなかった。

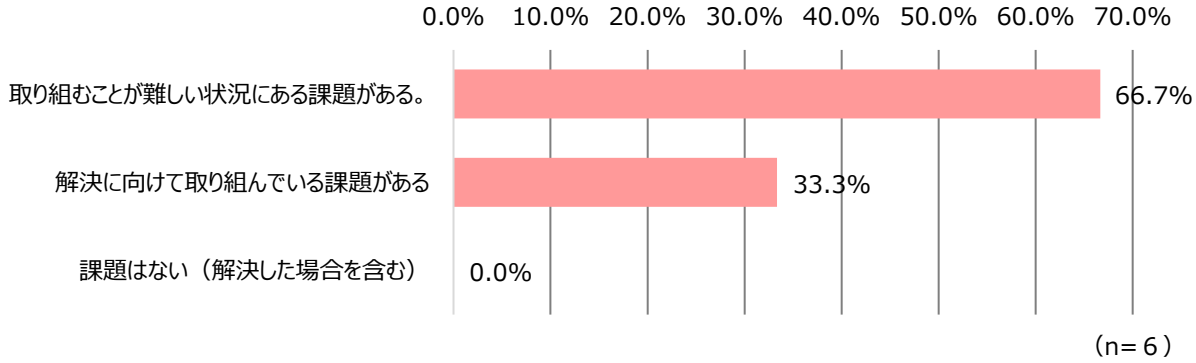


図２　盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「１．解決に向けて取り組んでいる課題がある」２団体（33.3%）

【具体的な課題と解決に向けた取組について】

・盆栽業界の高齢化および盆栽業者や愛好家の減少

盆栽業に係る職人や業者、そして盆栽を愛好する者についても高齢化が進んでいる一方、盆作業者の後継者不足や盆栽を愛好する者の減少も進んでいる点を課題として挙げている。

これらの課題に対しては、盆栽に興味関心を持ってもらい愛好者として盆栽に関わってもらうため、盆栽の展示会や即売会などのイベントの開催や、大阪・関西万博、横浜国際園芸博覧会への出展等についても検討している。

「２．取り組むことが難しい状況にある課題がある」４団体（66.7%）

【具体的な課題と解決に向けた取組について】

・盆栽業界の高齢化および盆栽業者や愛好家の減少

「１．解決に向けて取り組んでいる課題がある」と同じく、盆作業者の高齢化や後継者不足、盆栽を愛好する者の減少を課題として挙げている。

上記の課題についての解決に向けた取組が難しい理由については、愛好者の高齢化や減少に伴い収益が減じていること挙げている団体や、特効薬はなく、全国で行われている地道な啓蒙活動を通じて盆栽の魅力を伝えていく必要があると回答している団体もある。

（３）新型コロナウイルス感染症の影響について

① 影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、回答のあった５団体全てが「２.大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」を選択している。

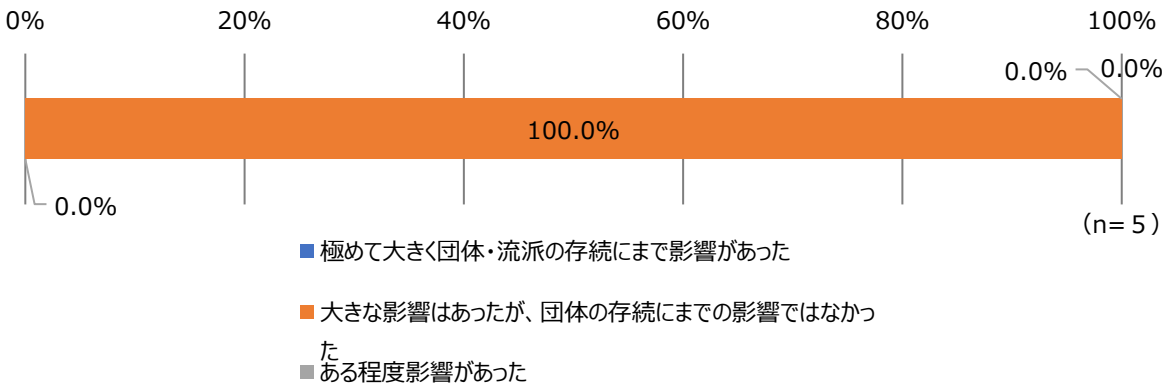


図３　新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

② 具体的な影響

・回答のあった５団体全てから、盆栽の展示会や即売会・交換会が中止になったほか、団体や支部で講演会や研修会、その他の催事の実施を予定していた場合も中止にせざるを得なかったと回答している。

・展示会等を実施しても、感染症対策による入場制限等があるため観覧者数の減少等の影響があったことが回答からうかがえる。

・支部がある団体からは、新型コロナウイルス感染症の影響により支部活動が停滞し、支部の会員が高齢だった場合などは支部自体が解散してしまったと回答が見られる。

③ 実施した対応策

・展示会等を開催した際に、クラスター感染を防ぐために感染症対策を徹底するとともに、展示会の様子を YouTube で配信する等の対応を行ったとの回答が見られる。

・また、団体の運営存続のため補助金や助成金を活用して、急場を凌いだとの回答も見られた。

④ 復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体に対し、現状（令和５年末）における復旧の程度を聞いたところ、「ある程度影響は残っている」が４団体（80.0　%）で最も多く、次いで「影響は概ね払拭されている」の１団体（20.0%）となっている。

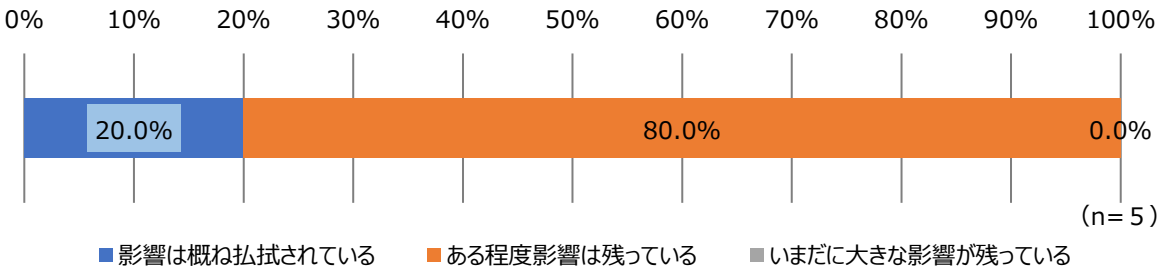


図４　復旧の程度について

１－３　まとめ

団体の活動内容

今回の盆栽に係る横断的団体を対象として実施したアンケート調査の結果、様々な活動が行われていることが回答からうかがえる。

まず、横断的団体の全てが盆栽の展示会を開催しており、盆栽の愛好者が出品するものから、盆栽園の園主（盆栽作家）が作品を展覧する展示会もあれば、小品盆栽や皐月盆栽といった特定の樹種に特化した展示会もあるなど、様々な形で展示会が行われている。また、盆栽の展示数（席数）も様々で、最大で 290 席の盆栽を展示する会もあれば、40 席ほどの規模感の展示会もあり、規模についても各団体によって異なる。これは、年間の開催回数も同じで、各団体とも年に１回、多いところでは年３回展示会を開催している所もあり、展示会の規模によっては 8,000 人以上の来場者が展示会へ訪れる例も見られる。

展示会の開催以外にも団体の活動は様々な形で展開されている。まず、団体に所属する会員や組合員といった人に向けた研修会や講習会を実施している２団体があり、一つは団体が運営している講師やインストラクター制度と関連する形で実施されている例で、盆栽の培養等の専門的知識を教授する場として開催されている。もう一方は、国際シンポジウムという形で実施されており、国内外からの要望を受け様々な内容のシンポジウムを実施している。

一方、一般の方や学校向けに講演会の開催や講師派遣を行っている団体も多くあり、学校等からの依頼を受けて講師派遣を行い、盆栽に関する授業を実施している例や、団体の各支部が開催している展示会や講習会に講師を派遣している例も見られる。

この他、資格制度を保有する団体があり、前述のとおり、盆栽に関する専門的な知識・技術を有する講師やインストラクターを講習会の実施等を通じて育成している。

このような取組をはじめ、機関誌等の発行や広報活動も各団体で実施されている。まず、機関誌については、４団体で機関誌の発行を行っており、多くが団体の会員や関係者向けに、団体の催事や活動報告等を掲載しているものが多い。また１団体の機関誌は、盆栽の専門誌として広く頒布されており、盆栽の愛好者が関心のある内容なども掲載している。

次に広報活動については、全ての団体で広報活動を実施しており、団体の HP があり、団体の概要や活動状況、催事等の案内等が掲載されている。HP の運用に加えて、ポータルサイトを運営している団体の他、Facebook 等の SNS の運用を行い、催事の開催案内など情報発信も実施している。

上記以外の活動としては、盆栽や水石のユネスコ無形文化遺産登録を目指した運動を行っているとの回答があり、国内における盆栽や水石に関する文化が再認識されるきっかけ作りを目的として、取組が行われている。

各団体が抱える共通の課題の１つとして、盆栽の業者や愛好者の減少が取り上げられる。とりわけ、盆栽の展示会に関する課題として、盆栽の席数の減少や展示会の来場者数の減少について取り上げらており、これらの要因として、盆栽の愛好者の減少を大きな要因として団体は捉えている。また、盆栽の愛好者の減少は盆栽業を生業とする盆栽園や苗木の生産者、道具等の製造等を行う者にも影響があり、愛好者の減少が結果として、盆栽界に大きな影響を与えていると各団体が考えていることがアンケート回答からうかがえる。

以上のような共通する課題を抱えながら、各団体はそれぞれの活動について取り組んでおり、たとえば、愛好者の減少への対策としての広報活動の強化や、関西万博や園芸博覧会等への出展などを検討している団体もある。また、普段の広報活動に関する発信力の強化については、各団体とも、HP 掲載のコンテンツの拡充や SNS 更新頻度の向上を図り、閲覧数の増加を図りたいと考えており、また SNS の運用を行っていない団体でも SNS による発信を行うことが検討されている。

盆栽文化の継承

「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「盆栽の手入れ（剪定）等の技術」、「盆栽に適した苗木」、「盆栽の樹種・樹形等の知識」、「鉢などの盆器や卓」、「盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観」、「盆栽の似合う和室や庭などの空間」、「樹の来歴や伝承が貴重な盆栽」の順で回答の割合が高い。各要素について、大切であると考える理由はおおよそ以下のとおりであった。

・盆栽の手入れ（剪定）等の技術については、盆栽を作る上で、盆栽の手入れの仕方や剪定の技術は基本であると同時に、美しい盆栽、新しく盆栽を仕立てていく上でも、とても重要なものであり、これまでに先人から伝承されてきた盆栽そのものを次の世代へ継承していくとと同時に大切な要素である。

・盆栽に適した苗木については、盆栽を作っていく上ではもちろんこと、愛好者が盆栽を育て仕立て楽しむという観点からも重要であり、盆栽に適した苗木を生産し続けていくことで、盆栽を次世代へ継承していくことができる。

・盆栽の樹種・樹形等の知識については、盆栽として仕立てられた樹種毎に、その培養の方法や樹形への仕立て方は異なるほか、良い盆栽になる苗木等の見分け方等、様々な知識が盆栽を培養し仕立てていく上で欠かせないものである。

・鉢などの盆器や卓については、盆栽を飾る、展示会で展示する上で必要不可欠な要素である。

・盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観については、名品として伝えられてきた盆栽は、樹の造形と盆器の取り合わせの調和がとれている点から、それらの取り合わせを行うための美的感覚は重要な要素である。

・樹の来歴や伝承が貴重な盆栽については、様々な来歴を持ち今日まで継承されてきた盆栽は、後世まで受け継ぐべき重要なものである。

上記の要素を次世代に守り伝えていく必要がある中、盆栽を扱う盆栽園や苗木を扱う業者、また盆器などを生産する職人などの高齢化や後継者不足に陥っている点を課題として指摘している回答が多い。結局のところ、盆栽を次世代に受け継いでいくために守り伝えていく要素の多くを、盆栽を扱う盆栽園の園主や苗木や盆器、道具類を作る職人や生産者が担っている部分があるためこのような点が指摘されているものと考えられる。

また、上記の課題は、団体が行う様々な活動においても、愛好者の減少とともに盆栽を支える盆栽園をはじめとした業者や職人が減少している点が指摘されている点と共通しており、それらの課題点の要因に盆栽の愛好者の減少を挙げている点も同じである。

課題を解決するための取組としては、盆栽の世間一般からの認知度を高めていくためのイベント等の取組などを行っていく、盆栽の愛好者を少しでも増やしていくような取組が必要と考える団体が多く、そのような取組の延長線上に、盆栽園や盆栽に係る様々な業が成立するような環境づくりという目標が見据えられていることがうかがえる。

新型コロナウイルス感染症の影響

アンケート回答では、新型コロナウイルス感染症の影響について、全ての団体が活動等に大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかったと回答している。また、具体的な影響としては、盆栽の展示会や即売会・交換会や講演会・研修会等の催事を中止としたとの回答が多く見られる。また、感染症対策をしながら行われた展示会等でも入場制限をしなくてはならず、平時の観覧者数と比べるとその人数が大きく減少していたことや、コロナ禍に伴う団体の活動等の休止に伴う形で、団体支部が解散した、といった事態が発生したことも回答結果から確認できる。

なお、コロナ禍以降の団体活動等への影響については、８割の団体でいまだに影響を拭い切れていない状況にあることも分かった。

２節　盆栽園の活動について

２－１　盆栽園へのアンケート調査の実施概要

盆栽に関する活動の詳細な実態を把握することを目的として、盆栽の生産・流通に携わっている盆栽園を対象とし、各盆栽園の具体的な活動内容や、その現状と課題、盆栽のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることを目的としたアンケートを実施した。

なお、調査年度（令和５年度）においてはいまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	281 園
調査期間	令和５年（2023）12 月４日(月)～令和５年（2023）12 月 25 日(月)
回 収 数	56 園(回収率：19.9%)
設問項目	Ｑ１：盆栽園の概要 Ｑ２：盆栽園の普段の事業・活動について ①「盆栽の栽培や販売（輸出等も含む)」(活動概要、課題、今後の展望等) ②「展示会出品のサポート等」(活動概要、課題、今後の展望等) ③「後継者や研修生の育成、愛好者へのアドバイス」(活動概要、課題、今後の展望等) ④「情報発信」の実施（活動概要、課題、今後の展望等) ⑤「団体との連携」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ⑥「自治体・地域などとの連携」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ⑦「その他活動」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) Ｑ３：盆栽の継承について ①「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由 ②①で選択した要素に関して、盆栽園としての現状及び守っていく上で必要な取組 ③盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例 Ｑ４：新型コロナウイルス感染症の影響について ①新型コロナウイルス感染症の影響の程度 ②具体的な影響 ③実施した対応策 ④復旧の程度

〈調査結果を参照する際の注意事項〉
・集計は小数点第２位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

２－２　盆栽園へのアンケート調査の結果概要

（１）盆栽園の普段の活動について

① 盆栽の栽培や販売（輸出等も含む）について

○ 活動概要

（代表的な樹種について）

回答のあった 53 の盆栽園において扱っている樹種の中でも、五葉松が 27 園（50.9%）と最も多く、次いでモミジ 25 園（47.2%）、黒松と真柏がともに 21 園（39.6%）となっている。

多くの盆栽園では、真柏類や雑木類など多様な樹種を扱っている場合が多いが、松柏類のみ（10 園、18.9%）、皐月のみ（５園、9.4%）、雑木類のみ（４園、7.5%）と、特定の樹種を専門的に扱っていると考えられる盆栽園や、小品盆栽を主体としている盆栽園も見られるなど、各盆栽園において特徴が見られる。

（栽培の年間スケジュール）

各盆栽園にて異なる部分はあるが、大まかなスケジュールとしては、春から夏前にかけて盆栽の植え替えや苗木の植え付けなどを行いながら施肥も行い、夏頃には芽摘み、葉刈り、剪定作業を行っていく。秋から冬にかけて古葉を取りや、針金をかけての整枝なども行われる。これらの作業は樹種によっても実施するタイミングが異なり、また盆栽園によっても異なる点が多いことが確認できる。

（販売方法）

盆栽の販売方法については、回答のあった 53 の盆栽園のうち、約６割が盆栽園での直接・対面での販売を行っていると回答している。また、約３割の盆栽園でインターネット利用による販売が行われている。この他、盆栽の展示会での販売や、オークションへの出品等による販売も確認できる。

（海外との関わり）

海外との関わりについては、回答のあった 51 の盆栽園のうち、約２割の盆栽園で店頭販売を行う中で外国人にも販売を行っていると回答している。また、業者等を経由して盆栽を外国へ輸出している盆栽園が１割ほど、全く取引がないと回答している盆栽園も１割ほど確認できる。この他、盆栽の展示会で行われる販売会で取引があったりするほか、海外からデモンストレーションや講習会の依頼を受けて渡航している盆栽園もある。

なお、取引をしたことがある国や地域としては、EU と回答している盆栽園が 12 園と最も多く、次に中国６園、台湾とアメリカがそれぞれ４園と続いている。

○ 現状と課題

現状として多く回答されているのは、盆栽園や盆栽に適した苗木等を生産する業者の高齢化と後継者不足である。盆栽園の園主自身が高齢化しているという回答と合わせて、若手や後継者の育成が難しいといった意見が見られる。また、盆栽の苗木を育てる業者も高齢化が進み、後継者も不足している点に危機感を持っている盆栽園も少なくない。

次に、盆栽を愛好する者の減少や高齢化である。若い世代が盆栽に関心を持ちにくい、関心を持っても継続的に盆栽を愛好してくれる人が少ないといった意見が多数を占めている。また、海外での盆栽への人気の高まりが顕著な一方で、国内における愛好者の高齢化と減少が進んでいることもあいまって、盆栽の国内需要の縮小傾向が見られる点を指摘している回答も見られる。

その他、盆栽を海外に輸出する際の条件が変更された場合の確認や対応に時間がかかるといった意見も見られる。

○ 今後の展望等

今後の展望としては、盆栽の魅力や楽しさを伝えていきたい、国内における盆栽の愛好者を増やしていきたいといった回答が見られ、若い世代へのアピールや年代に関係なく楽しく盆栽に親しめる教室を開きたいといった展望も見られる。また、良い盆栽、本物の盆栽を作り続けていきたいといった意見も確認できる。

この他に、愛好者減少に伴う国内市場の空洞化を危惧する回答や、国内での小売りが難しくなっている状況を踏まえて盆栽のリースや国外への輸出強化など、新しい取組を検討している回答も確認できる。

② 「展示会出品のサポート等」の実施について

○ 活動の概要

（展示会出品の現況）

盆栽の展示会への出品サポート等の状況については、回答のあった50園の内約４割の園が、出品に関するサポートを行っている。サポートの内容としては、顧客の盆栽を預かって手入れをする場合や、盆栽の手入れから展示会場への搬入・搬出などを行う場合など様々で、出品へのサポートに加えて盆栽の委託管理も行っている盆栽園もある。

（海外との関わり）

展示会への出品について、海外との関わりがあると回答した盆栽園は４園と少なく、依頼があった場合等に対応しているとの回答も見られる。その他の回答では、海外の展示会に招待される等してデモンストレーションや審査委員を引き受けたり、盆栽の指導を行ったりしているといった回答が確認できる。

○ 現状と課題

回答の傾向として、盆栽の展示会への出品数が減少している点を課題として挙げているほか、また展示会を主催する団体や支部の会員や盆栽を愛好する者の減少についても指摘している回答が多い傾向にある。このような課題もあり、展示会の継続や盆栽文化の国内での継承のためにも、展示会への出品者や盆栽の愛好者を増やしていきたいという回答も多く見られる。また、盆栽園として良い盆栽を作ることなどを課題として挙げているところや、展示会に出品する愛好者へ盆栽の管理や培養の知識や技術を伝える点を課題とし挙げているところも見られる。

○ 今後の展望等

様々な展望が記載されているが、盆栽の愛好者を増やしていきたいという主旨の展望が多い傾向にある。若い世代や年代を問わずに盆栽の魅力を伝えたいといった回答や、盆栽に関心を持つ若い世代が増えつつあるとの回答も見られる。

その一方で、海外での盆栽人気もあいまって、海外からの出品の比重が大きくなってしまっており、海外から出展が望めない展示会やイベントは存続が難しくなってしまうのではないか、との懸念を示す声もある。

③ 「後継者や研修生の育成、愛好者へのアドバイスなど」の実施について

○ 活動概要

（後継者及び研修生等の受入れ）

回答があった 49 園の内、後継者がいるとの回答が８園（16.3%）、研修生の受入れを行っている園は 16 園（32.7%）となっている。

まず、後継者については弟子が独り立ちしていると回答しているものや、子どもが後を継ぐ予定で一緒に仕事をしている等の回答があったほか、後継者自体がいないとの回答も見られる。研修生については、受入れを行っている園では、日本人や外国人を研修生という形で受入れている園が多く、研修を修了して独り立ちしているとの回答も見られる。また、研修生の受入れを行っていない園でも、研修生を受けたいとは考えているが、人員や体制が整わないので、受入れが難しいといった事情について記載している園も確認できる。

（愛好者へのアドバイス）

回答があった 50 園の内、37 園（74%）がアドバイスを行っていると回答している。アドバイスの程度については園によって様々で、来園者を対象に要望に応じてアドバイスを行っている場合や、電話やメール、ＳＮＳで受け付けている場合など様々あり、盆栽教室を開いている園もある。

（海外との関わり）

海外との関わりについては、回答のあった 39 園のうち、海外からの研修生受入れを行っているとの回答が３園（7.69%）、海外からの来園者や愛好者へのアドバイス等を行っているとの回答が５園（12.8%）となっている。

海外からの研修生受入れについては、短期間での研修に対応している園が多い。アドバイスについては、海外からの来園者へのアドバイスをはじめ、必要に応じて海外へ渡航して手入れなどの作業について手助けしている園もある。

○ 現状と課題

活動における課題としては、若い世代で盆栽を愛好する者が少ない点に加え、愛好者の高齢化と減少を課題として挙げている回答が多く見られる。また愛好者のみならず、弟子入りであったり研修を希望したりするような人も減少傾向にあるとの指摘もあり、愛好者の減少もあいまって盆栽業の存続について危惧する回答も確認できる。

○ 今後の展望等

今後の展望としては、愛好者や後継者を含めて、若い世代への盆栽への関心を持ってもらう取組が必要と回答している園が多く見られる。例えば、盆栽のイメージアップを図ることや、盆栽教室の継続、SNS 等での広報等がその例として挙げられており、既に取り組んでいる活動を今後も継続していくという回答が多い。

④ 「情報発信」の実施について

○ 活動概要

（情報発信の有無や内容）

アンケート回答のあった 51 園のうち、45 園（88.2%）が何らかの形で情報発信を行っている。回答で多く見られたのは、Instagram 等の SNS の利用 24 園（53.3 %）で、このうち 15 園（62.5%）が Instagram を利用、Facebook と YouTube の利用がそれぞれ４園となっている。また、14 園（31.1%）はホームページの運営や所属団体の WEB サイトで情報発信していると回答しており、このうち 10 園（71.4%）は SNS での発信も行っている。

新聞や盆栽の専門誌への広告掲載等を行っているのは 15 園（33.3%）で、このうち６園（40.0%）はホームページの運用や SNS での発信も並行して行っている。

（情報発信の目的）

情報発信を行っていると回答のあった 45 園が情報発信を行う目的としては、26 園（57.8%）が盆栽園の宣伝や集客を目的にしていると回答している。また、14 園（33.3%）は盆栽の普及や盆栽業界の発展のためなど、盆栽の振興・普及を目的として掲げている場合もある。

（情報発信の成果）

回答のあった 45 園から情報発信の成果については、30 園（66.7%）が何らかの効果や成果があったと考えている。具体的な成果については、来園者の増加や遠方からの来園、若い世代や初心者の来園がある等で、一定程度の効果や成果を感じている園があることが確認できる。

○ 現状と課題

情報発信の課題としては、発信内容等のクオリティーや発信の頻度について課題としている園が多い。情報として発信する内容の充実や SNS の使い方が不慣れである点、また情報発信のために費やす時間がないなど、多岐にわたっている。現状維持という回答も見られるが、全体の傾向としては情報発信をどのように効果的にしていくかという点を課題に感じている傾向にある。

○ 今後の展望等

情報発信の今後の展望については、ホームページや SNS を利用している園からは、さらなる有効活用を図りたい、発信内容をより充実させたいといった回答のほか、情報発信に用いる映像等の外注を検討している盆栽園も見られる。また、情報発信を通じて、若い世代をはじめ様々な人々に盆栽の魅力を伝えていきたいとする回答も見られる。

⑤ 「盆栽に係る団体との連携」の実施について

○ 活動概要

（連携している団体）

アンケート回答のあった48園のうち、４園は連携等を行っていないとの回答だった。ほかの盆栽園については、40 園（83.3%）が盆栽の協同組合との連携を行っており、この中でも特に日本盆栽協同組合と連携を行っていると答えている盆栽園（28 園、70.0%）が最も多い。また、日本盆栽協会や全日本小品盆栽協会等の愛好者団体とも連携を図っている盆栽園(25 園、56.8%）も多くある。

この他、盆栽を扱う美術館との連携や、自治体の農業関係の部局等との連携を上げている園も確認できる。

（連携の内容）

回答のあった39園のうち、団体との連携内容として盆栽団体が主催する展示会への出品や運営への参画を挙げている園（16 園、31.0%）が多くあり、次いで、盆栽の競りや交換会等への参加や協力（12 園、30.8%）との回答が見られる。この他、各団体が実施する事業への参画が連携内容として挙げられており、美術館における盆栽の委託管理や、自治体等が盆栽に関する催事への協力を挙げている盆栽園も確認できる。

（海外との関わり）

海外との関わりについては、海外の盆栽愛好者への助言や海外の大学が持つ盆栽の手入れなどを行っている例や、官公庁や盆栽団体等から依頼を受けて海外へ渡航して講演や実演・指導などを行っている例も確認できる。

○ 現状と課題

課題と挙がっているものとしては、連携している団体の組合員や愛好者を含めた会員の高齢化が進んでおり、組合員や会員の減少、それに伴う形で団体の維持存続が今後難しくなってくる等の懸念が挙げられている。また、盆栽園の園主である回答者自身の高齢化に伴って、団体催事への積極的な参画が難しくなってきているといった回答も見られる。

○ 今後の展望等

今後の展望としては、従来どおりに盆栽団体等との連携や事業への参画を図っていきたいとの回答が多い傾向にある。また、幅広い年齢層へ盆栽の魅力を伝え愛好者を増やしていきたい等の展望を持つ盆栽園がある一方で、国内需要の低下や、団体組合員や愛好者の減少に伴う盆栽界の縮小傾向を危惧した意見も見られる。

⑥ 「自治体・地域などとの連携」の実施について

○ 活動概要

（連携している団体の概要）

アンケート回答のあった 39 園のうち、18 園（46.2%）で地元の商工会や民間団体との連携を図っている。回答では、商工会や盆栽組合、盆栽の愛好者団体、文化連盟等の団体が挙げられて

いる。このほか、12 園（30.8%）では地方公共団体と連携した取組を実施している。

（連携の内容）

連携内容としては、８園（26.7%）が盆栽の展示会開催への協力や支援を行っており、地方公共団体や盆栽組合等が主催する盆栽展に対する支援を行っている。このほかに、催事への協力、ワークショップへの協力が共に７園（23.3%）と続く。催事への協力については、催事内で展示するための盆栽の提供を行っている例がある。

また、ワークショップは盆栽園の園主が講師となって盆栽体験を行っている場合が多く、電話等での盆栽に関する相談を行っている園もあるほか、学校の卒業式等に盆栽をリースしているとの回答も見られる。

○ 現状と課題

現状と課題としては、５園（25.0%）が参加者や団体会員の高齢化や組織の若返り（マンネリ化）を課題として挙げている。盆栽園が協力している民間団体等の会員に関する課題であり、また、盆栽園の園主の高齢化という課題も取り上げられている。一方、一部の園の回答からは、民間団体の会員数の増加や若い世代の参加が進んでいるとの回答も見られる。

この他、盆栽の魅力についてワークショップなどを通じて知ってもらう必要がある点を課題として挙げている園も見受けられる。

○ 今後の展望等

今後の展望としては、団体会員の高齢化や組織の若返り等を課題に挙げていた園では、少人数でも実施可能なイベントや、より参加者層を広げたイベントの実施等で対応していくことを検討している。

⑦ 「その他活動」の実施について

○ 活動概要

（活動の概要）

その他の活動としては、盆栽教室の開催や学校での盆栽指導等を行っている盆栽園が多くある。盆栽教室の対象は、児童向けのものから、初心者向け、あるいは愛好者への指導など、様々である。この他、テレビ電話を利用した盆器の販売に取り組んでいる例や自治体と連携してクラウドファンディングを行っている例のほか、入手しにくくなった盆栽の用土を自社商品として生産に取り組もうとしている例が確認できる。

（活動の成果）

盆栽教室等を行っている園からはその成果として、盆栽への関心の高まりや教室活動を通じた連帯感の醸成、若い世代の参加等、参加者の盆栽に関する技術の向上などの様々な成果を回答している。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により参加者が三分の一にまで減ってしまった場合や、教室に参加しても長続きしない人へのアプローチの仕方などの課題を持つ盆栽園もある。

この他の取組については、テレビ電話を利用した盆栽等の販売については、国内のみならず海

外の人にも盆器を買ってもらえる機会ができるといった成果が見られるほか、クラウドファンディングを実施した盆栽園では、クラウドファンディングを通じて、資金の獲得に加えて、盆栽に関心がある人との縁ができるなどの成果があったとしている。盆栽の用土の商品開発に取り組む園は、商品開発後は、卸販売を行い販路の開拓を行っていきたいと今後の展望を回答している。

○ 今後の展望等

盆栽教室を行っている園からは、継続的な教室の実施や若い世代へのさらなる盆栽の周知を図りたいといった回答や、教室参加者の盆栽を展示する展示会を実施したいという園もある。テレビ電話を通じた盆器の販売を実施している園の場合は、海外や遠方の人とコンタクトを増やしていき、顧客の要望に応えられるようなシステム作りをしていきたいと回答している。また、クラウドファンディングを実施した園は、クラウドファンディングを通じた支援者を増やしていくためのアイデアを考えているとの回答している。

（２）盆栽の継承について

① 継承すべき要素

今日までの盆栽の継承において、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定していくために、盆栽の横断的団体向けのアンケート調査と同様、盆栽園向けのアンケートでも、「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、盆栽園において特に大事だと思われる要素を３点選んでもらった。

１．盆栽の樹種・樹形等の知識
２．盆栽の手入れ（剪定）等の技術
３．盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観
４．樹の来歴や伝承が貴重な盆栽
５．盆栽に適した苗木
６．鉢などの盆器や卓
７．剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類
８．盆栽の似合う和室や庭などの空間

上記はいずれも盆栽の構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、盆栽の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、盆栽園が大事だと考える要素についてどのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、（１）「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、（２）（１）で選択した要素に対して、盆栽園としての現状及び守っていく上で必要な取組、（３）盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。

その結果、盆栽園の選択は次のグラフ（図８）のとおりであった。

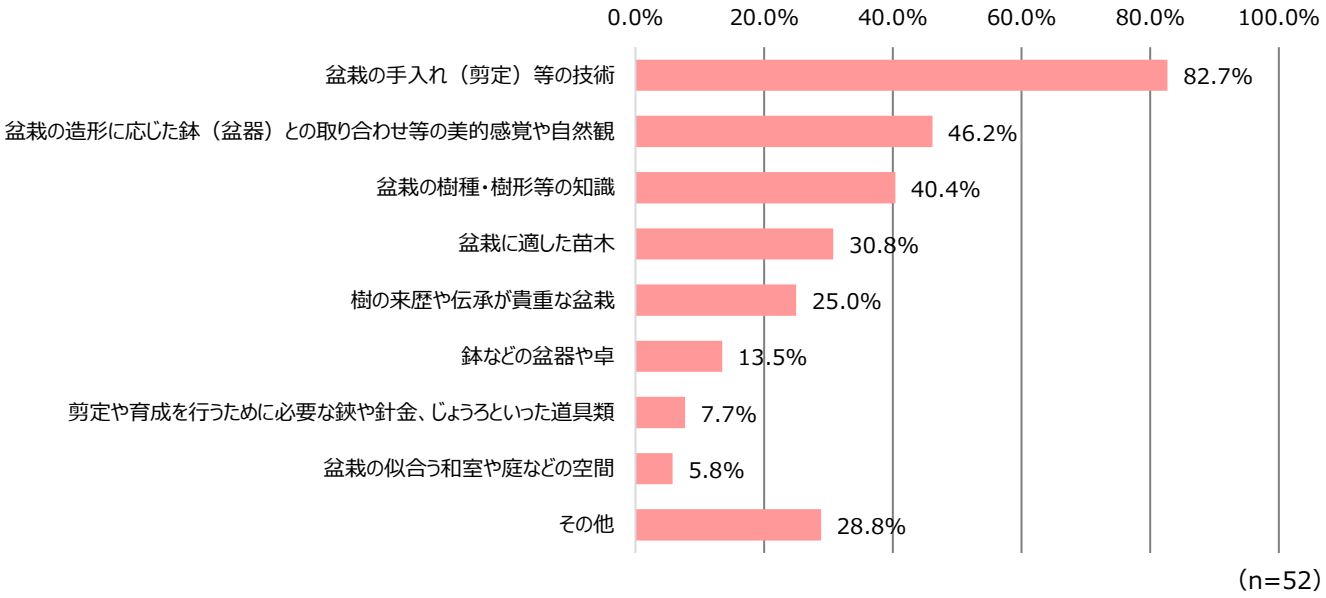


図５　盆栽の継承において特に大事だと思われる要素

上図のとおり、全体では「２.盆栽の手入れ（剪定）等の技術」が、43 団体（82.7%）を最も高く、次いで「３.盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観」の 24 団体（46.2%）、「１.盆栽の樹種・樹形等の知識」の 21 団体（40.4%）、「５.盆栽に適した苗木」の 16 団体（30.8%）と続く。

これを盆栽団体の結果と比較してみると、全体で「２.盆栽の手入れ（剪定）等の技術」が１位となっているところは変わりないが、盆栽園では、盆栽団体で全体５位であった「３.盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観」が２位となっており、順位が大きく異なる。また、「６.鉢などの盆器や卓」については、盆栽団体のアンケート結果では４位であったが、盆栽園では６位となっている。

以下、各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめる。

「１.盆栽の樹種・樹形等の知識」21 団体（40.4%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

- 鉢や盆器で培養し作り上げていく盆栽は、樹種による特性や成長期・休眠期に応じて適切な手入れや管理を行う必要があるため、樹種に関する知識は必要不可欠とされる。
- 樹種に関する知識と同じく、盆栽の樹形に関する知識も、盆栽を剪定等の技術をもって作り上げていく上で必要なものであり、盆栽園を営むプロであるなら、好みの違いはあれど樹種の管理・培養に関する知識とともに、樹種に応じた樹形などの幅広い知識は不可欠となっている。

【現状】

・樹種や樹形の知識については、盆栽の専門誌や雑誌等によって広く学ぶことができる現状にあるが、その一方で、若い世代はインターネット等で知識を得ていることが多いが、現物を見ないと分からないことが多いといった点を示唆する回答も見られる。
また、盆栽園の中には、樹種に関する専門知識を持つ識者と連携している盆栽園もある。

・愛好者について言及している回答もあり、盆栽の樹種に関する専門書が市販されているものの愛好者の中でもそれらを所持している人は少ないように見受けられるといった点について言及されており、樹種・樹形に関する知識が愛好者に向けてあまり広まっていない点を懸念していることが分かる。また、若い愛好者には、苗からじっくりと育てていってほしいといった意見も見られる。

【必要な取組】

・樹種や樹形の知識についての必要な取組として、これらの知識を広めるための教室や講習会の実施をした方が良いという回答が多く見られる。また、樹種や樹形に見識がある人の力を借りることも必要といった意見や、展示会やテレビ等を通じて継続的に敷衍する取組を考えている園もある。

「２.盆栽の手入れ（剪定）等の技術」43 団体（82.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽は、地植えで植物を育てるのとは異なった、培養や管理、剪定に関する技術が必要である上、それらの技術がないと、盆栽としての形（樹形）を維持しながら育成していくことが困難であるため、基本的なことでありなおかつ重要な要素として捉えられている。

・盆栽の日常的な管理を行う上での水やりや整姿、剪定などの技術は、盆栽を枯らさずに維持していきながら、盆栽自体を愉しみ、盆栽そのものを次の世代へと引き継いでいくために必要であるといった意見が大半を占める。

【現状】

・現状については、盆栽園に弟子入りしたり研修生として勤めたりしている者に指導しているとの回答が見られる。

・また、愛好者が来園した際や、電話やインターネットを経由して問合せがあった場合には丁寧に教えていると回答している盆栽園が多く、盆栽教室や体験会などを開催して初心者や愛好者へ盆栽の技術を伝えている盆栽園もある。

・一方、海外への輸出が盛んに行われている傾向にあることから、技術と手間をかけて盆栽を作って販売する盆栽園が減ってしまっていているのではないかと危惧している回答のほか、園主の高齢化や若い後継者がいない等の回答も見られ、技術の継承という点について危機感を抱いている盆栽園もある。

【必要な取組】

・研修生や弟子への技術指導や指導者の育成が大事といった意見に加えて、盆栽団体による技術の情報共有や講習会の開催の必要について指摘する回答も見られる。

・また、盆栽園として、盆栽の初心者や愛好者を地道に育てていく、そのための教室などを開いていくことが大事といった意見が多い。一部では YouTube を使って盆栽技術の解説動画を配信しており、さらに興味を持ってもらうための仕掛けをしたいといった回答や、盆栽園がそれぞれに経験してきたノウハウを対談や映像化して多くの人に見てもらうことで、盆栽や盆栽の技術への関心を高めることができるのでは、といった提案も見られる。
・この他、盆栽業者や愛好者の高齢化を世界では「BONSAI」として人気があるが国内では、高齢の人の趣味のようなイメージがあり若い人が集まりにくいといった意見や、そもそも国内での盆栽に対する価値を高めていく必要があるとの指摘も見られる。

「３.盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観」24 団体（46.2%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽は、樹と盆器の調和やバランスが大事であり、人が盆栽を鑑賞した時に感じられる盆栽としての美しさが表れているため、取り合わせる根本となる美的感覚や自然の捉え方が大事であるといった回答が多い。
・樹と盆器を取り合わせるための美的感覚等は、知識はもちろんのこと経験も必要なものであり、取り合わせるセンスだけではなく、樹をどのような形に整えるかという点についてもセンスが求められるという。樹と盆器の合わせ方によって、樹そのものの美しさが格段に上がるといった意見も見られる。

【現状】

・現状については、美的感覚や自然観について盆栽園毎に独自にセンスを磨いていることが回答からうかがえる。例えば、まだセンスが足りないという回答や、園主自身が目指している自然観から外れてしまうなどの意見もあり、展示会や本、他の文化の勉強することを通じて知識や経験の蓄積によりセンスを磨いているという回答も見られる。この他、後継者がいない点や盆栽業を営む者の減少に伴い、美的感覚やセンス等の指導が難しくなる可能性を危惧する回答もある。
・盆栽園によっては、来園者にアドバイスや盆栽教室を開き指導を行っているといった回答も見られる。

【必要な取組】

・必要な取組については、自分自身の美的感覚や自然観といった盆栽作りに必要なセンスを絶えず磨いていくといった主旨の回答が多い傾向にある。他の盆栽作家の盆栽も参照しながらセンスを磨く、自分の感覚を信じる、盆栽展だけではなく美術や造形に関する知識を学ぶといった回答が多い。
・盆栽教室等を主催している盆栽園からは、継続的な開催を続けていくことで愛好者へ美的感覚等の大事さを伝えたいという回答も見られる。

「４.樹の来歴や伝承が貴重な盆栽」13 団体（25.0%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・長い年月と多くの人の手を経てきたことで作り上げられてきた盆栽は、その歴史や伝承も含み盆栽自体が非常に大事であるという回答が多い。また、盆栽でも銘品と呼ばれるものの多くは古木であり、しっかりと管理していく必要があるとういう指摘も見られる。

・近年では、海外での盆栽人気もあって銘品が海外に流出していることについて危惧する回答も見られる。

【現状】

・国内の盆栽愛好者の減少に比例する形で、伝承が貴重な盆栽も海外の愛好者が所有している状況であるとの指摘が見られる。

・また、盆栽人気もあいまって盆栽園にある価値ある盆栽の窃盗等も発生するなどの問題も起きている。

【必要な取組】

・伝承が貴重な盆栽の価値そのものを理解できる人を増やす取組が必要となっているとの回答が見られる。

・また、貴重な盆栽については美術館と盆栽園が協力して管理しているものがあるが、そもそも、それらの貴重な盆栽の管理を行ってきた愛好者が高齢となり知識の引継ぎができていないことや、古木を管理するための知識や経験に時間がかかる点も指摘されている。

「５.盆栽に適した苗木」16 団体（30.8%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽初心者にとって、盆栽の素材となる苗木は盆栽を楽しんでいくきっかけ作りになるとの意見が多く、できるだけ多く生産できるような状況が望ましいという意見も見られる。

・また、現在、山採りがし難い現状にあることや、盆栽の苗木を生産する業者が減少していることもあるため、苗木の供給は大切であるという意見も見られる。

【現状】

・苗木自体の供給不足や、高齢化や後継者不足による苗木の生産者の減少を危惧する回答が多い。

・盆栽園の中には、自身で苗木の生産に取り組む園や、挿し木などを行って樹種を絶やさないように取り組んでいる園もある。

【必要な取組】

・苗木の生産者の確保について指摘する声も多いほか、幅広い苗木の育成ができる環境づくりが必要との回答も見られる。

・また、苗木の生産者確保に関連して、盆栽の愛好者を増やしていく取組を行うことで、苗木の生産者の安定した収入にもつながるのでは、との指摘も見られる。

「６.鉢などの盆器や卓」７団体（13.5%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・鉢等の盆器や卓等の飾り台は、盆栽としての大事な要素であるという意見とともに、盆器にこだわる点等が鉢植え等とは異なるとの指摘もある。

・また、盆器については古さや伝承といった要素も大事であるとの意見もある。

【現状】

・鉢等の盆器等を生産する職人が減少していることについての指摘が多い。常滑でも鉢などが焼かれていないとの指摘もある。

・海外での盆栽人気もあいまって国外に貴重な鉢や卓が流出しているとの指摘もあり、また価格自体も高騰している状況にある。

【必要な取組】

・鉢や卓の中でも、鉢の生産者への支援に関する取組が必要との意見が見られる。

・また、盆栽自体に関心を持ってもらい愛好者を増やし、盆栽の国内需要を高めることが鉢や卓の生産を守ることにつながるといった意見も見られる。

「７．剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類」４団体（7.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・用土や道具については、良い用土や道具がないと仕事ができないといった意見が多い。

【現状】

・用土や道具が遠くまで行かないと買えなくなってきている、道具類の製造業者の後継者不足や品数不足が進行している、価格が高騰しているといった意見があった。

【必要な取組】

・必要な取組としては、盆栽の需要を増やして行く取組と共に、盆栽園が地元の業者等からできるだけ仕入れを行う等の工夫も必要であるとの意見があった。

「８.盆栽の似合う和室や庭などの空間」３団体（5.8%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・盆栽は飾る場所によってその美しさが高まるものであり、盆栽と調和するような空間は大事であるという意見が中心となっている。

【現状】

・現状については記載が見られなかった。

【必要な取組】

・必要な取組については記載が見られなかった。

「９．その他」15 団体（28.8%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

・「その他」として、世間一般の盆栽という文化への興味関心や理解を高めていくことや楽しさを知ってもらうことや、盆栽に興味を持ってくれる人をどのように取り込んでいくか、という点が大事であるという意見が見られるほか、盆栽を培養・管理を行っていくことの重要性を知ってもらうことが大事という意見も見られる。

・他に、盆栽文化の次世代への継承や、海外へのアピールが必要であるといった意見などもある。

【現状】

・盆栽という文化に対する世間一般の理解を高めていくことが重要と考える園からは、盆栽に係るネガティブなイメージが払拭できていない現状や、盆栽業の高齢化に伴う後継者不足による盆栽園の閉園の危機などについて指摘されている。

・盆栽の培養・管理技術の重要性について指摘する園からは、盆栽園自体が、盆栽の販売に比重を置きがちになり生産や培養の重要性について一般に伝えきれていない部分があるとの意見がある。

・盆栽文化の海外へのアピールを重要であるとする園からは、海外への愛好者への販売が園の経営を支えている部分もあり、アピールの必要性と同時に、良い商品が海外へ流出してしまう点を危惧している。

【必要な取組】

・盆栽の培養・管理技術の重要性について指摘する園からは、樹種の生命維持能力や気候・風土への順応性について明らかとなっていない部分があるため、各盆栽園での記録等を集積し共有することで、培養・管理等についての技術の次世代への継承が図られるとの指摘がある。また、培養・管理の技術については世間一般にも知ってもらう必要がある一方、それらを学ぶための機会や場が少ないため、盆栽教室を増やしていくといった取組について示唆する回答も見られる。

②盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

「盆栽を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、「取り組むことが難しい状況にある課題がある」という回答が 27 団体（64.3%）で最も多く、次いで「解決に向けて取り組んでいる課題がある」17 団体（40.5%）となった。「課題はない（解決した場合を含む)」との回答は３団体（7.1%）となっている。

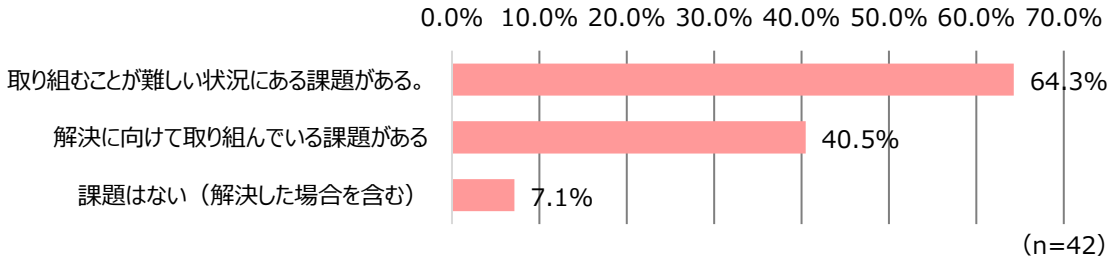


図６　盆栽を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

上記を選択した盆栽園が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容もしくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「１.解決に向けて取り組んでいる課題がある」17 団体（40.5%）

【具体的な課題と解決に向けた取組について】

・盆栽の魅力発信

盆栽がどのような文化か、またどのような魅力があるのかを発信できていない点を課題に挙げている盆栽園が多い。

これらの課題に対して行われている取組としては、ホームページや SNS 等による積極的な発信を挙げる園が多い。また、盆栽教室や講習会の開催による体験機会の創出や、海外から盆栽文化を逆発信する、盆栽を知らない人のために他のジャンルとのコラボレーションを行い、興味を持ってもらう等の取組も見られる。

・盆栽の愛好者の減少

盆栽の魅力発信に次いで、日本国内における盆栽の愛好者の減少を課題として挙げている園が多い。これらの課題に対して行われている取組としては、日本国内における盆栽の文化的な価値を高めることで、愛好者を増やすといった取組が行われているほか、盆栽に関心がある人へのアプローチも行われている。

「２.取り組むことが難しい状況にある課題がある」27 団体（64.3%）

【具体的な課題と解決に向けた取組について】

・盆栽業者の高齢化及び後継者不足

盆栽業者の高齢化と後継者不足が、解決に取組難い課題として多く挙げられている。具体的には、高齢化によって業務に支障が生じる場合や、後継者を育成しようとしても、盆栽の需要が減少しているため、収入面で厳しく、盆栽を生業としたい若手がいても、育成に取り掛かることができないといった状況にある。

・愛好者の減少及び高齢化

盆栽業業者の高齢化と後継者不足と同じく、盆栽の愛好者についても減少している上に高齢化が進んでいる点が課題として挙げられている。解決に取り組むことが難しい理由としては、盆栽を育てることが可能な環境があるかとうかで盆栽を趣味として楽しむことができるかどうかが変わってくるといった意見や、経済的かつ時間的な余裕がない、若い人が関心を持つイベント等のコンテンツがないなどの理由を挙げている。

「３．課題はない（解決した場合を含む）」7.1%

【具体的な課題と解決に向けた取組について】

課題がない、あるいは課題を解決した場合に関しては、盆栽園を運営している業者が先達として、次の世代を担う若手の面倒を積極的に見ていくこと、さまざまノウハウを伝えることができると回答があった。

（３）新型コロナウイルス感染症の影響について

① 影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、回答のあった 47 園のうち、「３．ある程度影響があった」21 園（44.7%）が多く、次いで、「２．大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」13 園（27.7%）と続き、「１．極めて大きく団体の存続にまで影響があった」と「４．あまり／ほとんど影響はなかった」は共に６園（12.8%）となった。

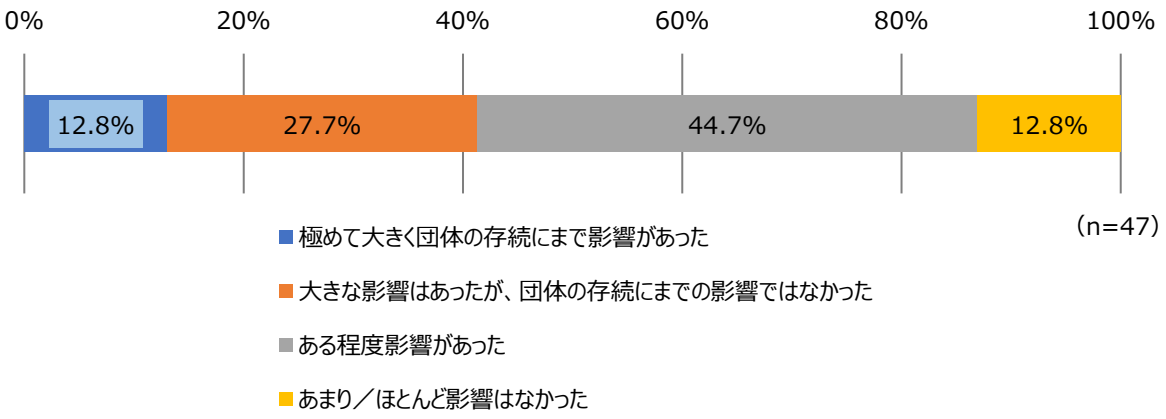


図７　新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

② 具体的な影響

・具体的な影響として多く寄せられた回答としては、盆栽の展示会や交換会、盆栽教室等のイベントの中止や延期が挙げられる。また、展示会等を開催できたとしても、平時と比べると来場者数は大きく減少したとの回答も多く見られた。

・展示会等のイベント参加者数の減少に加えて、盆栽園に来園する者も大きく減少してしまったことで、平時の売上げから大きく減少してしまったという回答も見られる。一方、インターネットなどを介した販売が増加した、という回答も見られる。

③ 実施した対応策

・盆栽園へ来園する方への対応として、マスクの着用や手指等の消毒などをお願いするなどの感染症対策を行いながら、営業を行っていた園が多い。

・また、インターネット販売の強化や YouTube による新規の顧客獲得に取り組む等の対応を取った園も少なからず見受けられる。

④ 復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた盆栽園に対し、現状（令和５年末）における復旧の程度を聞いたところ、「影響は概ね払拭されている」の 19 園（46.3%）が最も多く、次いでの

「ある程度影響は残っている」17 園（41.5 %）、「いまだに大きな影響が残っている」５団体（12.2%）となっている。

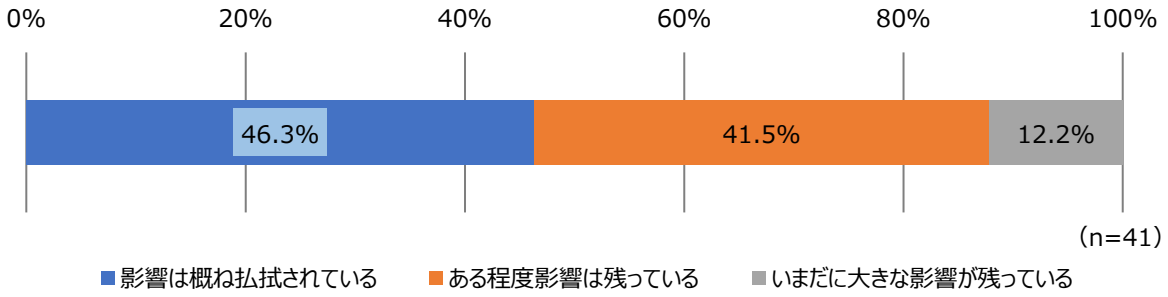


図８　復旧の程度について

２－３　まとめ

盆栽園の活動内容

アンケート回答のあった盆栽園では、５割が五葉松を扱っており、次いでモミジ、黒松と真柏を扱っている園が多いことが分かる。また、多くの盆栽園では多様な樹種の盆栽を扱っている場合が多いが、特定の樹種や小品盆栽を専門的に扱っている盆栽園も少なくない。

盆栽園における年間の栽培や培養等に関するスケジュールについては、春から夏にかけての盆栽の植え替えや苗木の植え付け、夏過ぎから芽摘みや葉刈りなど、秋から冬にかけは古い葉を取る、針金をかけて整枝を行う等のスケジュールで、盆栽の培養と管理が行われている。これらの作業については樹種によって異なる部分があるのはもちろんのこと、盆栽園によっても細かなスケジュール感が異なることが確認できる。

盆栽の販売方法については、回答のあった約６割の盆栽園が園での対面販売を実施しており、３割ほどの園でインターネットを利用した盆栽等の販売も行っている。また、盆栽の展示会で併催される即売会での販売や、オークションでの販売を行っている盆栽園もある。

なお、海外との関わりでは、約２割の盆栽園で外国人に店頭販売を行っているとの回答のほか、業者を経由する形で盆栽を海外へ輸出している盆栽園も約１割確認できる。

次に、アンケート回答のあった盆栽園の４割で、展示会へ盆栽を出品する際のサポートを行っている。例えば、愛好者の盆栽の手入れから展示会への搬入・搬出等の手続きを行っている盆栽園もあれば、盆栽自体を預かり委託管理を行っている場合など、盆栽園によってもサポートの仕方は様々に行われていることが確認できる。また、展示会に関する海外との関わりについては、海外から依頼があった場合、展示会への盆栽出品に関するサポートを行っている盆栽園もあるが、その数は４園ほどと多くはない。この他、依頼を受けて、海外の展示会でのデモンストレーションや審査員を行っている盆栽園もある。

盆栽園の後継者や研修生の育成や愛好者へのアドバイスについては、まず、園に後継者がおりその育成を行っていると回答した盆栽園は２割に満たなかった。また、研修生の受入れを行っている

盆栽園は約３割程度であった。なお、後継者や研修生はいないと回答している盆栽園の中でも、研修生を受入れたいと考えている盆栽園も少なからずあるものの、園の人員や体制が整わないと難しいといった事情があることが分かる。

続いて、愛好者へのアドバイスについては、アンケート回答のあった盆栽園のうち、７割ほどが状況に応じて盆栽の培養や剪定等に関するアドバイスを行っている。アドバイスの方法は様々で、来園した方にアドバイスをする場合や、電話やメールでのアドバイスを行っているとの回答もあるほか、盆栽教室を開いている園もあり、教室の中で参加者にアドバイスをしている例も見られる。

盆栽園が行っている情報発信に関しては、アンケート回答のあった約 9 割が SNS やウェブサイトによる情報発信や、新聞や盆栽専門誌への広告を行うことで園に関する情報発信を行っている。手段としては SNS、特に Instagram を利用して発信を行っている園が多いが、複数のメディアを併用して情報発信を行っている園もある。

盆栽に係る団体との連携については、回答のあった 48 園のうち、44 園（91.7%）が盆栽の協同組合をはじめとする団体との連携を行っており、団体が主催する展示会への出品や運営への参画や協力など様々な形で連携が図られている。また、美術館や自治体の農業関係の部局との連携を行っている場合や、海外との盆栽愛好者や大学等への指導やアドバイスを行っている例も確認できる。

自治体・地域などとの連携については、回答のあった 39 園のうち、18 園（46.2%）が自治体や地元の商工会等との連携を行っている。連携の例としては、地方公共団体や協同組合や愛好者会が実施する盆栽の展示会への協力や支援、その他催事への協力が実施されている。

以上のような形で、盆栽園として様々な活動が実施されている現状がアンケート結果から確認できる。これら盆栽園が行っている活動に関して、様々な課題がアンケート回答において挙げられているが、特に、国内における愛好者の高齢化と減少、それによる盆栽園の来園者数や売上げの減少、加えて、盆栽園をはじめとする業者や職人の後継者不足及び高齢化について指摘する声が多い。

盆栽文化の継承

「盆栽を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「盆栽の手入れ（剪定）等の技術」、「盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観」、「盆栽の樹種・樹形等の知識」、「盆栽に適した苗木」、「樹の来歴や伝承が貴重な盆栽」、「鉢などの盆器や卓」、「剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類」、「盆栽の似合う和室や庭などの空間」の順で回答の割合が高い。各要素について、大切であると考える理由はおおよそ以下のとおりであった。

・盆栽の手入れ（剪定）等の技術については、盆栽の樹形を維持しながら培養・管理していく技術は、地植えで植物を育てるための技術とは異なる部分があり、盆栽を育てる上でそれらの技術は、基本であると同時に重要な要素である。

・盆栽の造形に応じた鉢（盆器）との取り合わせ等の美的感覚や自然観については、盆栽は樹と樹形、そして盆器との取り合わせの調和が大事であり、人が盆栽を見て美しいと感じる部分がその取り合わせとして表現されているため、取り合わせるための美的感覚や自然観が重要な要素である。

・盆栽の樹種・樹形等の知識については、盆栽を培養・管理していく上で、樹種によって異なる特性や成長期や休眠期をよく踏まえた上で手入れや管理を行っていく必要があるため重要な要素である。

・盆栽に適した苗木については、特に盆栽を始めようとする人にとっては、素材となる苗木は、盆栽を楽しんでいくきっかけを作る上で重要であるとともに、盆栽自体の供給面においても重要な要素である。

・樹の来歴や伝承が貴重な盆栽については、長い年月と多くの人の手による培養と管理を経てきた盆栽は、その来歴も含める形で大事な盆栽であり、名品と呼ばれる盆栽はしっかりと培養・管理を行っていく必要がある。

・鉢などの盆器や卓については、盆栽を考える上で、樹を植える盆器、そして盆栽自体を飾る卓・飾り台は、重要な要素である。

・剪定や育成を行うために必要な鋏や針金、じょうろといった道具類については、盆栽を培養・管理していく上で、様々な用土や盆栽を仕立てるための多様な道具類の存在は非常に大事である。

・盆栽の似合う和室や庭などの空間については、盆栽自体が飾る場所・空間によってその美しさがより高まるものであり、盆栽と調和する空間は重要な要素である。

上記の要素を次世代に守り伝えていく必要がある中、盆栽に関する技術や知識の継承や、愛好者への技術・知識の伝達について課題意識を持っている盆栽園が多い。技術や知識の継承については、盆栽園などを営む者の高齢化に加えて後継者がおらず、若い世代が盆栽に係る仕事に就くことも少ないため、適切に技術や知識を後世に伝えていけるのかという点に危機感を抱いている盆栽園もある。

また、盆栽に関する技術や知識は、現在、雑誌やインターネット等から情報収集ができ、盆栽の愛好者が学びやすい状況にある一方で、実際に現物に触れながら学ぶことの重要性を指摘する園もあり、愛好者に向けた教室や講習会を開いた方がよいとの指摘も見られる。

新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症については、回答あった 47 園の内、「３．ある程度影響があった」が 21 園（44.7%）と最も多く、次いで「２．大きな影響はあったが団体の存続にまでの影響ではなかった」13 園（27.7%）と続く。

具体的な影響としては、盆栽の展示会や即売会・交換会、盆栽教室の中止や来園者の減少等の回答が多く寄せられており、展示会における即売会・交換会の中止や来園者の減少により減収となったとの回答も見られる。

対応としては、感染症対策を行いながらの対面販売の継続や、インターネットを経由した盆栽等の販売、SNS を利用した新規顧客の獲得等、個々の盆栽園において独自の工夫と努力によって状況に対応していたことが分かる。

結　本調査研究事業のまとめ

１．盆栽で継承されてきたこと

盆栽は、盆器等に樹木を植え付け、その樹木を育てながら姿形に手を加えていき、年数をかけて仕立てていくことで、盆器の中に自然の要素を抽出して再構成したり、自然の景色を縮小・再現したものを生み出したりしていく、日本の伝統的な生活文化である。

日本では、樹木の姿形を鑑賞の対象として捉えて愛でることが古くから行われてきた。鎌倉時代から室町時代には「鉢木（はちのき）」や「盆山（ぼんさん）」と呼ばれる盆栽の前身となるものの鑑賞も行われており、盆山については足利将軍家にも愛好されていたことが史料からうかがい知ることができる。江戸時代になると、ツバキやツヅジ等の植物を培養する園芸趣味が広がりを見せ、マツやウメ等の鉢木も愛好されてきた。また、鉢木の中でも、幹や枝を屈曲させる技術を用いて造形的な姿を形作ったものも愛好されていたほか、中国趣味に連なる文人画や煎茶を愛好する中で、中国製の陶磁器等の鉢に植樹した鉢植えの鑑賞も行われるなど、様々な形で鉢植えの植物を楽しむ文化が展開していった。

明治時代以降には、技巧的・造形的な樹形から自然な造形への嗜好が高まり、特に、山採りの良い樹木を育てるようになるとマツ類等の常緑樹が好まれるようになった。この頃には、植木屋の中から盆栽を扱う「盆栽園」も登場するようになるほか、盆栽の培養方法等に関する専門書等が登場するとともに、盆栽を愛好する者による同好会も組織され、機関誌の発刊や陳列会の開催も行われた。加えて、盆栽の培養や育成、仕立て方のみならず、盆栽の飾り方等の芸術的な面についても追求され、座敷飾りの構成も追求されていった。このような展開の中、昭和９年（1934）に「国風盆栽展」がはじめて開催され、当初は政財界人を中心とした盆栽愛好者によって運営されていたが、後に一般の会員の公募展として開催されるようになりその性格が変化していった。なお、同時代には、政財界人以外にも実業界や会社経営者等も盆栽に親しむようになっていくなど盆栽を趣味とする層が広まっていき、戦後以降は一般の人の趣味としても広まっていった。

盆栽の横断的団体や盆栽園を対象としたアンケート調査の回答結果からもうかがうことができるように、盆栽の横断的団体や盆栽園によって、先人が培ってきた、盆栽の樹種毎に異なる培養や管理、整姿、仕立てなどの知識や技術をはじめとして、樹と盆器の取り合わせ方等の美的な感覚や自然観といった考え方を受け継ぎながら、貴重な来歴を有する盆栽そのものも今日まで培養・管理を重ねていくことで保護を行ってきた。特に、盆栽自体が、樹及び樹形と盆器の調和によって生み出されるその姿形が鑑賞の対象として捉えられていることから、その調和を生み出す美的な感覚を大事しながら、適切に培養・管理をしながら姿形を整えていく技術が継承されてきたものと考えられる。

２．盆栽用具等の継承について

盆栽の場合、盆栽そのものを作り上げるための苗木や用土、盆器から、盆栽の剪定等に用いられる鋏やじょうろ等の手入れの道具、盆栽を飾るための卓等が道具・用具として用いられてきた。

盆栽の仕立てや手入れに用いられる鋏やじょうろ等の道具類の現況を見ると、鋏だけではなくコ

ブ切りや根切りに用いられる道具から、整枝に用いられる銅製やアルミ製の針金、水遣りのためのじょうろ等、用途に応じて多様な道具類が製造・流通している。これらの道具類については盆栽や農機具に関して明るいメーカーによる製造品や、問屋等によって発注・製造されているものが供給されているほか、鋏等については盆栽園が職人に注文して好みの道具を製作している場合もある。

盆器については、樹との取り合わせの調和の観点から中古品・骨董品なども数多く流通している。一方、愛好者が普段から使うことができるような価格帯のものから、展示会で飾るために用いられるような盆器が現在でも生産されており、特に常滑市や瀬戸市において盆器の生産が行われている。しかし、常滑市での盆器製造はバブル経済崩壊以降における盆栽需要の減少を受けて減少傾向にある。盆栽に関連する用具や原材料については、海外における盆栽人気の高まりの一方、国内における愛好者数の減少の影響を受ける形で、市場規模が縮小傾向にある。このため、用具や原材料の製造や生産に係る業の高齢化と人手不足、後継者不足が起きている状況であり、次の世代への用具・原材料の生産に関する技術等の継承に陰りが見えている。

３．アンケート結果から見た今後の団体・教室活動の方向性と課題

盆栽に関する国民意識調査の結果からは、盆栽を育てたりしたことがある経験がある者については、回答者の親族等が盆栽を育てていたり、回答者自身が趣味や教養として盆栽に関心があったことをきっかけとして盆栽を育てはじめた者が多い傾向にある。また、盆栽に関する体験をしたことがある者については、親族等が育てていた場合や、学校や職場、公園や庭園等の場所で盆栽を鑑賞する機会を得たという者が多いことから、盆栽を育てた経験がある者、盆栽に関する体験をした者いずれも、盆栽を見る・知るきっかけが身近にあったことが分かる。

一方で、盆栽に関する体験をしたことがない者については、そもそも盆栽に関する興味関心が薄いか趣味に合わないとの回答比率が高いことから、盆栽自体を知ってはいても関心が持てなかった者が多くいることが分かる。なお、盆栽に関する体験をした者でも、興味が湧かなかったり自分の趣味と合わなかったりといった理由から、盆栽を自ら育てるまでに至らなかった者が一定数いることが確認できるが、盆栽に興味関心があっても育て方を相談できる場所や人がいない等の事情で、盆栽を自ら育てるまでに至らなかった者が多い傾向にある。このことから、盆栽を始めようとする人に対して、育て方等のアドバイスができる人や教えてもらえる場所を適切に伝えるような取組を行うことで、盆栽を始める後押しをできる可能性があることがアンケート結果からうかがえる。

盆栽の横断的団体や盆栽園等では、盆栽の体験教室などの取組を通じ、盆栽に関心を持ってもらうための機会の提供が行われているが、団体や盆栽園におけるアンケート調査で明らかになっているように、国民意識調査の結果を踏まえれば、盆栽の体験をした者に盆栽を始めてもらうためには、初心者へのアドバイスやフォローができるような仕組みや仕組みそのものを周知するような工夫が必要と考えられる。

横断的団体及び盆栽園を対象としたアンケートの調査結果からは、盆栽の横断的団体については、各団体共に盆栽の展示会の開催を中心に、会員向けの講習会や研修会の開催による盆栽の培養・管理に関する知識・技術の普及を行うほか、一般向けの講演会や学校への講師派遣、広報活動による

盆栽に関する周知等の取組を実施している。また、盆栽園については、盆栽自体の販売のみならず盆栽の展示会への出品に関するサポートや、研修生や後継者の育成、愛好者に対するアドバイスや盆栽の体験教室等も実施している。横断的団体、盆栽園それぞれにおいて、盆栽という文化の普及そして次の世代へと継承をしていくための様々な取組に注力していることがアンケート結果から確認できる。

そのような活動を行っている中でも、横断的団体や盆栽園のアンケート回答の内容からは、盆栽の愛好者の減少と、国内需要の減少による盆栽園や用具・原材料等の製造に係る者の後継者不足を、大きな課題として捉えていることが分かる。横断的団体のアンケート回答では、盆栽の展示会への出品数や来場者数の減少、このほか、団体会員の高齢化や組合員や会員数の減少等も指摘されおり、以上の点から盆栽を愛好する者が減少していると考えられていることが分かる。また、盆栽園のアンケート回答では国内における盆栽需要の低下について指摘されている点も、愛好者の減少の一端を示すものと考えられる。国内における愛好者の減少の一方で、海外における講演会の実施や指導に注力する団体もあるほか、海外から依頼を受けて盆栽の展示会等での審査員や指導や愛好者へのアドバイス等を引き受けている盆栽園の園主もいることから、海外において盆栽の人気が高まっていることが分かる。しかしながら、必ずしも海外における盆栽人気が続く訳ではないという指摘や、国内における盆栽需要の低下によって、盆栽業に係る従事者の後継者不足が起きていることに対して危機感を抱いている盆栽園も少なくないことがアンケート回答からうかがえる。

上記のような課題の解決に向けて、横断的団体や盆栽園は、盆栽という文化自体を広く世間一般に周知するために SNS による広報活動をはじめとして様々な取組を行ったり、盆栽園では独自に盆栽教室を開き、盆栽に関心のある者が盆栽に親しみやすくなるような機会の醸成に取り組んだりしている状況にある。国民意識調査の結果内容においても触れたように、盆栽を始めるきっかけとしては、まず、盆栽を鑑賞したり触れることができる環境があること、そして、盆栽の育て方などについてアドバイスなどをしてくれる人であったり場所があることが、盆栽を育て始めるきっかけとなり得る。既に、横断的団体や盆栽園においても、これらの取組は行われていることから、それらの機会をもって、いかに盆栽という文化に関心を持ってもらい、親しみやすい文化であるか、という点を工夫しながら伝えていく必要があると考えられる。

４．盆栽を次世代に継承するために

盆栽は、盆栽園を営む園主と盆栽の愛好者、そして盆栽園や愛好者によって組織された横断的団体によって、盆栽に係る様々な有形・無形の文化的所産を継承してきた。

とりわけ、盆栽園を営む園主（盆栽作家）は、先人が培ってきた盆栽の培養・管理をはじめ剪定に係る様々な知識と技術、樹及び樹形と盆器の取り合わせ等の美的な感覚を今日まで継承してきた。加えて、盆栽園は盆栽を愛好する者に対して盆栽を販売・提供するだけではなく、盆栽を育て・愉しむための知識や技術、体験する場の提供や、展示会への出品をサポートするなど、様々な機会を提供している。

盆栽園の園主や愛好者によって組織された横断的団体は、盆栽の展示会を主催することで盆栽を鑑賞する場の創出を行うともに、盆栽の知識や技術に関する講習会や研修会も主催することで、盆栽園の園主や愛好者へそれらの知識・技術の共有も行っている。また、一般向けにも講演会などを開いているほか、SNS 等を用いた広報活動や専門誌などの頒布などを通じて、広く世間一般に向けて盆栽文化の普及活動を行っている。海外においては盆栽を通じた国際交流も実施されており、盆栽園が独自に行っている場合や、横断的団体による盆栽の発信等が継続的に実施されており、盆栽の普及等に尽力した者の顕彰も行われている。

以上のように盆栽は、盆栽園の園主や愛好者、盆栽に係る横断的団体によって文化の継承と振興・普及に関する活動が行われてきた。しかしながら、今回実施した横断的団体や盆栽園を対象としたアンケートの結果から、国外での盆栽人気が高まっている一方で、盆栽を愛好する者の減少や高齢化が進んでおり、国内需要の低下や盆栽業に係る従事者の後継者不足等の課題を抱えていることが分かった。

前述の通り、盆栽園をはじめ横断的団体等により、盆栽に興味関心を持ってもらうための様々な取組が進められており、興味関心を持ってもらい実際に盆栽を愛好してもらうためには更なる工夫が必要と考えられる。このような盆栽への興味関心を高め、体験機会を創出する取組については、盆栽園や横断的団体の取組はもちろんのこと、それらの取組への支援のあり方について検討していく必要がある。

また、盆栽園や各横断的団体の自主的な活動を妨げないように配慮をしながら、盆栽の無形文化財としての登録や保護に関する可能性についても検討していく必要があると言える。盆栽という文化を考える上で、盆栽そのものの培養や管理に関する知識や技術、樹と盆器の取り合わせ方等の美的な感覚は、盆栽そのものを継承していく上で欠くことができない要素であると考えられる。知識や技術の継承については、各盆栽園において後継者の育成に取り組まれているほか、横断的団体における講習会や研修会の中で知識や技術の共有が図られている状況にあるが、後継者不足等によって、技術や知識の継承が不十分であるという指摘もアンケート回答から見られる。そのような状況を、さらに詳細に把握をしていきながら、どのような支援が適切かについて検討を行う必要がある。

盆栽は、盆器に植え付けた樹木を培養・育成していく中で樹形に手を加えていき、時間を掛けながら自然の景色を縮小・再現し、その姿形を鑑賞する日本の伝統的な生活文化である。盆栽に関する文化を次世代に継承していくには、盆栽に関する世間一般の認識を高めるために周知を広く行うなどの取組や、盆栽に関心のある者が継続的に盆栽に親しむことができるような仕組みを作り上げていくことが必要であり、横断的団体や各盆栽園が自主的に取り組んでいる盆栽の普及活動を尊重しながら、国や地方公共団体においても当該分野に関する活動への適時適切な支援の在り方の検討を行っていくことが重要である。

参考資料　有識者(盆栽)及び有識者会議検討経過

１．有識者

本調査研究事業は、盆栽に関する豊富な識見を有する者を有識者(盆栽)として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。(令和３・４年は「文化創造アナリスト（盆栽)」として委嘱)

【名簿】　※50 音順、敬称略、令和６年１月 31 日現在

川﨑　仁美　　盆栽研究家　「現代盆栽」主宰

依田　徹　　公益財団法人遠山記念館　学芸課長

２．有識者会議経過

令和３年度

第１回

●開催日・開催方法

令和３年 12 月６日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業(盆栽)」の概要について

・現時点における各項目の調査内容について

・今後の予定について

第２回

●開催日・開催方法

令和４年１月 26 日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業(盆栽)」報告書(素案)の検討について

・今後の予定について

第３回

●開催日・開催方法

令和４年３月２日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業(盆栽)」報告書（案）の検討について

令和４年度

第１回

●開催日・開催方法

令和４年８月９日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業（盆栽）」の概要について

・ウェブ調査の設問案について

・今後の予定について

第２回

●開催日・開催方法

令和４年 11 月 29 日　リモート会議

●主な内容

・ウェブ調査結果について

・報告書修正案について

・今後の予定について

第３回

●開催日・開催方法

令和５年１月 25 日　リモート会議

●主な内容

・令和４年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

令和５年度

第１回

●開催日・開催方法

令和５年 10 月３日　リモート会議

●主な内容

・団体及び教室アンケート案について

・アンケート送付方法及び送付先について

・用具及び原材料についての調査状況について

・今後のスケジュールについて

第２回

●開催日・開催方法

令和６年１月 16 日　リモート会議

●主な内容

・アンケート調査実施状況について

・用具及び原材料調査　原稿案について

・報告書構成案について

・今後のスケジュールについて

第３回

●開催日・開催方法

令和６年２月２日　リモート会議

●主な内容

・「令和６年度生活文化調査研究事業（盆栽）」報告書（案）検討について

３．受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

・盆栽の原材料・用具に関する文献等の調査、ヒアリング等

・盆栽団体及び盆栽園アンケートの作成、発送、集計、分析

・有識者会議等の調整、運営などの業務

参考資料　盆栽の用具と原材料について

（１）概要

盆栽で用いられる主な用具・原材料は以下のとおりである。

名称	概要
盆栽苗	盆栽の主体となる植物は、苗木の生産業者、苗木を盆栽として仕立てる盆栽園によって生産される。かつては“山採り”の専門業者もいたが、現在は地権者の問題、希少植物の天然記念物指定等により非常に難しくなっており、ほぼなくなっている。
盆器	植物を植える盆器は盆栽に欠かせない道具であり、植物と器のバランスは鑑賞上の重要なポイントともなる。歴史的に「鉢」と呼ばれてきたが、昭和 50 年代から「盆器」という呼び方が広がり、定着した。 古くは中国から輸入された青磁や、瓦器と呼ばれる素焼きの鉢等が用いられた。江戸時代には輸入品と並行し、伊万里、尾張（瀬戸）等で作られた国産の染付鉢もよく用いられた。明治時代に入ると、「朱泥」「紫泥」など褐色の「泥物」が人気を集め、国内では常滑（とこなめ）が泥物の鉢の主要な供給地となった。また、名工として知られるようになる作家も登場する[1]。現代も盆器専門の作家がおり、また、盆栽を趣味とはせずに盆器のみ収集するコレクターもいる。盆器の専門業者は減少している。
卓（じょく）	盆栽を飾る飾り台で、高さや用途により「平卓」「中卓」「高卓」「小品卓」「地板」に分類される。懸崖の形状の盆栽を陳列するのに適した、脚の長いタイプもある。需要の減少とともに卓を作る指物師も減り、現在、国内には卓を作る指物師は残っていない。
鋏	盆栽の剪定に用いられる鋏には、剪定用の剪定鋏、幹や太い枝等を切り落とす又枝切りや、コブをえぐり切るコブ切り、針金用の針金切等、目的や用途に応じて多種多様な種類がある。昭和前期に盆栽専用の鋏を作る業者が登場し、一つの市場を作っている[2]。
じょうろ	一般の園芸用じょうろと比べてハスロの目が細かく、水が霧状に出る盆栽専用のじょうろがある。材質にはプラスチック製やステンレス製、真鍮製、銅製等がある。銅製じょうろは手作りで生産され、高価であるが、好まれている。なお、現在、盆栽用の銅製じょうろを生産しているのは国内で１社のみである。
その他手入れ道具	鋏、じょうろ以外の手入れ道具としては、針金かけに用いる針金や針金の巻取機、雑草を抜いたり不要な葉を取り除いたりするためのピンセット、枝を大きく曲げるための各種器具類、手入れ用の回転する台、肥料容器など各種の手入れ道具がある。
用土・肥料	主として赤玉土といわれる関東ローム層の土が用いられる。褐色で粒状の火山灰土で、保水性、排水性、保肥性に優れる。サツキ盆栽には栃木県鹿沼市付近で産出する鹿沼土がよく用いられる。これも火山灰土で、赤玉土より酸度が高い pH4.0～5.0 程度の酸性の土である。なお、近年は、質のよい土は海外へも輸出され国内では品薄の傾向にある。

1 京都の陶工「平安東福寺」こと水野喜三郎（1890～1970）の盆器は、作家の死後に評価が高まり、現在では大きいものだと 100 万円の価格がつくこともあるという。（依田徹『盆栽の誕生』大修館書店、平成 26 年）
2 日本盆栽協会編『盆栽大事典　第３巻』同朋舎出版、昭和 58 年

江戸時代以降、盆栽の鑑賞に当たっては、他の用具とともに室内に盆栽を設えることが行われており、現在でもその伝統は続いている。こうした鑑賞のための用具としては、上述した盆器や卓のほかに、水石、掛け軸、添景と呼ばれる工芸品類がある。

水石や掛け軸、添景に使われる工芸品類については、盆栽文化と重なるものではあるが、それぞれ独立した文化・伝統を有しており、製造や流通についても異なった部分が多いことから、本調査では水石、掛け軸、添景については取り扱わないものとする。

■流通構造

盆栽の生産者組合へのヒアリングによると、盆栽は、原材料となる盆栽苗を生産している農家、盆栽苗を仕入れて盆栽に育成する盆栽園、盆栽園から盆栽を購入する愛好者が主な担い手となっている。他の花卉のように農家から花卉市場に卸され、園芸店やガーデニングショップ等が仕入れを行う流通形態に対し、花卉市場を経由しない点が流通の特徴である。なお、平成27年に農林水産省が盆栽園に対して行ったアンケート調査によれば、苗木の出荷数量、出荷額は、盆栽苗生産者から盆栽生産者への出荷量が約２万 5,000 本で約 3,000 万円、盆栽の出荷数量、出荷額は盆栽生産者からの国内出荷量が約11万1,000鉢で約８億円、輸出量は約４万4,000鉢で約４億円となっている[3]。

全国各地で、盆栽園同士、愛好者同士、あるいは盆栽園・愛好者による交換会（盆栽及び盆栽用具などの競りの会）が開催されている。ちなみに、愛好者が盆栽を手放す場合、その盆栽は付き合いのある盆栽園に引き取られることが多い。このように、生産者から消費者への流通だけではなく、生産者間、消費者間で売買が行われ、商品が巡るのが盆栽ならではの流通構造となっている。

盆栽の用具・原材料においても、こうした盆栽独特の構造を前提とし、盆栽園経由の流通や交換会を通じた流通が大きな柱となっている。苗木は、生産者から盆栽園に卸され、盆栽として仕立てられていく。一部は、ポットに入れた苗として、愛好者にそのまま販売されるものもある。用土・肥料・手入れ道具については、通常の園芸用品として販売されるものと、盆栽用に特別に誂えられた商品に分けられる。このうち通常の園芸用品については、園芸用品のメーカー等が製造し、園芸系の卸を通じて園芸店やガーデニングショップ、ホームセンター、インターネット通販業者などで販売されている。一方、盆栽用の製品については、盆栽に強みを持つ製造問屋・産地問屋がメーカーから仕入れた、あるいは特別に発注した製品を、盆栽に特化した資材商店（盆栽園が兼務していることもある）を経由して、盆栽園や愛好者に販売している。また、大規模な盆栽の品評会で、盆栽の用具・消耗品の専門業者が出店しているケースも多い。近年では、インターネット通信販売業者でも取り扱うところが増えている。

一方、盆器や卓などの商品、特に盆器や盆器にも利用可能な鉢などについては、新たに作られたものとともに、時代を経た盆栽との取り合わせによる需要があるため、中古品・骨董品も多数流通している。新たに製作された製品は、各地の工房から専門の小売店が仕入れ、販売しているが、同時に数多くの中古品や古美術品が盆栽園で販売されていたり、全国各地の交換会で競りの対象となっていたりする。

3 農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成 27 年）」(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf) 最終確認日：令和６年２月 15 日

■苗木

盆栽の苗木については、かつては山採りも多く行われていたが、現在では農家が生産している。農林水産省の「盆栽の出荷(輸出)数量・出荷(輸出)額の推計について(平成27年)」によれば、平成27年（2015）段階で、盆栽の苗木の国内出荷量は２万5,000本、出荷額は0.3億円となっている。このうち出荷量で82%、出荷額で60%を香川県が占める。出荷量、出荷額ともに２位は埼玉県である。樹種で見ると、最も出荷量が多いのはモミジ・カエデ、ツツジ・サツキを除く雑木類（37%）であるが、出荷額ではクロマツが32%と最も多い[4]。

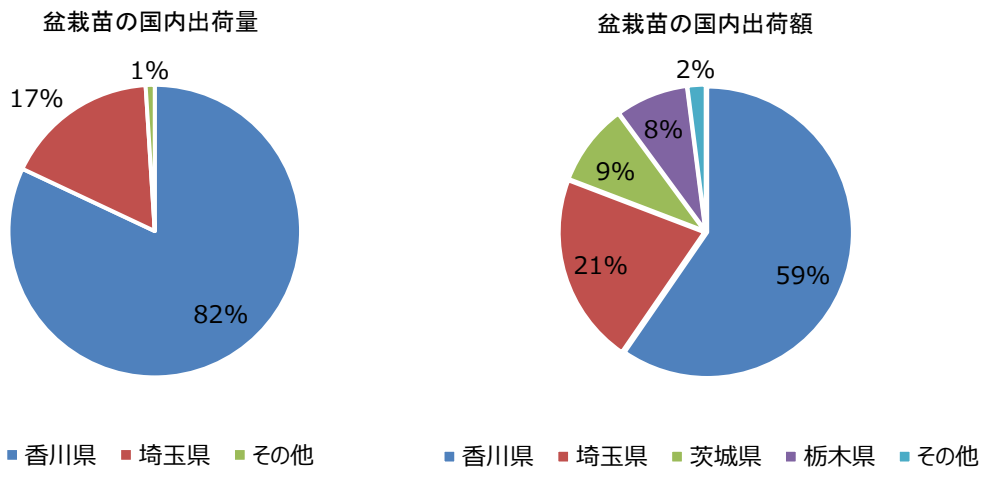


図１　苗木の生産地（平成27年）

出典：農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成27年）」(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf）を参照し受託事業者が作成した。

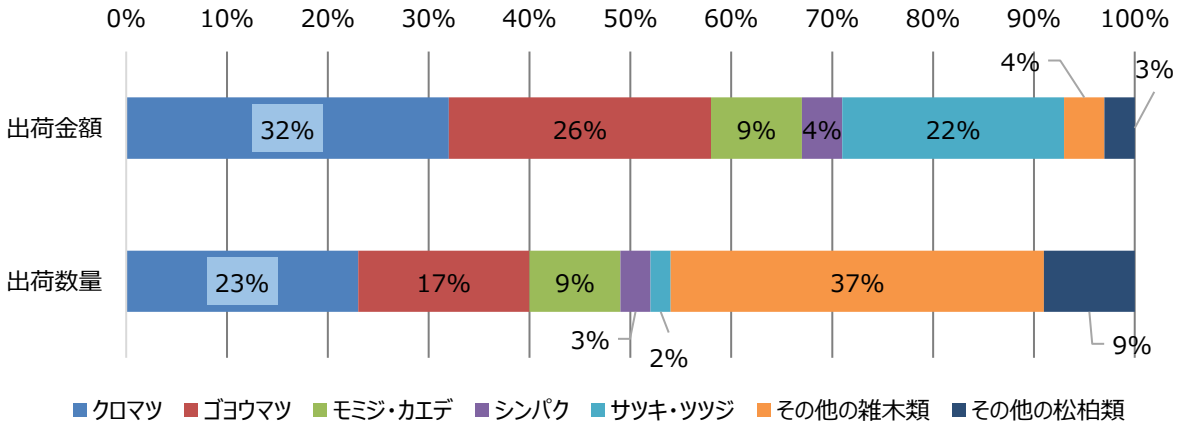


図２　苗木の樹種（平成27年）

出典：農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成27年）」(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf）を参照し受託事業者が作成した。

4 農林水産省「盆栽の出荷（輸出）数量・出荷（輸出）額の推計について（平成27年）」(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/attach/pdf/index-3.pdf）最終確認日：令和６年２月15日

盆栽の苗木についての時系列推移を示す全国規模の統計調査はないが、最大シェアを持つ香川県では盆栽苗の栽培面積を公開している。これを見ると、平成 12 年（2000）の 12ha から平成 17 年（2005）に一時９ha に減少、その後平成 22 年（2010）から令和３年（2021）まで再び 12ha となっており、近年は栽培面積が安定している[5]。

■用土

用土を扱う業者へのヒアリングによると、盆栽の用土でよく使われるのは、関東ローム層の赤土から作られる赤玉土である。長期間粒子が崩れないこと、排水性が良い点が盆栽に適しているとされる。主要な産地は栃木県や茨城県である。

赤玉土は、関東の休耕田などから土を採掘し、ゴミなどの異物を排除してから、ハウスで天日干しして乾燥させ、その後粉砕して粒子の大きさによって大中小の３種に分けて袋詰めして製品としている。現在までのところ、採掘地が不足するような状況とはなっていない。

■肥料

盆栽の肥料は、油かすが主体で、骨粉、魚粉などを混ぜて使用することが多い。牡蠣殻など他の材料を入れることもあり、微生物を使った肥料も利用されている。これも一般の園芸用、農業用肥料と同じであり、特に盆栽専用というわけではない。ただし、化学肥料の使用は基本的に行われていない。

肥料については、内容物は一般の園芸用と変わらなくとも、盆栽用と銘打ったパッケージにした商品も多く販売されている。また、盆栽園で独自に材料の調合を研究し、オリジナルの肥料を作製、愛好者に向けて販売していることもある。肥料の原材料や肥料は肥料メーカー各社が製造・供給している。

■手入れ道具

盆栽の手入れ道具は、多種多様なものが提供されている。鋏やピンセットなどの剪定道具と枝切り・コブ切り・根切り・根かき・鋸・小刀・神作刀などの大枝処理や植替えを行う挿し木・接ぎ木・取り木用道具。盆栽ジャッキや枝曲器・幹割などの改作用道具、針金切・やっとこ・ベンリール（針金を巻いておく器具）などの針金かけ道具。アルミや銅の針金、彫刻刀や電動彫刻機、作業台、じょうろや噴霧器などの水やり用道具などである。また、道具類のほかにも、肥料をやるための小さなドーム形の容器、剪定後の処理のための癒合剤、松ヤニを取るクリーナー、鉢に挿すラベル類など、消耗品が各種提供されている。

こうした道具類、消耗品類の一部については、一般のガーデニングショップやホームセンターでも購入することが可能である。しかし、盆栽専用の製品は、盆栽用に使いやすいように細かな工夫がなされており、刃物類であれば、一般の園芸用の鋏などに比べ切れ味が鋭く、盆栽の手入れ作業のそれぞれに特化した形状となっている。針金についても、通常のホームセンターでも手に入るア

5 香川県農政水産部「統計で見る香川の農業・水産業　令和５年度版」（URL:https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/12176/toukei2023.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日

ルミ製のものより、盆栽専門の焼きなましをした銅線の方が、しっかりと締めることができる。じょうろでは、盆栽園の雰囲気にあった銅製のものが盆栽専門のものとして供給されている。そのため、盆栽園で働くプロの職人や、熱心な愛好者では、盆栽専門の手入れ道具や消耗品を利用することが多い。日々使うものであるため、手入れ道具の多くは何年かごとに買い換えが必要となる。特に刃物類は、研ぎをかけるごとに減っていくので、盆栽園の職人であれば２～３年で新しいものを購入する。

こうした手入れ道具及び化学製品を除く消耗品類については、盆栽や農具に強い専門のメーカーが自社生産したり、盆栽に強い専門の産地問屋が産地の金属工場やプラスチック工場に発注したりして製造・供給している。主要な産地としては、刃物などの生産が盛んな新潟県、兵庫県、岐阜県、埼玉県などがある。製造業者は盆栽園の職人などからのサイズ・形状・材質などについての要望を聞き入れて随時開発しており、それぞれの盆栽職人によって道具についての好み、ニーズが異なるため、結果として品揃えが極めて多くなっている。また、例えば刃物では、形状や大きさのバリエーションが非常に多いだけでなく、プレス成型ではできない切れ味が必要となるため、工場内に職人としての手業を持つ人がいるようなところでしか作ることができない。また、ピンセットは医療用に作られたものを金属加工の職人が盆栽用に一つひとつ調整し製作している。このように、盆栽の手入れ道具類は、工業製品ではあるものの、製造において手工業的な性格を併せ持つものとなっている。

■盆器

盆栽を植える鉢である盆器は、一般の愛好者が使う安いものから、大規模な展示会に出品される名器まで、多様なバリエーションがある。一般の愛好者向けの安価なものについては、盆栽用に特別に作られたものというより、盆栽にも利用可能な形状・大きさの植木鉢であり、大量生産品もある。また、小規模な鉢については、小型の窯で作陶できるため、セミプロやアマチュアの作陶家が手頃な価格の製品を多数生産している。日本小品盆栽協同組合では現代小鉢作家展を開催し作家の育成を図っている。現在、盆器の多くが愛知県・常滑市、瀬戸市で作られている。

盆器の形状は、丸鉢、長方鉢、楕円鉢、六角鉢など様々である。樹木を小さく成長させる盆栽の特性に応じ、浅鉢である場合が多い。盆栽の源流である江戸の園芸趣味では、染付の国産の鉢が珍重された。また、江戸後期に関西で中国趣味の文人木が流行すると、中国産の釉薬がかかった鉢が重視された。それが明治になると、泥物（でいもの）と呼ばれる素焼きの鉢が増え、現在に至っている。この時代の泥物としては、中国・宜興（ぎこう）からの輸入品が有名である。国内でも、明治時代の東京・小石川の竹本隼太、昭和に入り京都で活躍した平安東福寺こと水野喜三郎、平安香山こと小池一雄、月之輪涌泉こと加藤護一などの名工が生まれた。なお、盆栽用の鉢を盆器と呼び習わすようになったのは昭和以降である[6]。

現代の盆器の主要産地である愛知県常滑市は、古代・中世から続く古窯で、江戸時代からは朱泥茶器の製造が始められていた。盆栽鉢は三代赤井陶然が創始と言われており、蘭鉢が現存している。

6 佐田徹『盆栽の誕生』大修館書店　平成 26 年　p. 130-P141 を参照した。

明治10年（1877）の第1回内国勧業博覧会で花盆が出品されて以来生産が盛んになり、大正末期から昭和初期にかけては泥物の格調高い風雅な盆栽鉢を製作し、「大正常（たいしょうとこ）」と呼ばれ珍重された。昭和 35 年（1960)、鋳込成型での大量生産が始まり、長方雲足の盆栽鉢がベストセラーとなった。さらに昭和 40 年代には、皐月ブームにのって皐月の養成鉢を中心に大きく業績を伸ばした[7]。その後の皐月ブームの終焉、バブル経済崩壊に伴う盆栽の国内市場の冷え込みにより、常滑での盆器の生産は減少傾向にあり、現在は15軒ほどの家族経営の小規模工房により手作りで製作されている。近年は海外で中野行山をはじめとする「TOKONAME」の盆栽鉢は注目されている[8]。

現在、常滑市では、泥物と釉薬もの双方を製作しているが、紅葉などの雑木の盆栽や小品盆栽が増えているため、中心は小型の釉薬ものである。盆器の製作は、多品種小ロットで、同じものを大量に製造することはない。オーダー品もあるが、大きな器については、歪みや傷ができやすく、原材料代もかかるため製作のリスクが高く、作られる機会は少なくなっている。原材料の土は、泥物では中国産の土、釉薬ものでは瀬戸で製造したものをとこなめ焼協同組合が購入し、ブレンドして使用している。屋外で使用することが多い盆器は、温度変化による膨脹収縮に耐えなければならず、それだけの強度を確保するため、高温で焼き締めている。一部の外国産の盆器などは、焼き締めが甘いため、使用中に割れてしまうことがある。

先に述べたように、盆器では、新美術品（現代の作家物）だけでなく、古美術品や中古品が多く流通している。流通段階での在庫も多くあり、例えば20年ほど前まで中国の窯に委託して製造していた中国産の盆器など、在庫がかなり残っている。加えて、高齢化した愛好者が盆栽をやめる度に、コレクションしていた盆器の多くが盆栽園に引き取られ、再び市場に放出されることが繰り返されている。このため、新規の生産が減少しても、それがそのまま盆器不足に直結するわけではない。また、大規模な展示会などで使用される名器については、展示期間中のみ植え替えて利用するものなので、滅多に破損することはなく、何十年、何百年と使用可能である。盆栽園では、こうした名器を多数所有し、展示会向けのリースも行っている。

（２）国内市場の伸び悩み

盆栽市場は、輸出が拡大しており、全体としては近年拡大の傾向が見られる。一方、国内市場に限定すると、バブル時期をピークに愛好者の高齢化とゆるやかな減少が続いている。この結果、盆栽の用具・原材料の国内市場も縮小が続いている。

一方、若年層が、商品盆栽やミニ盆栽などを購入し、インテリアとして楽しむという動きが出てきているほか、デザイン性の高いウェブサイトや異業種とのコラボ・イベントなどを通じて盆栽を現代的にPRする盆栽園が登場しており、従来とは違う形、異なる側面から盆栽への関心が持たれている。

7 とこなめ焼協同組合『常滑の陶業百年』平成12年 p.107-P108、p.141-142を参照した。
8 磯村商店へのヒアリングによる。

（３）用具・原材料製造の人手不足、後継者不足による供給不足

バブル経済崩壊以降、10 年ほど前まで市場の縮小が続いたため、用具・原材料を生産する人手の高齢化・減少・後継者不足が起こっている。このため、海外を中心に需要が再拡大してきている現在では、一部の製品で供給不足が起こりつつある。具体的には盆器製作の職人、刃物など繊細な手作業を必要とする用具製造の職人などが減少、高齢化しており、盆器や高級な手入れ道具不足の状況が出てきている。また、用土も不足が始まっている。

このうち、手入れ道具では、刃物の生産をパキスタンに委託するなど高い金属加工技術を持つ国への海外委託が進みつつあるが、盆器、用土では大きな動きは見られていない。

参考資料　国民意識調査 調査票

（１）属性

Ｆ１　あなたの性別をお答えください。（１つ）

１．男　　２．女　　３．それ以外／答えたくない

Ｆ２　あなたの年齢をお答えください。（１つ）

１．18 歳未満　２．18～19 歳　３．20 代　４．30 代　５．40 代　６．50 代　７．60 代
８．70 代以上

Ｆ３　あなたのお住まいの都道府県をお答えください。（１つ）

１．北海道	２．青森県	３．岩手県	４．宮城県	５．秋田県	６．山形県
７．福島県	８．茨城県	９．栃木県	10．群馬県	11．埼玉県	12．千葉県
13．東京都	14．神奈川県	15．新潟県	16．富山県	17．石川県	18．福井県
19．山梨県	20．長野県	21．岐阜県	22．静岡県	23．愛知県	24．三重県
25．滋賀県	26．京都府	27．大阪府	28．兵庫県	29．奈良県	30．和歌山県
31．鳥取県	32．島根県	33．岡山県	34．広島県	35．山口県	36．徳島県
37．香川県	38．愛媛県	39．高知県	40．福岡県	41．佐賀県	42．長崎県
43．熊本県	44．大分県	45．宮崎県	46．鹿児島県	47．沖縄県	

Ｆ４　あなたの仕事をお答えください。（１つ）

１．正規の職員・従業員(役員を含む)
２．非正規の職員・従業員(期間従業員、契約社員、派遣社員を含む)
３．自営業主・自由業(自分で、または共同で事業を営んでいる)
４．家族従業者(家族が営んでいる事業を手伝っている)
５．主婦・主夫
６．学生
７．リタイア、無職
８．その他

Ｆ５　あなたと同居している人の状況をお答えください。（１つ）

１．ひとり暮らし(同居している家族はいない)
２．核家族(夫婦のみもしくは親と未婚の子どもの世帯)
３．三世代家族(親・子・孫の３世帯以上が同居)
４．上記以外で同居している人がいる

Ｆ６　昨年度の世帯全体の年収(税込み)は、おおよそどのくらいですか。(１つ)

１．100 万円未満
２．100 万円以上～200 万円未満
３．200 万円以上～300 万円未満
４．300 万円以上～400 万円未満
５．400 万円以上～500 万円未満
６．500 万円以上～600 万円未満
７．600 万円以上～700 万円未満
８．700 万円以上～800 万円未満
９．800 万円以上～900 万円未満
10．900 万円以上～1,000 万円未満
11．1,000 万円以上
12．分からない

Ｆ７　あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(１つ)

１．小学校　２．中学校　３．高校・旧制中学校　４．短大・高専　５．大学　６．大学院
７.その他

Ｆ８　あなたは、子供の頃に習い事をされていましたか。(いくつでも)

１．楽器演奏（ピアノやバイオリンなど）や歌唱（コーラスや声楽など）
２．バレエやダンス（バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど）
３．美術（絵画や版画、彫刻、工芸など）
４．伝統芸能や茶道・華道等の芸事
５．囲碁や将棋
６．書道・習字・ペン字、そろばん
７．スポーツ・武道
８．その他（具体的に：　　）
９．していない

（２）フィルタリング・パート

ＦＱ１　煎茶道について

この調査の「煎茶道」とは、主人が客人を招き、一定の作法で淹れた煎茶や玉露等を振る舞い、書や絵画等の鑑賞を行いながら交流を図る、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに、「煎茶道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(１つ)

１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）
２．学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある
３．今まで経験したことはない

ＦＱ２　香道について

この調査の「香道」とは、沈香、白檀などの香木や、古典的な薫（たきもの）を、一定の作法に従って焚（炷）（た）き、その香りを鑑賞する（＝「聞く」）、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに「香道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）
２．学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある
３．今まで経験したことはない

ＦＱ３　和装について

この調査の「和装」とは、着物（和服、浴衣も含む）の着付けのことをいいます。なお、作務衣・甚平のような着脱が簡易なものや、柔道着・剣道着等の特定競技用のものは含まないこととします。

あなたは、日常生活や行事等（例えば結婚式、入学式、卒業式、成人式等）の折に、着物を着付けることはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．着物を自分で着付けている（いた）、あるいは人に着付けている（着付けたことがある）
２．自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている（着たことがある）
３．今まで着物を着たことはない

ＦＱ４　礼法について

この調査の「礼法」とは、作法や所作、しつらい等の一定の礼式に則ることによって相手への敬意を表す、日本の伝統的な礼儀作法のことをいいます。

あなたは、これまでに「礼法」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）
２．学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある
３．今まで経験したことはない

ＦＱ５　盆栽について

この調査の「盆栽」とは、植木鉢等の盆器（ぼんき）等に樹木を植え付け、姿形に手を加えながら年数をかけて育てていくものをいいます。なお、小品盆栽やツツジ盆栽も含みます。

あなたは、これまでに盆栽を育てたことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）
２．イベント等で盆栽体験をしたことはある
３．盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない

ＦＱ６　錦鯉について

この調査の「錦鯉」とは、色や模様のある観賞用のコイのことをいいます。

あなたは、これまでに錦鯉を飼育したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）なお、飼育には、預かり飼育を含みます。

１．錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）
２．イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある
３．今まで錦鯉の飼育をしたことはない

（３）分野設問

①煎茶道

●煎茶道を習っている（習っていた）者に対する質問（ＦＱ１で１に回答）

煎茶道１　あなたが煎茶道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
７．煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

煎茶道２　あなたが煎茶道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。　（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．稽古場や教室で習っていた
５．その他（具体的に：　　）

煎茶道２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

煎茶道３　現在、煎茶道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞

煎茶道３補問１　あなたが煎茶道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい
６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
煎茶道３補問２　あなたが煎茶道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．当初目標としていたことが達成できた
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
８．習っている内容についていけなくなった
９．指導者や教授者を引退した
10．その他（具体的に：　　）

煎茶道４　あなたが煎茶道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

煎茶道５　あなたの現在の煎茶道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場で習っている（いた）
２．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
３．学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
４．指導者や教授者として教えている（いた）
５．その他（具体的に：　　）

煎茶道６　あなたは煎茶道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度

５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

煎茶道７　あなたは煎茶道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

煎茶道８　あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
２．手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
３．煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で煎茶道を体験した人の質問（ＦＱ１で２に回答）
煎茶道９　あなたが煎茶道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから勧められた・誘われた
４．学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

６．趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
７．煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

煎茶道 10　あなたはどういう場で煎茶道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場等で開かれた体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
４．文化施設等で行われた体験イベント
５．自宅
６．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
７．その他（具体的に：　　）

煎茶道 11　あなたが今後、煎茶道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

煎茶道 12　もし煎茶道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満

９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

煎茶道 13　あなたがこれまでに、煎茶道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．興味がなかった
２．通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

煎茶道 14　あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶やお菓子を楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

煎茶道 15　あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
２．手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
３．煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流

６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●煎茶道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（ＦＱ１で３に回答）
煎茶道 16　もし、あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
２．煎茶道の歴史や意義を教えてくれる
３．煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
４．普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

煎茶道 17　あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．行きやすい場所で体験できたら
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

煎茶道 18　あなたがこれまでに、煎茶道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない

９．その他（具体的に：　　）

煎茶道 19　あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶やお菓子を楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

煎茶道 20　煎茶道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、煎茶道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
２．手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
３．煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

②香道

●香道を習っている（習っていた）者に対する質問（ＦＱ２で１に回答）
香道１　あなたが香道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

６．趣味や教養として、香道に興味関心があった
７．香道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

香道２　あなたが香道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。　（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．稽古場や教室で習っていた
５．その他（具体的に：　　）

香道２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）
１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

香道３　現在、香道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
香道３補問１　あなたが香道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．香席で聞く香木等の香りが心地よい

６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
香道３補問２　あなたが香道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．当初目標としていたことが達成できた
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
８．習っている内容についていけなくなった
９．指導者や教授者を引退した
10．その他（具体的に：　　）

香道４　あなたが香道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

香道５　あなたの現在の香道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場で習っている（いた）
２．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
３．学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
４．指導者や教授者として教えている（いた）
５．その他（具体的に：　　）

香道６　あなたは香道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

香道７　あなたは香道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

香道８　あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等を焚きその香りを楽しめる
２．香木等に応じた焚き方が分かる
３．香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で香道を体験した人の質問（ＦＱ２で２に回答）

香道９　あなたが香道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから勧められた・誘われた
４．学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、香道に興味関心があった
７．香道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

香道 10　あなたはどういう場で香道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
４．文化施設等で行われた体験イベント
５．自宅
６．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
７．その他（具体的に：　　）

香道 11　あなたが今後、香道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

香道 12　もし香道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

香道 13　あなたがこれまでに、香道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．興味がなかった
２．通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

香道 14　あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等の香りが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない

９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

香道 15　あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．香木等を焚きその香りを楽しめる
２．香木等に応じた焚き方が分かる
３．香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●香道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（ＦＱ２で３に回答）
香道 16　もし、あなたが香道を体験する機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
２．香道の歴史や意義を教えてくれる
３．香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
４．普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

香道 17　あなたが香道を体験する機会があった場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．行きやすい場所で体験できたら
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

香道 18　あなたがこれまでに、香道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

香道 19　あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等の香りが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

香道 20　香道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、香道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等を焚きその香りを楽しめる
２．香木等に応じた焚き方が分かる
３．香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

③和装

●着物の着付けができる人に対する質問（ＦＱ３で１に回答）

和装１　あなたが着物の着付けを習おうと思ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
２．親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
７．和装に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

和装２　あなたが着付けを習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．着付け教室で習っていた
５．着付けや美容の専門学校で習っていた
６．その他（具体的に：　　）

和装２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

和装３　現在、着物の着付けを行っていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．現在も着付けを行っている
２．現在は着付けを行っていない

＜上記で１と回答した方に＞
和装３補問１　あなたが着付けを続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい
６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
和装３補問２　あなたが着付けをしなくなったきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．着物の相談等ができる場所がなくなった
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった
８．着物を着ていくような場面や機会がなくなった
９．着崩れする、動きにくい
10．着付けに関する仕事を辞めた
11．その他（具体的に：　　）

和装４　あなたが着付けをしている（いた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満

５．10～20 年未満
６．20 年以上

和装５　あなたは現在、どのような機会に自分もしくは他者への着物の着付けをしますか（していましたか)。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)
１．普段着として着物を着る時
２．仕事着として着物を着る時
３．入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
４．初詣等の年中行事に参加する時
５．観劇の際や茶会等の催事に参加する時
６．仕事として、他者への着付けを依頼された時
７．親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時
８．その他（具体的に：　　）

和装５補問　他の方に着付けをしてもらう機会はありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．仕事着として着物を着る時
２．入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
３．初詣等の年中行事に参加する時
４．観劇の際や茶会等の催事に参加する時
５．着付けてもらうことはない
６．その他（具体的に：　　）

和装６　あなたは着物に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

和装７　あなたは着物に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満

３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

和装８　あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．季節にあわせた着物を楽しめる
２．職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
３．生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる
４．お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
５．着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●着付けはできないが着物を着たことがある人への質問（ＦＱ３で２に回答）
和装９　あなたが着物を着た（着せてもらった）きっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
２．親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
３．家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた
４．学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
７．和装に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

和装 10　あなたはどういう場で着物を着ましたか（着せてもらい）ましたか 。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭

２．初詣等の年中行事
３．観劇の際や茶会等の催事
４．旅行先の観光地
５．学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント
６．自宅
７．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
８．その他（具体的に：　　）

和装 11　あなたが今後、着物の着付けを習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．着物をはじめ必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

和装 12　もし着物の着付けを習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

和装 13　あなたがこれまでに、着物の着付けを習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．興味がなかった

２．通いやすい場所に着付け教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．着付け教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

和装 14　あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
２．日本の伝統文化を体感できる
３．伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
４．暮らし、生活を豊かにしてくれる
５．着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
６．着物を着ていくような場面がない
７．動きにくい、動くと着崩れする
８．着物等を揃えるとお金がかかる
９．着付けを覚えるのに時間がかかる
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

和装 15　あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．季節にあわせた着物を楽しめる
２．職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
３．生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる
４．お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
５．着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●着物を着ていない人への質問（ＦＱ３で３に回答）

和装 16　もし、あなたが着物を着たり、着付けを体験したりする機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる
２．基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる
３．着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる
４．着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる
５．普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる
６．その他（具体的に：　　）
７．上記の中で当てはまるものはない

和装 17　あなたが着物を着たり、着付け方を体験する機会があったりした場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら
２．旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

和装 18　あなたがこれまでに、着物を着たことがなかったり、着付けを体験したことがなかったりした事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

和装 19　あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
２．日本の伝統文化を体感できる
３．伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
４．暮らし、生活を豊かにしてくれる
５．着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
６．着物を着ていくような場面がない
７．動きにくい、動くと着崩れする
８．着物等を揃えるとお金がかかる
９．着付けを覚えるのに時間がかかる
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

和装 20　和装の魅力について、どのような説明や情報があるなら、着物を着たり、着付けを体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．季節にあわせた着物を楽しめる
２．職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
３．生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる
４．お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
５．着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

④礼法

●礼法を習っている（習っていた）者に対する質問（ＦＱ４で１に回答）

礼法１　あなたが礼法を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、礼法に興味関心があった
７．礼法に係る仕事や職業に興味関心があった

８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

礼法２　あなたが礼法を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．稽古場や教室で習っていた
５．その他（具体的に：　　）

礼法２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）
１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

礼法３　現在、礼法に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
礼法３補問１　あなたが礼法に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる
６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった

７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
礼法３補問２　あなたが礼法に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．当初目標としていたことが達成できた
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
８．習っている内容についていけなくなった
９．指導者や教授者を引退した
10．その他（具体的に：　　）

礼法４　あなたが礼法を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

礼法５　あなたの現在の礼法の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場で習っている（いた）
２．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
３．学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
４．指導者や教授者として教えている（いた）
５．その他（具体的に：　　）

礼法６　あなたは礼法に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

礼法７　あなたは礼法に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

礼法８　あなたが礼法の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
２．相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
３．礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で礼法を体験した人に対する質問（ＦＱ４で２に回答）

礼法９　あなたが礼法を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから勧められた・誘われた
４．学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、礼法に興味関心があった
７．礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

礼法 10　あなたはどういう場で礼法を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．教室や稽古場等で開かれた体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
４．文化施設等で行われた体験イベント
５．自宅
６．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
７．その他（具体的に：　　）

礼法 11　あなたが今後、礼法を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

礼法 12　もし礼法を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

礼法 13　あなたがこれまでに、礼法を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．興味がなかった
２．通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

礼法 14　あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない

９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

礼法 15　あなたが礼法で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
２．相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
３．礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●礼法を経験したことがない者に対する質問（ＦＱ４で３に回答）
礼法 16　もし、あなたが礼法を体験する機会があった場合、どういう内容であれば参加をしてみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる
２．礼法の歴史や意義を教えてくれる
３．礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる
４．普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

礼法 17　あなたが礼法を体験する機会があった場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．行きやすい場所で体験できたら
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

礼法 18　あなたが礼法を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

礼法 19　あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

礼法 20　礼法の魅力について、どのような説明や情報があるなら、礼法を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
２．相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
３．礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

⑤盆栽

●盆栽を経験した者に対する質問（ＦＱ５で１に回答）

盆栽１　あなたが盆栽を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
３．友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた
４．学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、盆栽に興味関心があった
７．盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

盆栽２　あなたが盆栽を始めた時、次のうちどのような方法で育て方や剪定の方法を学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
２．盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．盆栽園で教えてもらっていた
５．雑誌や専門書等を見て学んでいた
６．ウェブサイトや YouTube 等を見て学んでいた
７．その他（具体的に：　　）

盆栽２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
８．本格的にやってみたかった
９．手軽にやってみたかった
10．その他（具体的に：　　）

11．特に理由はない、わからない

盆栽３　現在、盆栽を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
盆栽３補問１　あなたが盆栽を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．盆栽園を営みたい（営んでいる）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい
５．盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）
６．暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方＞
盆栽３補問２　あなたが盆栽から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった
３．手入れ等の相談をできる場所がなくなった
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
８．盆栽園を閉鎖した
９．その他（具体的に：　　）

盆栽４　あなたが盆栽を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満

４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

盆栽５　あなたの現在の盆栽に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）
２．盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）
３．盆栽を盆栽展に出品している（いた）
４．盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）
５．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
６．盆栽園を営んでいる（いた）
７．講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）
８．その他（具体的に：　　）

盆栽６　あなたは盆栽に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

盆栽７　あなたは盆栽を育てるにあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満

11．50,000 円以上

盆栽８　あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
２．盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
３．樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
４．盆栽を育てる中で感じられる四季等
５．盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で盆栽体験をしたことがある方への質問（ＦＱ５で２に回答）

盆栽９　あなたが盆栽体験をしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
３．友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた
４．学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した
７．盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

盆栽 10　あなたはどういう場で盆栽体験をしましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．文化施設等で行われた体験イベント
４．自宅
５．自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験
６．その他（具体的に：　　）

盆栽 11　あなたが今後、盆栽を育てる機会があった場合、どのような状況だと育てやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら
２．知人、家族と一緒に育てることができたら
３．通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
７．その他（具体的に：　　）
８．わからない

盆栽 12　もし盆栽を始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

盆栽 13　あなたがこれまでに盆栽を育てていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．興味がなかった
２．通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった
３．始めるための費用が確保できなかった
４．盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった
５．一緒にやってくれる人がいない
６．盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった
７．植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う
８．盆栽を育てて管理できる場所がない
９．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10．自分の趣味と合わない

11．その他（具体的に：　　）

盆栽 14　あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．剪定や育成等が難しい
５．盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
６．植物を扱うのは容易ではない
７．道具等にお金がかかる
８．育て始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

盆栽 15　あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
２．盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
３．樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
４．盆栽を育てる中で感じられる四季等
５．盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●盆栽体験をしていない方への質問（ＦＱ５で３に回答）

盆栽 16　もし、あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる
２．盆栽の歴史や意義を教えてくれる
３．盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる
４．普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

盆栽 17　あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

盆栽 18　あなたがこれまでに盆栽体験をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

盆栽 19　あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．剪定や育成等が難しい
５．盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
６．植物を扱うのは容易ではない
７．道具等にお金がかかる
８．育て始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）

11．特に印象はない、わからない

盆栽 20　盆栽の魅力について、どのような説明や情報があるなら、盆栽を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
２．盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
３．樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
４．盆栽を育てる中で感じられる四季等
５．盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

⑥錦鯉

●錦鯉の飼育を経験した者に対する質問（ＦＱ６で１に回答）

錦鯉１　あなたが錦鯉の飼育を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
２．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
３．友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
４．学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった
７．錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉２　あなたが錦鯉の飼育を始めた時、次のうちどのような方法で設備や飼育の仕方について学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
２．錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた
３．養鯉場で教えてもらっていた
４．雑誌や専門書等を見て学んでいた
５．ウェブサイトや YouTube 等を見て学んでいた
６．その他（具体的に：　　）

錦鯉２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）
１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．通いやすい時間帯だった
５．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
６．雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
７．本格的にやってみたかった
８．手軽にやってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

錦鯉３　現在、錦鯉の飼育を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
錦鯉３補問１　あなたが錦鯉を飼育し続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．養鯉場を営みたい（営んでいる）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．錦鯉の飼育や選別など、奥深い文化をもっと知りたい
５．錦鯉に愛着が湧いた（飼育が純粋に楽しい）
６．暮らし、生活の一部となった（飼育や観賞をすることが生きがいとなった）
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方＞
錦鯉３補問２　あなたが錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった
３．飼育等の相談をできる場所がなくなった
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった

６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
８．養鯉場を閉鎖した
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉４　あなたが錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

錦鯉５　あなたの現在の錦鯉に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．自宅等の池で飼育している（いた）
２．自宅等の水槽で飼育している（いた）
３．養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）
４．錦鯉の品評会に出品している（いた）
５．錦鯉の養鯉場を営んでいる（いた）
６．その他（具体的に：　　）

錦鯉６　あなたは錦鯉の飼育に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

錦鯉７　あなたは錦鯉の飼育にあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１万円未満
２．１万円以上～５万円未満

３．５万円以上～10 万円未満
４．10 万円以上～50 万円未満
５．50 万円以上～100 万円未満
６．100 万円以上

錦鯉８　あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．飼育をしていくことで、変化する模様
２．飼育していくための技術
３．種類によって異なる多様な色彩や模様
４．錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
５．錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で錦鯉の体験や観賞を経験した方への質問（ＦＱ６で２に回答）
錦鯉９　あなたが錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
２．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
３．友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
４．学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として錦鯉に興味関心があり、品評会等で観賞した
７．錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉 10　あなたはどういう場で錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会
２．学校や職場で飼育されていた
３．公園や庭園、文化施設等でのイベント
４．自宅
５．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験

６．その他（具体的に：　　）

錦鯉 11　あなたが今後、錦鯉を飼育する機会があった場合、どのような状況だと飼育をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら
２．知人、家族と一緒に飼育できたら
３．通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら
４．飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
５．その他（具体的に：　　）
６．わからない

錦鯉 12　もし錦鯉を飼育し始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１万円未満
２．１万円以上～５万円未満
３．５万円以上～10 万円未満
４．10 万円以上～50 万円未満
５．50 万円以上～100 万円未満
６．100 万円以上

錦鯉 13　あなたがこれまでに錦鯉の飼育をしていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．興味がなかった
２．通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった
３．始めるための費用が確保できなかった
４．錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった
５．一緒にやってくれる人がいない
６．錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった
７．生物の扱いが難しいと思う
８．錦鯉を飼育できる場所や設備がない
９．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10．自分の趣味と合わない
11．その他（具体的に：　　）

錦鯉 14　あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉の飼育や観賞が楽しめる

２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．飼育の方法等が難しい
５．錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
６．生物を扱うのは容易ではない
７．設備等にお金がかかる
８．飼育し始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

錦鯉 15　あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．飼育をしていくことで、変化する模様
２．飼育していくための技術
３．種類によって異なる多様な色彩や模様
４．錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
５．錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●錦鯉の飼育を経験していない方への質問（ＦＱ６で３に回答）
錦鯉 16　もし、あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる
２．錦鯉の歴史や意義を教えてくれる
３．錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる
４．普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

錦鯉 17　あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．錦鯉の品評会や即売会が身近で行われていれば
３．手ごろな参加費で参加できたら

４．公園や庭園、文化施設等で観賞できたら
５．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．その他（具体的に：　　）
８．わからない

錦鯉 18　あなたがこれまでに錦鯉の観賞体験等をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉 19　あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉の飼育や観賞が楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．飼育の方法等が難しい
５．錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
６．生物を扱うのは容易ではない
７．設備等にお金がかかる
８．飼育し始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

錦鯉 20　錦鯉の魅力について、どのような説明や情報があるなら、錦鯉の飼育や観賞を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．飼育をしていくことで、変化する模様
２．飼育していくための技術
３．種類によって異なる多様な色彩や模様

４．錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等

５．錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる

６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている

７．その他（具体的に：　　）

８．上記の中で当てはまるものはない

（４）共通設問

共通１　あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。あてはまるもの全てにチェックをお願いします。（いくつでも）

スポーツ（観戦除く）

１．ジョギング・マラソン	２．ウォーキング	３．体操（器具を使わないもの）
４．トレーニング	５．エアロビクス、ジャズダンス	６．卓球
７．バトミントン	８．キャッチボール・野球	９．ソフトボール
10．サイクリング・サイクルスポーツ	11．アイススケート	12．ボウリング
13．サッカー	14．フットサル	15．バレーボール
16．バスケットボール	17．水泳（プールでの）	18．柔道・剣道・空手などの武道
19．ゲートボール	20．ゴルフ（コース）	21．ゴルフ（練習場）
22．パークゴルフ・グラウンドゴルフなどの簡易ゴルフ	23．テニス	24．乗馬
25．スキー	26．スノーボード	27．釣り
28．スキンダイビング・スキューバダイビング	29．サーフィン・ウィンドサーフィン	30．ヨット・モーターボート
31．カヌー・ラフティング	32．ハンググライダー・パラグライダー	

趣味・創作

33．文芸の創作（小説、詩、和歌、俳句など）	34．写真の制作	35．動画の制作・編集
36．動画鑑賞（レンタル、配信を含む）	37．コーラス	38．洋楽器の演奏
39．邦楽、民謡	40．絵を描く、彫刻をする	41．陶芸
42．趣味工芸（組ひも、ペーパークラフト、革細工など）	43．模型づくり	44．日曜大工
45．園芸、庭いじり	46．編物、織物、手芸	47．洋裁、和裁
48．料理（日常的なものは除く）	49．スポーツ観戦（テレビは除く）	50．映画（テレビは除く）
51．観劇（テレビは除く）	52．演芸鑑賞（テレビは除く）	53．音楽会、コンサートなど
54．音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	55．美術鑑賞（テレビは除く）	56．書道
57．お茶	58．お花	59．おどり（日舞など）

60．洋舞、社交ダンス	61．学習・調べもの	62．読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）
63．ファッション（楽しみとしての）		

娯楽

64．囲碁	65．将棋	66．トランプ、オセロ、カルタ、花札など
67．カラオケ	68．テレビゲーム（家庭での）	69．ゲームセンター、ゲームコーナー
70．ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	71．麻雀	72．ビリヤード
73．パチンコ	74．宝くじ	75．サッカーくじ（toto）
76．中央競馬	77．地方競馬	78．競輪
79．ボートレース（競艇）	80．オートレース	81．外食（日常的なものは除く）
82．バーベキュー	83．バー、スナック、パブ、飲み屋	84．クラブ、キャバレー
85．ディスコ	86．サウナ	87．温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）

観光・行楽

88．遊園地	89．ドライブ	90．ピクニック・ハイキング・野外散歩
91．登山	92．オートキャンプ	93．フィールドアスレチック
94．海水浴	95．動物園、植物園、水族館、博物館	96．催し物、博覧会
97．帰省旅行	98．国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	99．海外旅行

その他

100．複合ショッピングセンター、アウトレットモール	101．ウィンドウショッピング	102．クルージング（客船による）
103．エステティック、ホームエステ	104．ペット（遊ぶ、世話をする）	105．農園（市民農園など）
106．ボランティア活動	107．SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	108．ヨガ、ピラティス
109．自由記述（具体的に：　　）	110．特に何もしていない	

※上記の選択肢は『レジャー白書2021』の調査種目を参照し作成したものである。なお、一部分野については『レジャー白書2021』で「その他」に分類されていた部門から異なる部門への分類を行っている。

共通２　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。（１つ）

１．5,000 円未満　　２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満　　４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満　　６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満　　８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満　　10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

共通３　あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。（いくつでも）

１．平日午前　　２．平日午後　　３．平日夕方　　４．平日夜間
５．休日午前　　６．休日午後　　７．休日夕方　　８．休日夜間

共通４　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。（１つ）

１．１時間未満　　２．１時間以上～２時間未満　　３．２時間以上～３時間未満
４．３時間以上～４時間未満　　５．４時間以上～５時間未満　　６．５時間以上～６時間未満
７．６時間以上～７時間未満　　８．７時間以上～８時間未満　　９．８時間以上～９時間未満
10．９時間以上～10 時間未満　　11．10 時間以上

共通５　下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。（いくつでも）

１．自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい
２．周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい
３．チャンスと感じたら逃したくない
４．リスクはできるだけ避けたい
５．家族や友人・知人の役に立ちたい
６．環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい
７．困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい
８．周りの人から注目されたい
９．集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ
10．その時・その場でしか得られない体験をしたい
11．流行りのものは試してみたい
12．流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい
13．買ったものや、気持ちを発信したい
14．自分が発信したものに反応が欲しい
15．上記であてはまるものはない

※上記の選択肢は令和３年度実施の消費者庁「消費者意識基本調査」の調査票問６の選択肢を引用したものである。

共通６　下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。（いくつでも）

１．テレビ（民放の地上波・BS）
２．テレビ（NHK の地上波・BS）
３．CATV や衛星放送のチャンネル
４．ラジオ（インターネット経由を除く）
５．新聞（電子版含む）
６．雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）
７．インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）
８．動画投稿サイト（YouTube、TikTok など）
９．SNS(Twitter、LINE、Instagram、Facebook、note など）
10. 紙の書籍
11. 電子書籍
12. 紙のマンガ／マンガ雑誌
13. 電子版のマンガ
14. 有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Hulu など）
15. 上記のメディアはあまり見ていない

参考資料　盆栽団体調査アンケート配布先

No.	団体名
1	一般社団法人日本盆栽協会
2	日本盆栽協同組合
3	公益社団法人全日本小品盆栽協会
4	日本小品盆栽組合
5	一般社団法人日本皐月協会
6	日本皐月協同組合
7	一般社団法人日本盆栽作家協会

令和５年度「生活文化調査研究事業（盆栽）」報告書

発　　行　　日　令和６年５月３１日
修正版発行日　令和８年２月２８日
発　　行　文化庁　参事官（生活文化創造担当）
〒602-8959
京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町 85-4
〈受託事業者〉
株式会社 文化科学研究所
〒151-0053　東京都渋谷区代々木 1-43-7 光ビル 4F